

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 18

平成14年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2004年3月

序

鹿児島大学キャンパスには、後期旧石器時代から近代までの、貴重な遺跡が包蔵されていることが、鹿児島大学埋蔵文化財調査室の発掘調査によって、次第に明らかにされています。その成果は、これまでに埋蔵文化財調査室年報（Vol.1・17）として逐次報告されてきました。

今回、平成14年度の調査結果の報告として、鹿児島大学調査室年報 Vol.18 を刊行いたします。平成14年度には郡元キャンパスにおいて発掘調査3件、立会い調査23件、桜ヶ丘キャンパスにおいては、立会い調査1件が行われました。本年報には、それらの調査研究の成果の概要が掲載されています。

特に郡元キャンパスにおいては、注目すべき成果がでています。理学部改修地では、弥生時代前期末から中期初頭にかけての、一定の規模をもった集落の存在が、環濠らしき大溝の存在から想定されており、それに西接した地点、理工系総合研究棟建築に伴う調査では、弥生時代前期ごろから、水田を営んでいたことが判明しました。鹿児島ではほとんどない、生産域と居住域の有機的関係が分かる貴重な遺跡なのです。この地では、この関係性はいったん途絶え、古墳時代後半期には再び行われます。今後の資料の整理・研究によって、その詳細が明らかになることを期待しています。

また、VBL棟建設地においては、河川跡が検出され、最下部には弥生時代後期の木杭列が検出されており、これは水田に水を引くための灌漑施設、合掌型堰である可能性がでてきました。当時から河川を利用した生産体系を持っていたこととなります。この形状の堰も県内では初めての検出例であり、弥生時代後期に属するとすると、全国的にも珍しい例となります。

また、付編1としては、平成4年度から翌年度に行われた郡元団地L-6区（中央図書館増築地）の発掘調査も掲載しております。ここでは、郡元キャンパス内における古墳時代後半期の、当時の定住域とはやや離れた箇所の住居跡が検出されました。当時の居住における選地・占地条件を考えるうえでの貴重な遺跡です。

付編2は、中央図書館増築地第1次調査における、土壌プラント・オパール定量分析により、古墳時代後半期ごろのある段階には、畑栽培による稲作が行われ、その後、湿潤な環境となり、水田稲作が営まれていたものと分析されております。

現在、キャンパス内では、研究、教育の発展に伴って、多くの建物の建築や周辺整備などが行われ、それに先立って必要な埋蔵文化財の発掘調査が行われています。しかし、年々増加する発掘調査や埋蔵物に対する調査および研究体制、保管体制が十分でないのが現状です。特に、従来から言われているように、遺跡から出土する膨大な量の遺物の保管場所の確保は困難を極めています。また、迅速な調査および研究を遂行するためのスタッフの数も十分とは言えないのが現状です。独立行政法人化後も、これらの貴重な大学の財産、ひいては国民の財産としての埋蔵文化財の調査、および研究を行うための体制の実現について、重ねて全学的なご理解、ご支援をお願いする次第です。

最後に、埋蔵文化財調査室のスタッフによる精力的かつ地道な調査・研究の積み重ねにより、このような立派な年報にまとめられたことに対し、感謝の意を表したいと存じます。

平成16年2月

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会
委員長 佐々木 修

例言

1. 本年報は、鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が2002(平成14)年度に行なった調査活動の成果をまとめたものである。
なお、1992・1993(平成4・5)年度に行った郡元団地L-6区(図書館増築地A・B地点)における発掘調査報告を付編1として掲載した。付編2には、郡元団地L-6区(図書館増築地A地点)の土壌プラント・オパール定量分析の結果報告を掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面・写真の担当は以下の通りである。
2: 中村直子・新里貴之・松本益幸(王力明)・有村航平・安座間充・鮎川章子・興梠真利子・新原和子・吉永幸子
付編: 中村・古澤生・大西智和・峰山いずみ・鮎川章子・池口洋人・今村知子・上地浩・小原愛・甲斐光代・坂本裕子・前幸男・趙国興・中村由美子・西中川泉・西谷彰・星野恵美・横手浩二郎
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。
実測(2: 中村直子, 付編: 有村航平・青山奈緒)
写真(中村・青山)
製図(1: 新里貴之, 2: 中村, 付編: 新里・中村・青山)
作表(1: 新里, 2: 中村, 付編: 有村・新里・中村)
執筆(1: 新里, 2: 中村, 受贈図書: 有村, 付編: 新里)
概要訳文(新里)
編集(新里)
4. 郡元団地L-6区(中央図書館増築地A・B地点)の出土遺物について、陶磁器は、渡辺芳郎氏(鹿児島大学法文学部)、石器については、横手浩二郎氏(鹿児島県立埋蔵文化財センター)の、石材については大塚裕之氏(鹿児島大学総合研究博物館)にご教授をいただいた。X線写真については、永濱功治氏(鹿児島県立埋蔵文化財センター)の、住居跡内の赤色顔料の分析については、大久保浩二氏(現・川内市立隈之城小学校教諭)にご協力をいただいた。また、付編2のプラントオパール定量分析については、藤原宏志氏(宮崎大学)の玉稿を賜った。サマリーは、新田栄治(鹿児島大学埋蔵文化財調査室長)が校正した。
5. 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地(旧宇宿団地)とに設定した。その設置基準は、以下の通りである。
 - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系(X=-158.200, Y=-42.400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig.3参照)。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系(X=-161.600, Y=-44.400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig.4参照)。
- 2 本年報において報告を行なった地点については、一部の立会調査地点を除き、Fig.2~4にその位置を記してある。
- 3 本年報におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。
SK：土坑状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット
- 5 2・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
- 6 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。
調整：調整名称の前の()は、調整方向を表す。(—);横位方向, (|);縦位, (＼);左上がりの斜位, (／);右上がりの斜位, (?);方向不明, とした。→は、調整の新旧関係を表す。
色調：『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修)を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
胎土：粒子の大きさで、礫(2mm～)・粗砂粒(1～2mm)・砂粒(0.2～1mm)・細砂粒(0.2mm以下)に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものは、その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上, 8：15～20%, 7：15%前後, 6：10～15%, 5：10%前後, 4：5～10%未満, 3：5%前後, 2：1～5%未満 1：1%以下, とした。
サイズ：復元によるサイズは、()をつけた。
- 7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。

1 平成14年度(2002年4月-2003年3月)の調査概要

平成14(2002)年度は、発掘調査が郡元団地で3件行われた。立会調査は、郡元団地で23件、桜ヶ丘団地で1件、行われた。

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾(錦江湾)が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。本書に掲載する調査地点は、鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で、それぞれを、「鹿児島大学構内遺跡郡元団地」、「同、桜ヶ丘団地」と呼んでいる。

郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mを測る。従来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、付属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡も郡元団地内の遺跡である¹⁾。郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見され、現在、3つの集住地域が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部、もう一つは南西部で、いずれも微高地上に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川流路が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ、構内ではまだ発見されていないが、古墳時代の包含層中には多量のイネのプラント・オパールが含まれており²⁾、稲作が継続的に行われていたことがわかる。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し、標高約70mを測る。昭和60年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは、鹿児島大学構内遺跡宇宿団地と呼称していたが、キャンパス名の変更に伴い、桜ヶ丘団地と呼ぶ。近隣の台地上には、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており、桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また、縄文時代早期、弥生時代前期・終末期の住居跡も確認されている³⁾。

1.2 調査概要(Tab.1)

2001-2 郡元団地J-7・8区(理学部改修地)

理学部改修地は、理学部1号館の中庭に位置する。平成14年3月2日より、調査を開始し、9月13日に終了した。しかし、大学施設部の工事範囲変更により、改めて

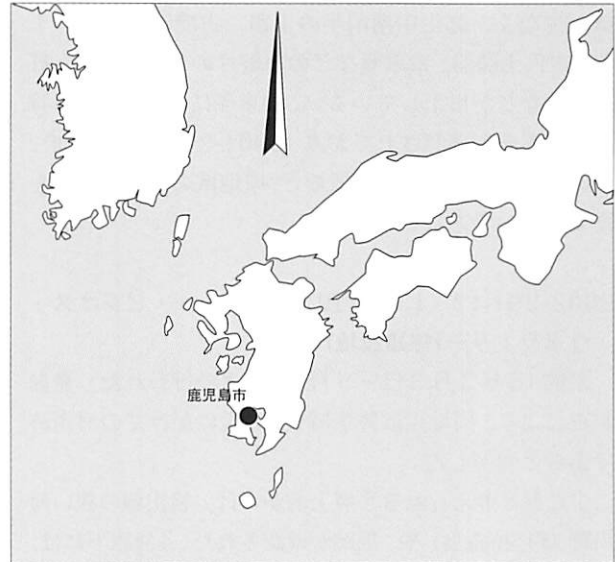


Fig.1 鹿児島市の位置

9月17日から調査を行い、10月18日に調査を終了した。

同地点は、古墳時代後半期の住居跡を中心に、溝、土坑など約80基の遺構群が検出され、古墳時代の集落が一定期間占地していることを示している。

また、この古墳時代の集落跡の、層位的下位のレベルより、環濠状の溝が検出され、その溝内より弥生時代前期末-中期初頭の土器がまとまって出土した。土器は、甕・壺・高坏・鉢などで、未だ資料的にデータの少ない同期の編年研究に大いに寄与するものである。さらに、古墳時代方形住居群の下位より、円形住居跡が検出されたが、その床面炭化物の放射性炭素年代測定により、弥生時代終末期頃のものであるとの結果がでている。

古墳時代の住居跡には、数パターンの炉のつくりかたや屋内炉内埋設土器の器種選定、住居の廃棄パターンなど、今後の詳細な研究が必要であり、そのデータを蓄積することのできる重要な遺跡である。

2002-1 郡元団地J-K-9・10区(理工系総合研究棟建設地)

理工系総合研究棟は、便宜的に総合研究棟IIと呼んでいた箇所である。平成14年度4月20-10月31日、同年12月11日-平成15年2月20日まで継続して行なわれた。中断理由は、大学施設部による建物の縄張り設計変更によるものであった。

発掘調査では、弥生時代～古墳時代にかけての生産遺跡と判断された。弥生時代前期と考えられる畦状遺構、同中期前半の水田跡(溝状遺構6条・小ピット群)、古墳時代後半期の溝状遺構1条とピット群、古代の「波板

1 平成12年度の調査概要

状遺構」などが検出されている。弥生時代前期～中期の土層からは、イネのプラント・オパールが多量に確認され、水田を行っていたものと推定される。遺物は、出土量が少なく、弥生中期前半の土器、古墳時代後半の土器、古代土師器、須恵器などの小破片のほかに磨製・打製石鏃などが出土している。この東側に隣接して、同時期の集落跡が確認されており(2001-2理学部改修地)、生活域との有機的空間配置など、同地域の生活の一端を窺えるものであるといえる。

2002-2(H-12・13区VBL[ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー]棟建設地)

平成15年3月3日～8月29日まで行われた。発掘調査により、同地点は弥生時代-近代にかけての河川跡であると判明した。

中近世と考えられる2層上面からは、検出幅の狭い河川跡(約3m程度)や、畑跡が確認された。4層以下には、切り合い関係から見て、数回の濁流を伴う河川跡が確認されたが、これらは5m以上の幅である。最下位の泥炭層に突き刺さる形で、数条の木杭列が確認された。そのうちの1本を放射性炭素年代測定した結果、「cal.130AD」と

された。木杭列の配置とその傾きからは、合掌型堰である可能性があり、河川を利用した灌漑施設を設けていたと思われる。また、古墳時代前期のある段階に東原式の甕を破砕し、埋めた遺構も確認された。河川沿いでの祭祀行為である可能性が高い。縄文時代前期末-中期初頭の深浦式や晩期の黒川式、石匙などは、かなり水磨を受けており、上流から流れてきたものであろう。刻目突帯文土器-古代の土器は、完形品に近い形で出土することが多く、特に弥生時代後期-終末期の土器は完形率が高い。石鏃や三角形の石庖丁も確認されている。また、弥生時代前期-中期頃にかけての土層からはイネのプラント・オパールやムギが検出されている。当時、この河川を利用した、生産体系が確立されていたと考えられる。

註

- 1)松永幸男1986「第II章 鹿児島大学構内遺跡の位置と環境」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』1 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 2)付編2 参照
- 3)新里貴之2002「付編 桜ヶ丘団地1-8区(難治性ウイルス疾患研究センター増築地)の発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』16 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

Tab.1 平成12年度調査一覧

種類	調査コード	地区	調査	期間
発掘調査	2001-2	J-7・8区	郡元団地 理学部改修に伴う発掘調査	2002年3月2日～9月13日, 9月17日～10月18日
	2002-1	J-K-9・10区	郡元団地 理工系総合研究棟(総合研究棟II)建設に伴う発掘調査	2002年4月20日～10月31日, 12月11日～2003年2月20日
	2002-2	H-12・13区	郡元団地 VBL(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)棟建設に伴う発掘調査	2003年3月3日～8月29日
立会調査	2002-A	I-6区	郡元団地 漏水確認掘削工事に伴う立会調査(消火栓)	2002年10月24日
	2002-B	I-8～10区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(消火栓)	2002年5月22日
	2002-C	J-K-8・9区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(電柱)	2002年7月22日
	2002-D	J-K-8～10区	郡元団地 理学部校舎改修その他機械工事に伴う立会調査(ガス管)	2002年7月18日～8月8日
	2002-E	J-K-7区	郡元団地 理学部校舎新営その他機械設備工事に伴う立会調査(配水管)	2002年8月29日～9月18日
	2002-F	I-8・9区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(電気配管)	2002年9月18日～10月23日
	2002-G	J～L-10区	郡元団地 理工系総合研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査(電気配管)	2002年11月1日～9日
	2002-H	J-K-10区	郡元団地 理工系総合研究棟新営機械設備工事に伴う立会調査(給排水管)	2002年12月9日～12月11日
	2002-I	J-7区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(スロープ階段)	2002年12月10日(既掘部)
	2002-J	D-4区	郡元団地 高倉看板設置工事に伴う立会調査(看板設置)	2002年12月10日
	2002-K	J-8区	郡元団地 理学部校舎改修その他機械設備工事に伴う立会調査(排水管)	2002年12月11日
	2002-L	K-7区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(樹木移植)	2002年12月26日(既掘部)
	2002-M	J-8区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(整地)	2003年1月21日(既掘部)
	2002-N	I-7区	郡元団地 理学部講義棟改修工事に伴う立会調査(階段基礎)	2003年1月22日
	2002-R	J-7区	郡元団地 理学部校舎改修工事に伴う立会調査(階段撤去)	2003年2月4日(既掘部)
	2002-O	E-8区	桜ヶ丘団地 基幹整備工事に伴う立会調査(厨房改修)	2003年2月12日(既掘部)
	2002-P	F-8区	郡元団地 農学部実験ガス管理工事に伴う立会調査(ガス管)	2003年2月27日
	2002-Q	J-8区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(外灯設置)	2003年3月11日(既掘部)
	2002-S	K-8区	郡元団地 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査(噴水)	2003年3月17日
	2002-T	I-7区	郡元団地 理学部講義棟改修機会整備工事に伴う立会調査(ガス管)	2003年3月18日
2002-U	K-8区	郡元団地 理学部校舎改修工事その他電気設備工事に伴う立会調査(電気配管)	2003年3月19日	
2002-V	D-10区	郡元団地 農学部資源有機物リサイクル場設置工事に伴う立会調査(基礎埋設)	2003年3月20日	
2002-W	M～O-6・7区	郡元団地 教育学部幹線並木設備工事に伴う立会調査(樹木移植)	2003年3月20・21日	
2002-X	F-8区	郡元団地 埋設土実験に伴うガス管布設工事に伴う立会調査(ガス管)	2003年3月24日	



Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置(S=1/50000)

1 平成12年度の調査概要

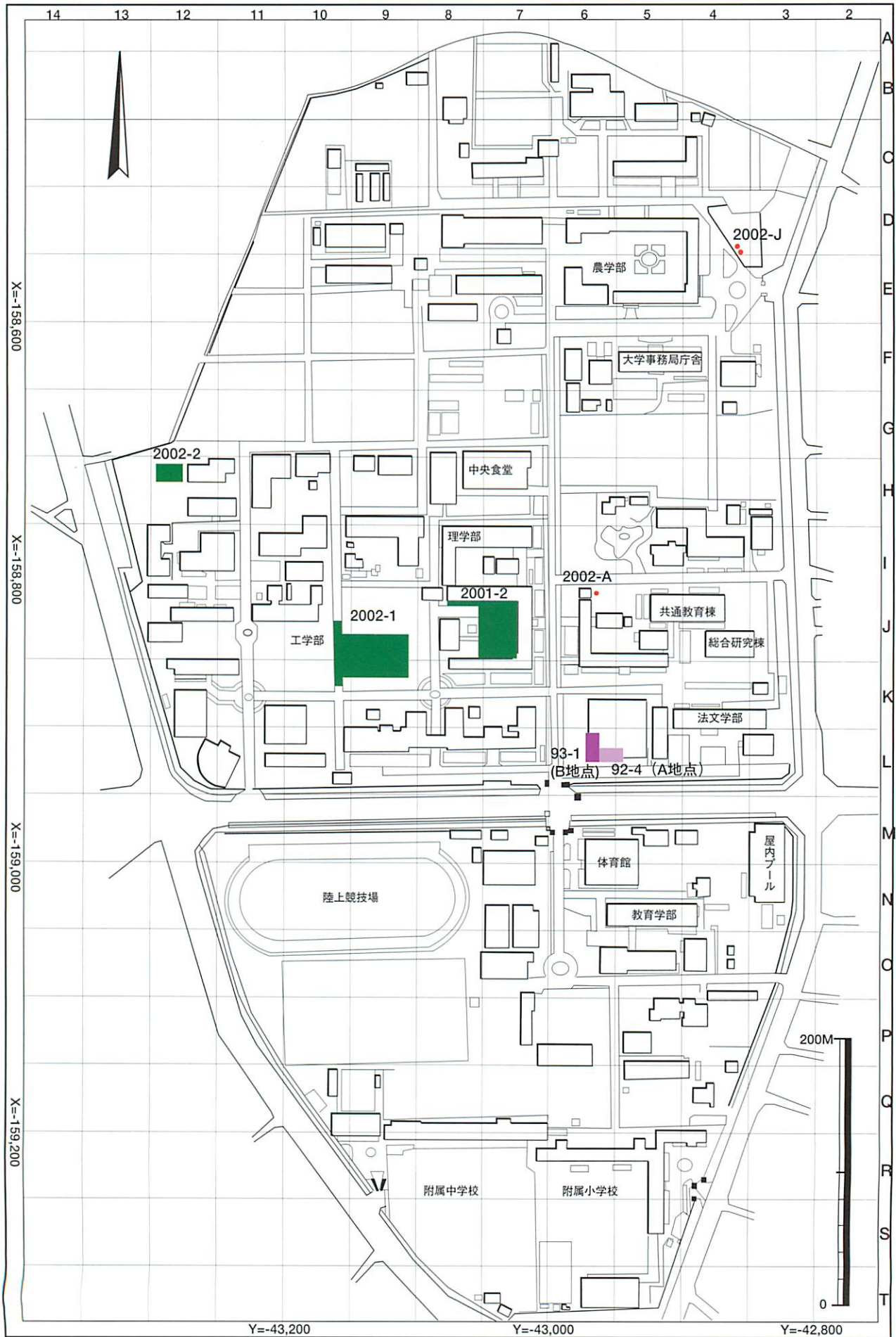


Fig.3 郡元団地構内図(S=1/4000)

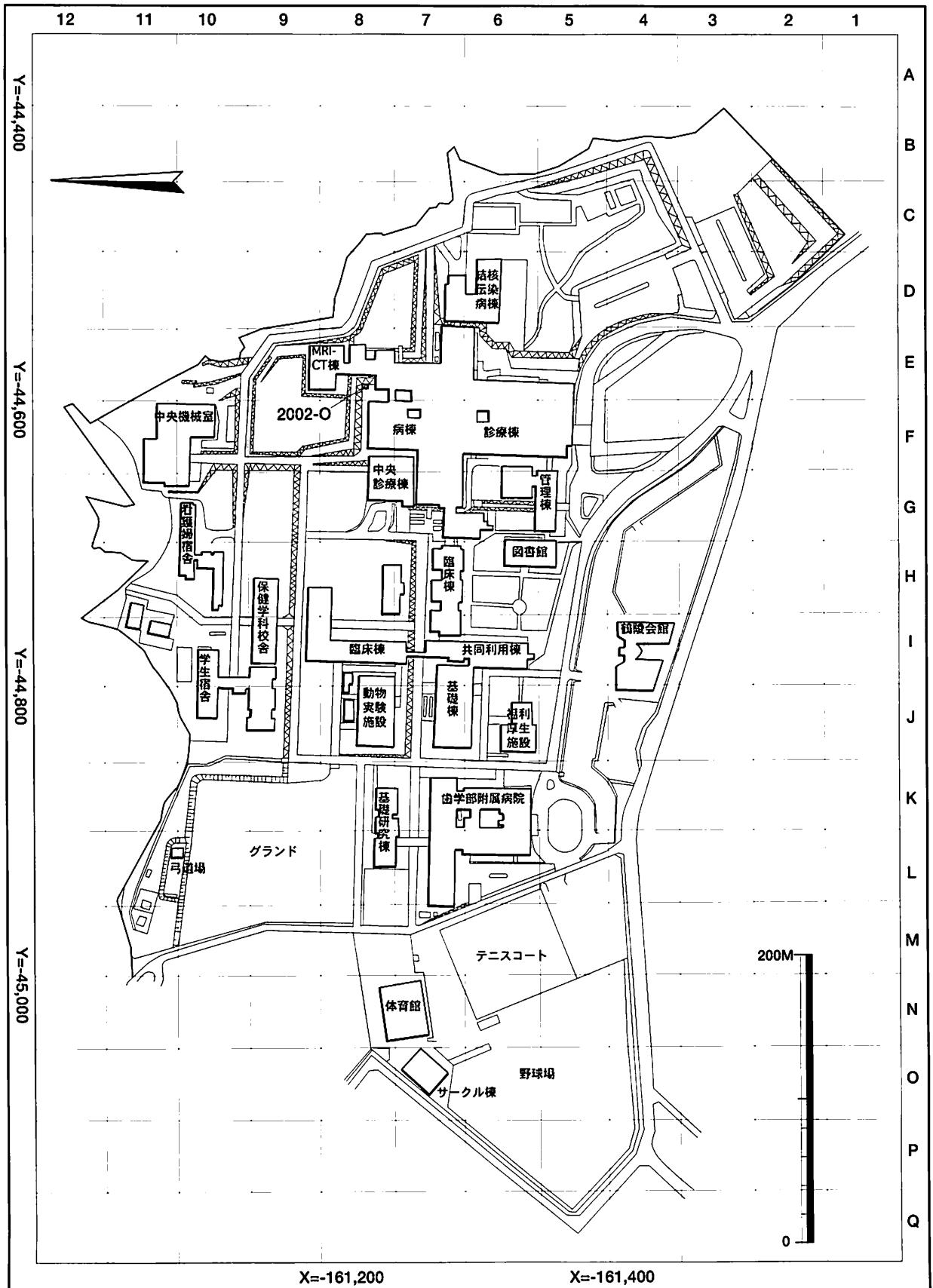


Fig.4 桜ヶ丘団地構内図(S=1/4000)

2 平成14年度(2002年4月-2003年3月)の立会調査

1章のTab.1にあるように、平成14年度は24件の立会調査を実施した。団地別に見ると、郡元団地23件、桜ヶ丘団地1件で、なかでも理工系総合研究棟建設に伴う立会調査が多かった。これらのうち、2002-I・2002-L・2002-M・2002-N・2002-P・2002-Q・2002-Rは掘削が表土層および既掘部の範囲でおさまっており、埋蔵文化財への影響はなかった。

以下、プライマリーな土層が確認されたものについて、立会調査ごとに説明す

2002-A 漏水確認掘削工事に伴う立会調査 (Fig.3 構内図)

調査地点 共通教育棟1号館北側車庫近く(郡元団地I-6区)

調査期間 2002年10月24日

本学総合研究博物館の橋本達也氏より掘削工事を行っている旨、連絡があったので、埋蔵文化財調査室員が工事地点に向いたところ、消火栓漏水のため掘削工事を行っていた。工事に立会っていた施設部設備課職員に学内掘削工事の際には埋蔵文化財調査室の立会調査が必要であることを説明し、急遽、立会調査を実施した。

掘削場所は1カ所で、1×0.6mの面積を地表下75cmにわたって掘削した。基本層位として、1-4層までを確認

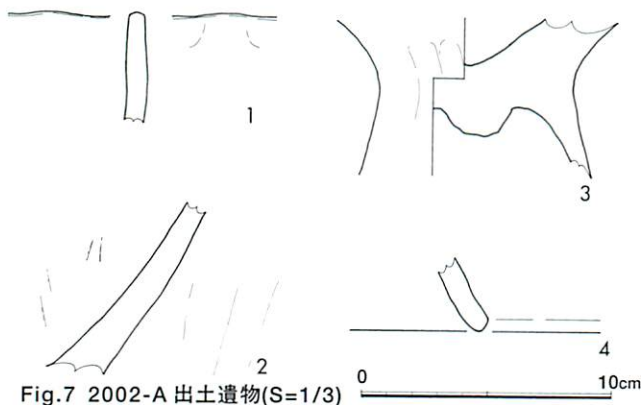


Fig.7 2002-A 出土遺物(S=1/3)

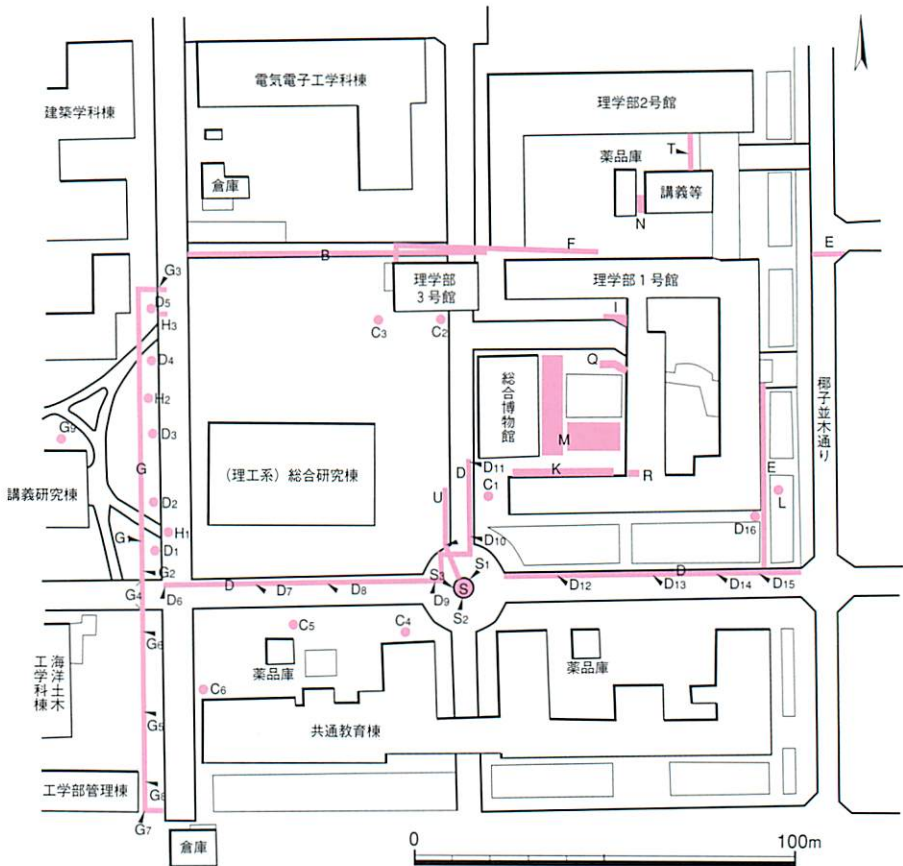


Fig.5 立会調査区の位置(S=1/2000)

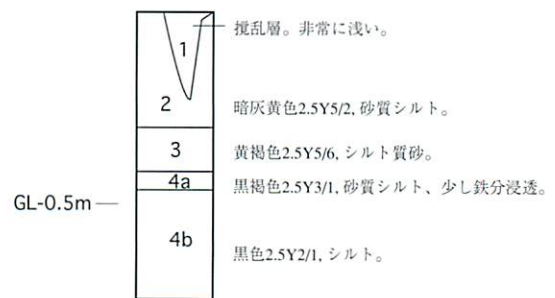


Fig.6 A 土層柱状図



PL.1 2002-A 出土遺物

Tab.2 2002-A 遺物観察

No.	層	器種	部位	色調	混和材	混和材の 多さ	調整	備考
1	4層	甕	口縁部	外面:淡黄色2.5Y8/1を基調とするが、煤のため黒。内面:灰白色2.5Y8/2と灰色5Y5/1(黒斑)	礫:石英,粗砂・砂粒:石	3	外面:ナデ,内面:ナデ(\\)	外面:スス付着
2	4層	甕	胴部下半	外面:灰黄色7.5Y7/2とにぶい橙色2.5Y6/4(加熱部分)。内面:にぶい橙色7.5Y6/4。	礫:赤色粒,粗砂粒・砂粒:赤色粒・角せん石・白色粒。細砂粒を含む。	3	外面:板状の工具によるナデ()。内面:ハケ(-)のちナデ。	外面:スス付着,二次的加熱を受けている
3	4層	甕	脚台付近	外面:赤橙色10R6/6,脚部内面:橙色7.5Y6/6,体部内面:黄灰色2.5Y6/1。	礫:石英,粗砂粒・砂粒:石英・白色粒・黒色粒。	3	外面:ユビナデ(),脚部内面:粗雑なナデ(-),体部内面:ハケ(-)→ナデ。	外面:二次的加熱を受けている。
4	4層	甕	脚台	外面:にぶい黄橙色10R7/4,内面:橙色5Y6/6。	粗砂粒:赤色粒,砂粒:赤色粒・石英・黒色粒。	3		

したが、4層は古墳時代の包含層で、古墳時代の土器片が多く出土した。

出土遺物は土器片だけだったが、図示できたものは4点だった (Fig.7,Tab.2,PL.1)。いずれも、甕の破片である。1は口縁部であるが、直口形の器形を呈すると推定できる。粗雑なつくりで、口唇部はユビオサエによって歪んでいる。2は、脚台近くで胴部下半の破片である。比較的丁寧なナデ調整によって仕上げられている。3は脚台付近の破片で、脚端部は欠損している。脚台内面天井部には、突起が付けられている。突起にはユビオサエや爪の痕が明瞭で、摘まみ上げて整形したと考えられる。4は、脚端部で、若干外反する器形を呈する。1, 3は篋貫式である可能性が高いので、これらは古墳時代後半期のものであると考えられる。

2002-B 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地点 理学部1号館南側と3号館北側道路 (郡元団地H-8~10区)

調査期間 2002年5月22日

理学部校舎改修に伴う消火栓設置工事における立会調査で、理学部1号館近くと、3号館北側道路の2カ所で行われた。1号館近くでは、古墳時代の住居跡2基を確認した。また、3号館北側では、壁面で遺構を確認し、古墳時代土器を主体とする遺物が多く出土したが、近隣で同時に行われていた2002-2理学部改修工事に伴う発掘調査とあわせて報告することにする。

2002-C 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地点 理学部3号館南側一帯 (郡元団地J・K-8・9区)

調査期間 2002年7月22日

Tab.3 2002-C 出土遺物観察

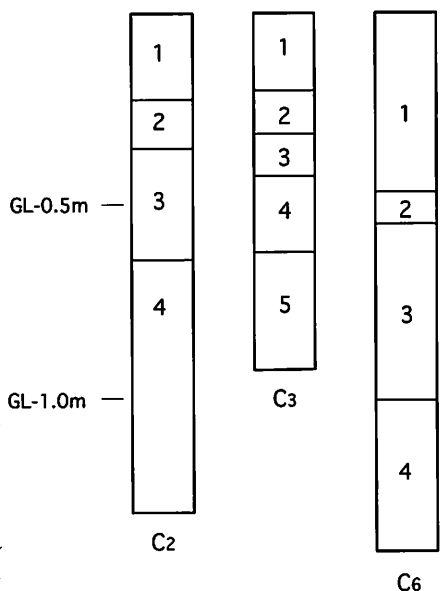
No.	地点	器種	部位	色調	混和材	混和材の 多さ	調整	備考
5	施?	甕?	口縁部	外面:橙色5YR6/8。内面:にぶい橙色7.5YR6/4。	細砂粒(光沢のある粒子)を含む。	1	外面・内面:ナデのちミガキ(-)。口唇部:ヨコナデ。	

電柱埋設のための掘削工事に伴う立会調査である。直径30cm, 深さ120cmの掘削を6ヶ所行ったが、そのうちC2,C3,C6でプライマリーな層を確認した (Fig.8)。C2の4層は周辺の過去の調査結果から、古墳時代の包含層に比定できると考えられるが、遺物は出土しなかった。

C3からは遺物が出土し、そのうち1点が図示できるものである (Fig.9,Tab.3,PL.2)。

5は、少し内湾しながら外開きに立ち上がる器形で、埴か鉢の口縁部であると考えられる。

胎土が精製されており、外面にはミガキも施されていて、丁寧なつくりの土器である。古墳時代のものと考えられる。



- C2
 1層 攪乱。
 2層 にぶい黄褐色10YR5/4,砂質シルト。しまっている。
 3層 黄褐色10YR5/6,2層との混土の砂質シルト。少しバミスを含む。
 4層 黒褐色10YR3/2,砂質シルト。均質。
- C3
 1層 攪乱。
 2層 灰黄褐色10YR4/2,砂質シルト。しまっている。0.5cm大のバミス,炭混じり。
 3層 にぶい黄褐色10YR4/3,粗砂混じり砂質シルト,0.5cm大のバミス含む。
 4層 灰黄褐色10YR4/2,砂質シルト。マンガンがまだらに浸透,しまっている。
 5層 褐灰色10YR6/1,シルト質砂。やわらかい。
- C6
 1層 表土。
 2層 褐灰色10YR6/1,細砂。
 3層 極暗褐色7.5YR2/3,粗砂混じりシルト。
 4層 明褐色7.5YR5/8,粗砂。
 5層 上部は4層に類似,下部は徐々に灰色に変化。

Fig.8 2002-C 土層柱状図

2 立会調査

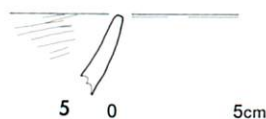
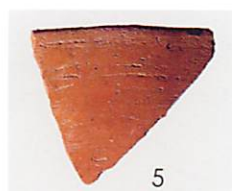


Fig.9 2002-C 出土遺物
(S=1/3)



PL.2 2002-C 出土遺物

2002-D 理学部校舎改修その他機械工事に伴う立会調査(Fig.5)

調査地点 工学部から理学部一帯(郡元団地J・K-8~10区)

調査期間 2002年7月18日-8月8日

ガス管理設工事のため共通教育棟3・4号館の北側道路を、幅80cm、深さ80-100cmの掘削を行った。このうち、D4・D5と、D12-D16は既掘部であった。また、D1-D12の範囲では、プライマリーな層を確認したが(Fig.10)、2002-1理工系総合研究棟における発掘調査で確認できた基本層位とほぼ同じである。今回の調査では、遺構・遺物等は出土していない。

2002-E 理学部校舎新営その他機械設備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査区 理学部1号館西側(郡元団地J・K-7区)

調査期間 2002年8月29日-9月18日

掘削工事は排水管理設地であったが、その地点は古墳時代の遺構が良好な状態で残存している可能性が高かったため、工事前に発掘調査を実施した。埋設地は2カ所だったが、北側地点は既掘部だったため立会調査のみを行った。本調査を実施した地点は、理学部1号館東側の玄関から南側に向かって幅1mほどのトレンチであったが、古墳時代の溝状遺構や住居跡1基を検出した。遺物も、古墳時代を中心とする土器片が多く出土した。

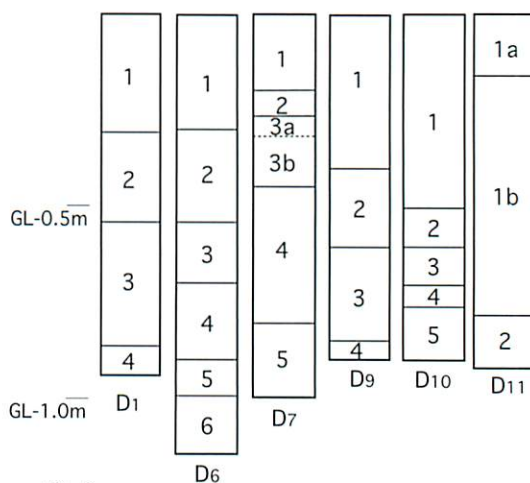
これらの調査結果については、2002-2理学部改修工事に伴う発掘調査とあわせて報告する予定である。

2002-F 理学部校舎新営その他機械設備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査区 理学部1号館西側(郡元団地I-7・8区)

調査期間 2002年9月18日-10月23日

掘削工事は電気配管理設地点であったが、この地点も古墳時代を中心とする遺構が良好に存在している可能性が高かったため、工事前に発掘調査を実施した。古墳時代の住居跡・土器溜まり・弥生時代中期の溝等が検出し、遺物も弥生時代・古墳時代を中心に多量に出土した。この調査成果についても、2002-2理学部改修工事に伴う発掘調査とあわせて報告する予定である。



D1~3

- 1層 表土。
- 2層 灰黄色2.5Y6/2類似、1~0.5cm大のバミス含む(5%)。
- 3層 灰黄褐色10YR5/2、砂混じりシルト、1~0.5cm大の白いバミス含む(10%)。管状の鉄分あり。
- 4層 灰黄色2.5YR6/2、シルト。管状の鉄分あり。

D6

- 1層 表土。
- 2層 灰黄色2.5Y6/2類似、1~0.5cm大のバミス含む(5%)。
- 3層 灰黄褐色10YR5/2、砂混じりシルト、1~0.5cm大の白いバミス含む(10%)。管状の鉄分あり。
- 4層 灰黄色2.5YR6/2、シルト。管状の鉄分あり。

D7~9

- 1層 表土。粗砂層・砂利を含む。
- 2層 オリーブ褐色2.5Y4/3、0.5cm大の白いバミス含む(3%)。鉄分浸透。
- 3a層 黄灰色2.5Y4/1、シルト質砂1~0.5cm大の白いバミス含む(5%)。マンガン浸透、下部鉄分多い。
- 3b層 3a層に類似するが、鉄分多い。
- 4層 褐灰色10YR4/1、シルト。
- 5層 オリーブ黒色7.5YR2/2、シルト。

D10

- 1層 アスファルトと砂利層。
- 2層 暗灰黄色2.5Y4/2、シルト質砂。0.5~1cm大の白いバミス含む(5%)。
- 3層 灰黄褐色10YR5/2、シルト質砂。小さな管状の鉄分含む
- 4層 褐灰色10YR4/1、シルト。
- 5層 褐灰色10YR6/1、シルト。筋状の鉄分含む。0.5cm大の白いバミスを含む(2%)。

D11

- 1a層 アスファルトと砂利層。
- 1b層 10YR5/3砂層。1~0.5cm大の白いバミス含む(3%)。
- 2層 灰黄褐色10YR5/2、シルト質砂。0.5cm大の白いバミスを含む(2%)、マンガン浸透。

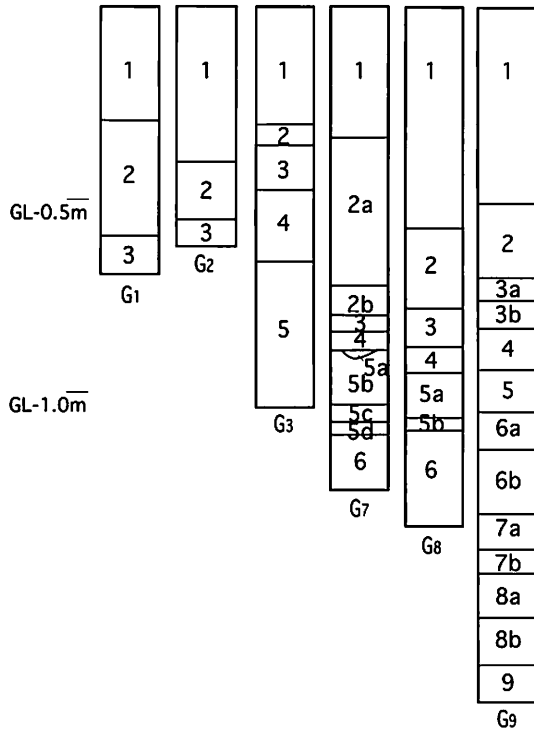
Fig.10 2002-D 土層柱状図

2002-G 理工系総合研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査区 理学部1号館西側(郡元団地I-7・8区)

調査期間 2002年9月18日-10月23日

掘削地点のほとんどでプライマリーな層が確認できた。特に、掘削深度が1m以上に及んだところは、周辺の過去の発掘調査から推定すると、古墳時代-弥生時代の包含層(6-9層)に比定できる層が確認できた(Fig.11)が、遺物は出土しなかった。



G1・2
 1層 表土。
 2層 2.5Y6/2類似,1~0.5cm大のバミス含む(5%)。
 3層 灰黄褐色10YR5/2,砂混じりシルト。1~0.5cm大の白いバミス含む(10%)。管状の鉄分あり。

G3
 1層 表土。
 2層 灰黄褐色10YR5/2,シルト質砂。
 3層 灰黄褐色10YR5/2,シルト質砂。
 4層 暗灰黄色2.5Y4/2,シルト質砂。
 5層 黄灰色2.5Y6/1,シルト質砂。

G7
 1層 表土。
 2a層 におい黄褐色10YR5/3,砂質シルト。0.5~1cm大のバミス含む。
 2b層 におい黄褐色10YR4/3,砂質シルト。0.5~1cm大のバミス含む。
 3層 褐色10YR4/4,細砂層。
 4層 灰黄褐色10YR4/2,細砂質シルト。
 5a層 4層と5b層との混土。
 5b層 灰黄褐色10YR5/2,シルト。
 5c層 褐灰色10YR4/1,シルト。鉄分の浸透。
 5d層 5cと6層との混土,シルト。
 6層 黒褐色10YR3/1シルト,粘質,1cm大のバミス含む。

G8
 1層 表土。
 2層 におい黄褐色10YR5/3,砂質シルト。0.5~1cm大のバミス含む。
 3層 黄褐色10YR5/6粗砂層,1~3cm大のバミス含む。
 4層 灰黄褐色10YR5/2,細砂層。
 5a層 灰黄褐色10YR4/2,シルト。粘質。
 5b層 5a層と6層との混土。
 6層 黒褐色10YR2/2,シルト,粘質。

G9
 1層 表土。
 2層 暗灰黄色2.5Y4/2,砂質シルト。0.5~4cm大のバミス含む。しまっている。
 3a層 灰黄褐色10YR4/2を基調として褐色10YR4/6が混じる。砂質シルト。0.5~4cm大のバミスを含む。
 3b層 3a層より灰黄褐色の色調強い。0.5~4cm大のバミス含む。しまっている。
 4層 黄灰色2.5Y4/1,砂質シルト。0.5~4cm大のバミス含む。
 5層 黄灰色2.5Y4/1と黒褐色2.5Y3/1の中間色。砂質シルト。
 6a層 灰色5Y6/1,シルト質細砂。
 6b層 灰黄褐色10YR5/2,シルト。
 7a層 灰黄褐色10YR4/2シルト,0.5~3cm大のバミス含む。
 7b層 黒褐色10YR3/2シルト,0.5~3cm大のバミス含む。
 8a層 におい黄褐色10YR5/3,シルト。
 8b層 褐色10YR4/2,シルト。
 9層 黒褐色10YR3/1,シルト。

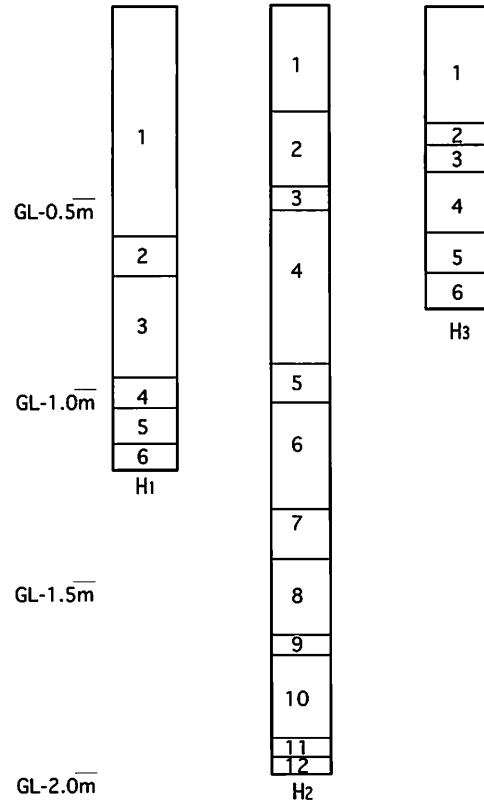
Fig.11 2002-G 土層柱状図

2002-H 理工系総合研究棟新営機械設備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査区 理工系総合研究棟西側道路 (郡元団地J・K-10区)

調査期間 2002年12月9日-12月11日

3カ所の掘削地点での立会調査を行った。いずれもプライマリーな土層を確認した (Fig.12)。今回の調査では遺物は出土しなかったが、周辺の調査から近世-縄文時代の遺物包含層にあたると思われる。



H1
 1層 表土。
 2層 灰黄褐色10YR4/2シルト,鉄分・0.5~1cm大のバミス少量含む,しまっている。
 3層 灰黄褐色10YR5/2シルト,鉄分・5~1cm大のバミス含む,しまっている。
 4層 灰黄褐色10YR4/2シルト,鉄分浸透。
 5層 黒褐色10YR3/1シルト。
 6層 灰黄褐色10YR5/2シルト,少し粘質。

H2
 1層 攪乱。
 2層 灰黄褐色10YR5/3に類似,砂質シルト。
 3層 におい黄褐色10YR5/3,砂質シルト。
 4層 灰黄褐色10YR5/2,砂質シルト。鉄分浸透。
 5層 褐灰色10YR5/1に類似,砂質シルト。
 6層 褐灰色10YR5/1に類似,砂質シルト。
 7層 褐灰色10YR4/1.5,砂質シルト。
 8層 褐灰色10YR4/1.5,砂質シルト。鉄分浸透。
 9層 におい黄褐色10YR7/2に類似,シルト。
 10層 黒褐色10YR3/1,粗砂まじりシルト。
 11層 灰黄褐色10YR6/2.5,砂。
 12層 黒色N1.5/泥炭層。

H3
 1層 攪乱。
 2層 におい黄褐色10YR5/3に類似,砂質シルト。
 3層 灰黄褐色10YR4/2,砂質シルト。鉄分浸透。
 4層 灰黄褐色10YR5/2,砂質シルト。鉄分浸透。
 5層 褐灰色10YR4/1に類似,砂質シルト。
 6層 褐灰色10YR5/1,砂質シルト。

Fig.12 2002-H 土層柱状図

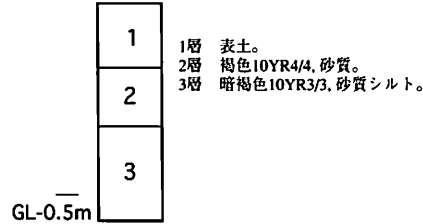
2 立会調査

2002-J 高倉看板設置工事に伴う立会調査 (Fig.3 構内図)

調査地点 正門西北側緑地帯 (郡元団地 D-4 区)
 調査期間 2002年12月10日

看板設置のため、2カ所の掘削工事を行った。2カ所とも同じ層位

(Fig.13)で、2・3層から瓦が出土した。近現代のものであろうと考えられる。

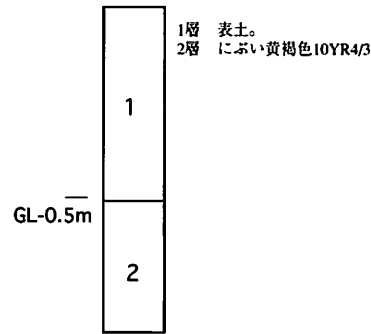


2002-K 理学部校舎改修その他機械設備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査区 理学部1号館南側 (郡元団地 J-8 区)
 調査期間 2002年12月11日

理学部校舎際の掘削を行った。2層を確認した (Fig.14)が、どちらにも瓦片等の出土が確認され、現代の層

Fig.14 2002-K 土層柱状図



2002-N 理学部講義棟改修工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地 理学部2号館南側薬品庫と講義棟との間 (郡元団地 I-7 区)

調査期間 2003年1月22日

薬品庫と講義棟との間の掘削工事に伴う立会調査を行った。表土が厚く堆積していたが、河川跡と考えられる土層を検出した (Fig.15)。A層から古墳時代後半期の遺物が多く出土したが、いずれも細かく破損

し、ほとんどの破片の表面には鉄分が付着し、砂粒が固着していた。以下、実測できるものについて図示し、説明を加える (Fig.16, Tab.4, PL.3)。

図示できたのは14点である。6-17は甕または鉢で、18・19は壺、6-13は甕の口縁部である。いずれも小破片のため口縁部形態は不明だが、直立またはゆるやかに外反する口縁部の端部であろうと考えられる。口唇部には平坦面をもつ。9は、内湾気味に立ち上がるため鉢である可能性もある。14-17は胴部上半部に貼付された突帯部である。いずれも絡縄突帯で、粗雑なつくりである。

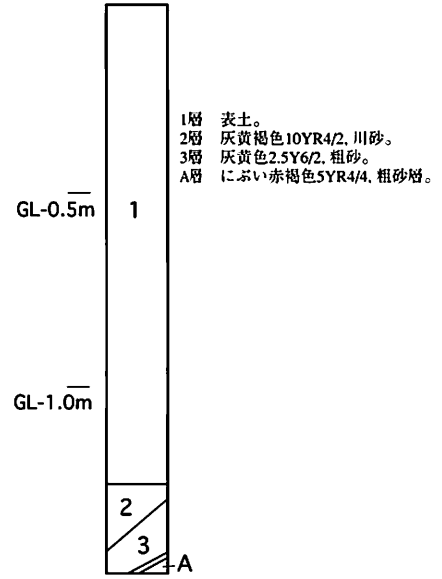


Fig.15 2002-N 土層柱状図

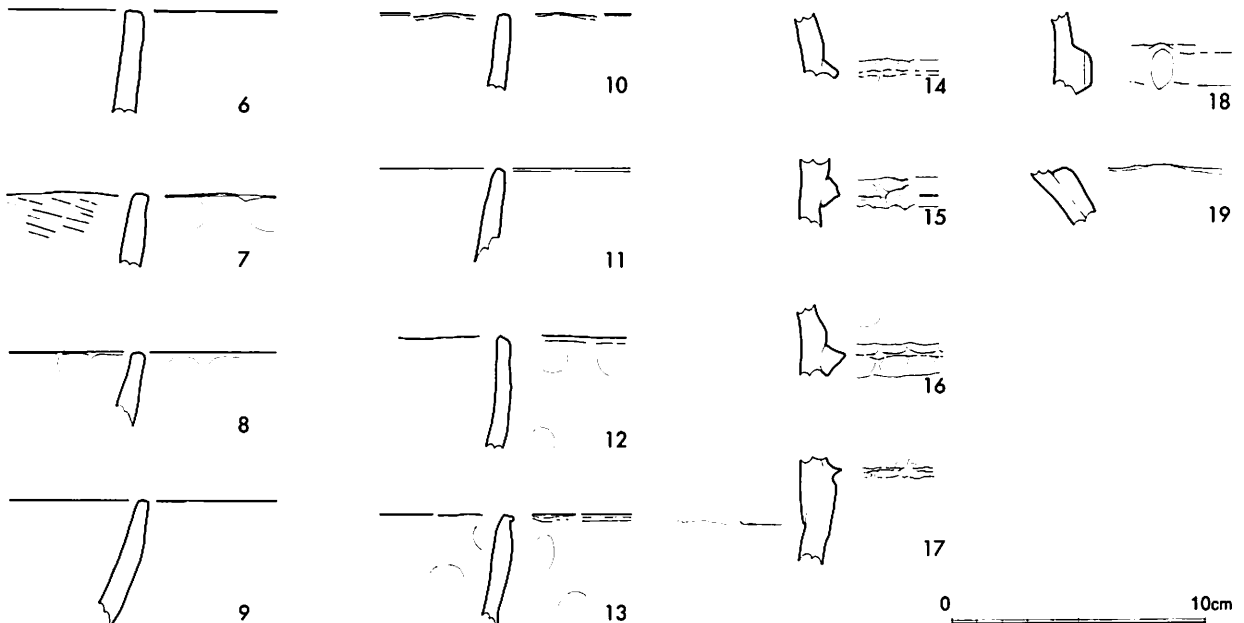


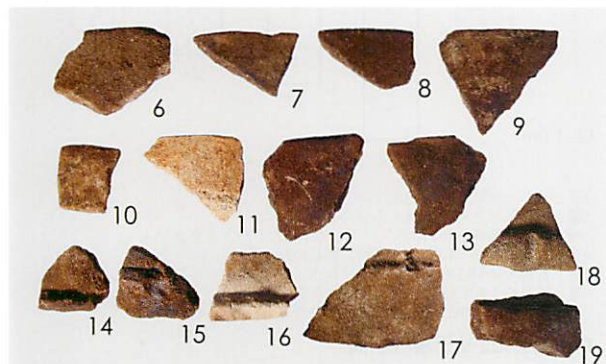
Fig.16 2002-N 出土遺物(S=1/3)

Tab.4 2002-N 出土土器観察

No.	層	器種	部位	色調	混和材	混和材の 多さ	調整	備考
6	A層	甕	口縁部	外面:不明,内面:にぶい黄褐色10YR7/4.	附着物のため不明.	-	外面:不明,内面:ナデ?	鉄分などの附着物あり,特に外面.
7	A層	甕	口縁部	外面:灰黄褐色10YR4/2.内面:褐灰色2.5Y4/1.	細砂粒を含む.	2	外面:ナデ,内面:ハケ(-)→ナデ.	鉄分などの附着物あり.
8	A層	甕	口縁部	附着物のため不明.	附着物のため不明.	-	附着物のため不明.	鉄分などの附着物あり.
9	A層	甕	口縁部	附着物のため不明.	附着物のため不明.	-	附着物のため不明.	鉄分などの附着物あり.
10	A層	甕	口縁部	浅黄褐色10YR8/3を基調とする.	粗砂粒:石英・角せん石,詳細は附着物のため不明.	-	ナデ?	鉄分などの附着物あり.
11	A層	甕か鉢か壺	口縁部	浅黄褐色10YR8/4.	粗砂粒:白色粒・赤色粒,砂粒:石英・白色粒・赤色粒・黒色粒.	3	外面:ナデ,内面:ナデ(←→).	
12	A層	甕	口縁部	外面:附着物のため不明,内面:浅黄褐色10YR8/4.	附着物のため不明.	-	ナデ?	鉄分などの附着物あり,特に外面.
13	A層	甕	口縁部	附着物のため不明.	附着物のため不明.	-	ナデ?	鉄分などの附着物あり.
14	A層	甕	胴部	外面:附着物のため不明,内面:浅黄褐色10YR8/4.	附着物のため不明.	-	ナデ?	鉄分などの附着物あり.
15	A層	甕	胴部	附着物のため不明.	附着物のため不明.	-	附着物のため不明.	鉄分などの附着物あり.傾き,上下疑問.
16	A層	甕	胴部	外面:にぶい黄褐色10YR7/3.内面:10YR7/4	粗砂粒:角せん石,砂粒:角せん石,石英,白色粒,赤色粒,細砂粒も含む.	3	外面:ナデ(-).内面:附着物のため不明.	内面:鉄分などの附着物あり.
17	A層	甕	胴部	外面:附着物のため不明,内面:にぶい黄褐色10YR7/4.	粗砂粒・砂粒:石英・角せん石・白色粒,細砂粒も含む.	3	外面:附着物のため不明,内面:ナデ(\\).	鉄分などの附着物あり,特に外面.内面:接合痕あり.
18	A層	壺	胴部	附着物のため不明.	附着物のため不明.	-	附着物のため不明.	鉄分などの附着物あり.
19	A層	壺	胴部	外面:褐灰色,内面:附着物のため不明.	粗砂粒・砂粒:石英・角せん石・白色粒.	3	ナデ.	鉄分などの附着物あり.

17は内面に粘土帯の接合痕が明瞭に残っている。18・19は壺の幅広突帯である。18は太く浅い刻み目が施されている。19は突帯下部が欠損している。

図示できた遺物のほとんどが、古墳時代後半期の土器であると考えられる。



PL.3 2002-N 出土遺物

2002-P 農学部実験ガス管理設工事に伴う立会調査 (Fig.24)

調査地 農学部4号館南側道路 (郡元団地 F-8 区)

調査期間 2003年2月27日

実験ガス管理設工事の試掘のため、1m四方の範囲を地表下1mまで掘削した。1-6層まで確認したが、遺物・遺構等は検出しなかった。

2002-S 理学部校舎改修その他工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地 共通教育棟3号館北側道路噴水 (郡元団



Fig.17 2002-P 土層柱状図

地 K-8 区)

調査期間 2002年3月17日

在来の貯水槽を撤去したのち、壁面土層観察を行った (Fig.18)。近代-古代の遺物包含層と考えられる層が確認できたが、プライマリーな層の掘削は行われなかったため、埋蔵文化財への影響はなかった。

2002-T 理学部講義棟改修機械整備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地 理学部2号館南側 (郡元団地 I-7 区)

調査期間 2003年3月18日

掘削深度は基本的に70cmまでで、既掘部の範囲だったが、在来の配管と交差する部分を地表下85cmまで掘り下げたため、下部に河川跡の埋土と考えられる層が確認できた (Fig.19)。遺物などは出土していない。

2 立会調査

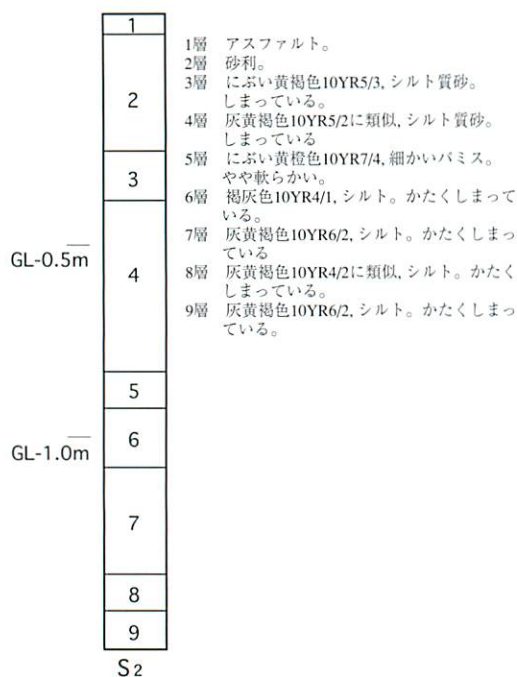


Fig.18 2002-S 土層柱状図

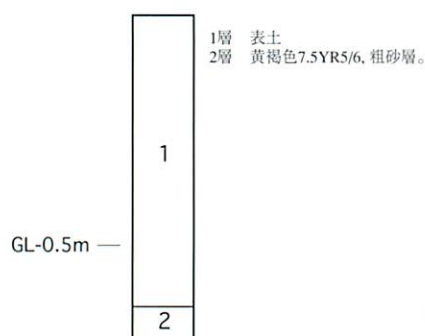


Fig.19 2002-T 土層柱状図

2002-U 理学部校舎改修その他電気設備工事に伴う立会調査 (Fig.5)

調査地 理工系総合研究棟東側 (郡元団地 K-8 区)

調査期間 2003年3月19日

電気配管工事のための発掘調査で、幅80cm、地表下95cmまでの掘削を行った。1-3層までを確認したが、D10地点の層位と同じである。遺物などの出土はなかった。

2002-V 農学部資源有機物リサイクル場設置工事に伴う立会調査 (Fig.20)

調査地 農場管理棟北側 (郡元団地 D-10 区)

調査期間 2003年3月20日

リサイクル場の基礎部分のみ5カ所の掘削を行った。1カ所の掘削範囲は、2.7×2m、深さ75-106cmにおよんだ。1-7層の基本層位を確認したが (Fig.21)、地点ごとに若干の層位の起伏が見られた。遺物は出土しなかった。

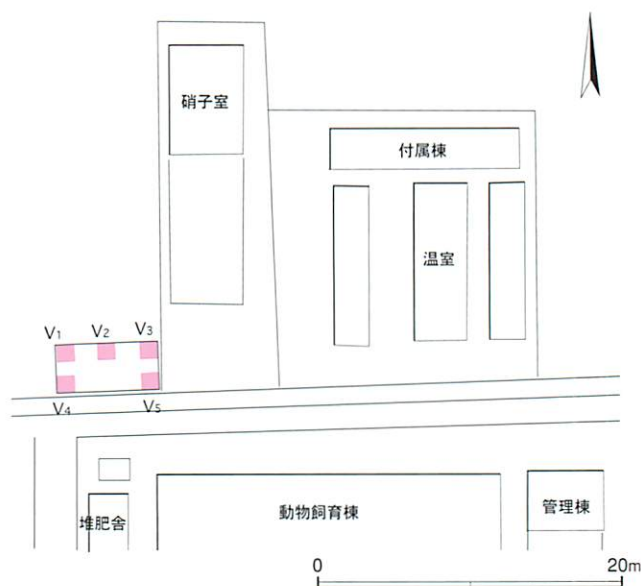


Fig.20 2002-V 立会調査区の位置(S=1/500)

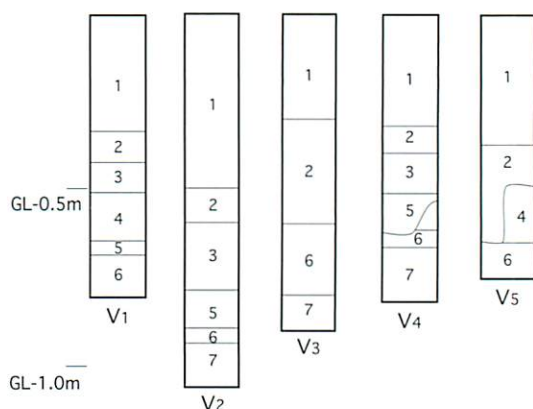


Fig.21 2002-V 土層柱状図

2002-W 教育学部幹線並木設備工事に伴う立会調査 (Fig.22)

調査地 教育学部ゲートから南側道路・音楽美術棟西側緑地帯 (郡元団地 M ~ O-6・7 区)

調査期間 2003年3月20・21日

教育学部ゲートより南へのびる道路沿いの並木一帯と、音楽美術棟西側緑地帯に樹木移植のための掘削工事を行った (Fig.22・23)。W2では、3層上面に溝状遺構が確認できたが、周辺の過去の発掘調査結果の土層から推定すると、古代か古墳時代のものであると考えられる。遺物などの出土はなかった。

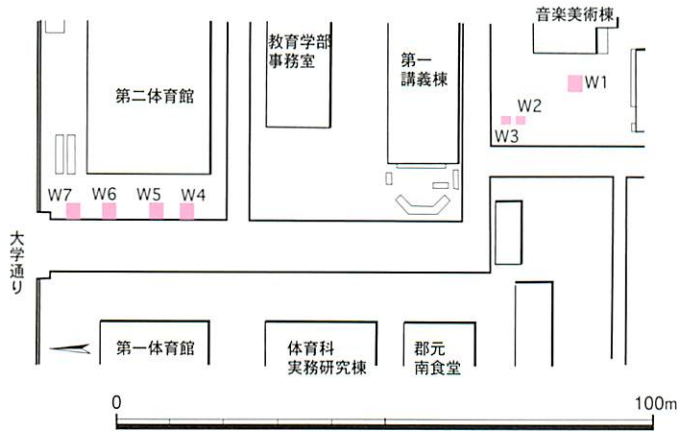


Fig.22 2002-W 立会調査区の位置(S=1/1400)

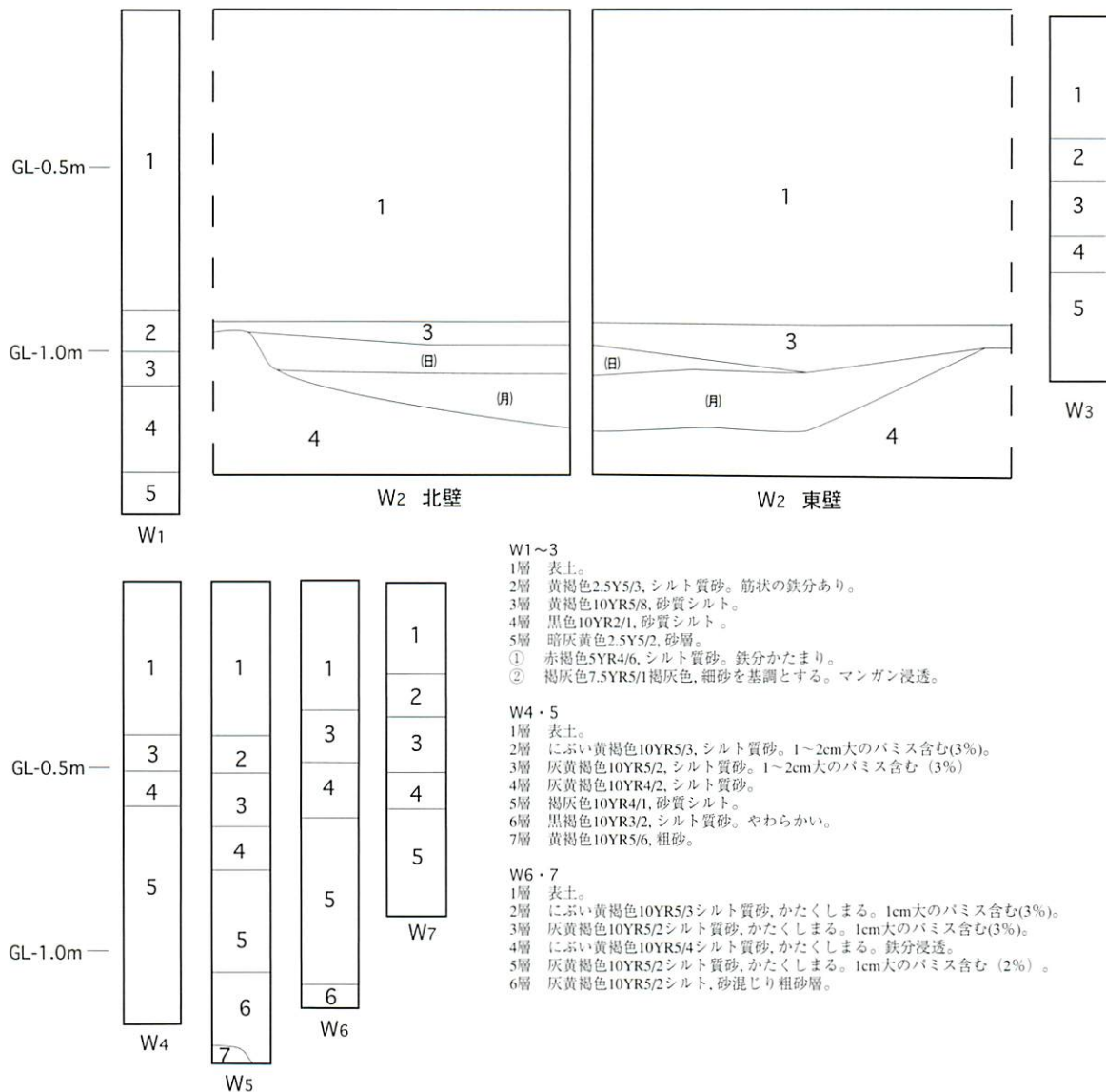


Fig.23 2002-W 土層柱状図

2002-X 埋設土実験に伴うガス管布設工事に伴う立
会調査 (Fig.24)

調査地 農場内道路 (郡元団地 F-8 区)

調査期間 2003年3月24日

道路部分を, 3.2×0.7mの範囲で, 深さ85cmにわたつて, 5カ所の掘削を行った。いずれも同一層で (Fig.25), 2・3層は水田層であると考えられるが, 遺物等の出土はなく, 時期は不明である。

2 立会調査

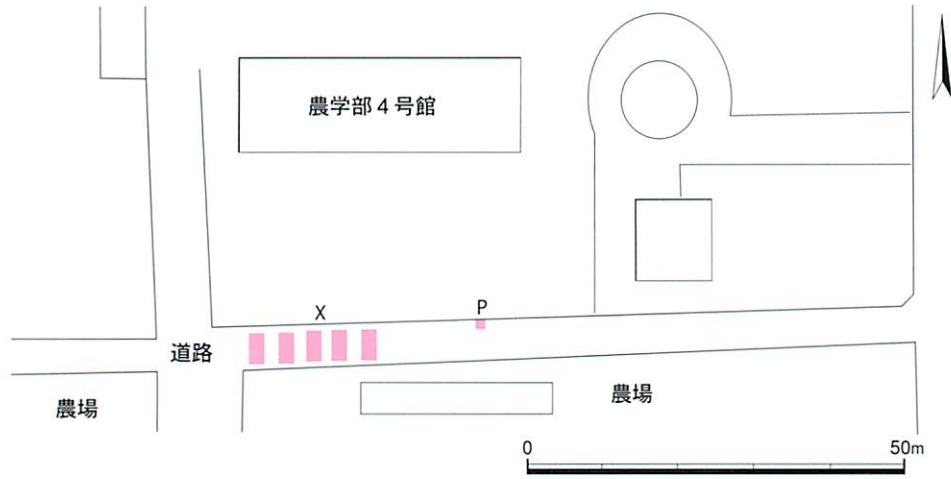


Fig.24 2002-X 立会調査区の位置(S=1/1000)

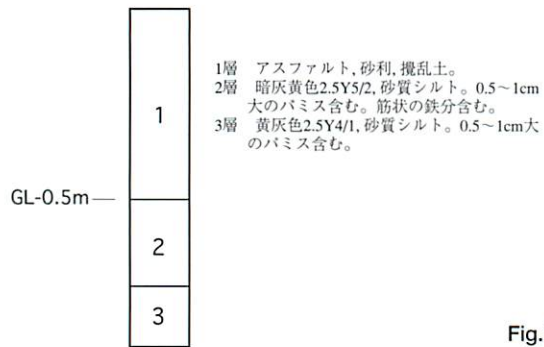


Fig.25 2002-X 土層柱状図

受贈図書 平成14年度(2002年4月～2003年3月)

文献名	発行所	文献名	発行所
単行本 平成13年度企画展公開シンポジウム 「有樋尖頭器の発生・変遷・終焉」予稿集・記録集	千葉県立房総風土記の丘	東北大学埋蔵文化財調査年報17	東北大学埋蔵文化財調査研究センター
市川市出土の埴輪 静岡の原像をさぐる	市立市川考古博物館 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	年報21 東京大学構内遺跡調査研究年報3 東京都埋蔵文化財センター年報21	財団法人茨城県教育財団 東京大学埋蔵文化財調査室 財団法人東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター 財団法人東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター 財団法人君津郡市文化財センター 財団法人君津郡市文化財センター
10年のあゆみ	財団法人岐阜県文化財保護センター	東京都埋蔵文化財センター年報22	財団法人東京都埋蔵文化財センター
ホケノ山古墳 大和の考古学100年 20年のあゆみ しまねの古代文化 第九号 山陰地方における古墳群と地域社会 西谷正先生年譜・著作目録	学生社 奈良県立橿原考古学研究所 八尾市文化財調査研究会 島根県古代文化センター 島根県古代文化センター 九州大学大学院人間環境学研究院 太宰府市	君津郡市文化財センター 年報No.19 君津郡市文化財センター 年報No.20	千葉県立房総風土記の丘 市立市川考古博物館
太宰府市史 文芸資料編	太宰府市	千葉県立房総風土記の丘年報23 平成10年度 市立市川考古博物館年報(第27号) 平成11年度 市立市川考古博物館年報(第28号) 平成13年度 市立市川考古博物館年報(第29号)	千葉県立房総風土記の丘 市立市川考古博物館 市立市川考古博物館 市立市川考古博物館
図録 海を渡ったアイヌの工芸-英国人医師マンローのコレクションから 版画にみる東京の風景-関東大震災から戦前まで-	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 大田区立郷土博物館	年報 9 平成13年度 静岡県埋蔵文化財調査研究所 年報18	財団法人かながわ考古学財団 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
藤内遺跡出土品重要文化財指定記念展「蘇る高原の縄文王国」 美濃桃山陶 京都大学所蔵古瓦図録Ⅰ(山野道三コレクション) 紫金山古墳 西城への道 シルクロードと大谷探検隊 未盗掘古墳の世界 荒神谷遺跡/加茂岩倉遺跡	富士見町教育委員会 土岐市美濃陶磁歴史館 京都大学大学院文学研究科 大阪府立近つ飛鳥博物館 大阪府立近つ飛鳥博物館	年報 平成13年度 年報	財団法人岐阜県教育文化財団 財団法人岐阜県文化財保護センター
志津見ダム地内の遺跡	大阪府立近つ飛鳥博物館 島根県埋蔵文化財調査センター 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会(埋蔵文化財調査センター)	櫛原考古学研究所年報26 櫛原考古学研究所年報27 高槻市文化財年報平成12年度 平成12年度 年報	奈良県立橿原考古学研究所 奈良県立橿原考古学研究所 高槻市教育委員会 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
弥生時代・日本海地域の交流 伊豫の鏡-鏡に映したされた古代伊豫-「伊都国王都・三雲遺跡」展 王のアクセサリ-郷ノ浦町の文化財 車出遺跡・戸田遺跡・大谷遺跡 刻まれた歴史 一沖縄の石碑と拓本- 琉球王国 一大交易時代とグスク- 復帰後三十年間の県内発掘調査展	大阪府立近つ飛鳥博物館 島根県埋蔵文化財調査センター 国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会(埋蔵文化財調査センター) 下関市立考古博物館 松山市考古館 伊都歴史資料館 伊都歴史資料館 宍道郷土館 郷ノ浦町教育委員会 沖縄県立博物館 沖縄県立博物館 沖縄県立埋蔵文化財センター	平成13年度 年報 平成11年度 神戸市埋蔵文化財年報 倉敷埋蔵文化財センター年報8 津山弥生の里第9号 広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報XVII 山口大学構内遺跡調査研究年報XIV 島根県教育庁 埋蔵文化財調査センター年報・平成13年度 愛比売-平成12年度年報- 愛比売-平成13年度年報-	神戸市教育委員会 倉敷埋蔵文化財センター 津山弥生の里文化財センター 広島大学環境保全委員会埋蔵文化財調査室 山口大学埋蔵文化財資料館 島根県教育委員会 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
パンフレット 20年のあゆみ 島屋敷物語 石器時代の狩猟 槍から弓矢へ	財団法人君津郡市文化財センター 東京都埋蔵文化財センター(財)かながわ考古学財団・厚木市教育委員会・大和市教育委員会 静岡市立登呂博物館 磐田市教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 松阪市教育委員会 神戸市埋蔵文化財センター 神戸市埋蔵文化財センター	松山市埋蔵文化財調査年報13 福岡市埋蔵文化財年報 Vol.15 一平成12(2000)年度版- 春日市埋蔵文化財年報9 熊本大学埋蔵文化財調査室年報8 川内市歴史資料館年報 平成11年度 川内市歴史資料館年報 平成12年度 川内市歴史資料館年報 平成13年度 ミュージアム知覧 館報 第8号 誠谷村立歴史民俗資料館年報第28号 誠谷村立歴史民俗資料館年報第27号	松山市教育委員会 福岡市教育委員会 春日市教育委員会 熊本大学埋蔵文化財調査室 川内市歴史資料館 川内市歴史資料館 川内市歴史資料館 ミュージアム知覧 誠谷村立歴史民俗資料館 誠谷村立歴史民俗資料館
くろがねのわざ 新しい時代への礎 海を渡ってきた技術と文化 簪らすひとびと・行き交うひとびと 宝塚古墳の源流を求めて どこにあるの? 神戸の遺跡 ドロだらけでなにしとん?	静岡市立登呂博物館 磐田市教育委員会 三重県埋蔵文化財センター 松阪市教育委員会 神戸市埋蔵文化財センター 神戸市埋蔵文化財センター	紀要 群馬県立歴史博物館紀要第23号 かながわの考古学研究紀要7 研究紀要IX 金沢大学考古学紀要第26号 富山考古学研究5号	群馬県立歴史博物館 財団法人かながわ考古学財団 財団法人君津郡市文化財センター 金沢大学文学部考古学講座 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
年報 調査年報 14 平成13年度 北上市埋蔵文化財年報 北上市埋蔵文化財年報(2000年度)	財団法人北海道埋蔵文化財センター 北上市立埋蔵文化財センター 北上市立埋蔵文化財センター	研究紀要第9号	

受贈図書

文献名	発行所	文献名	発行所
研究紀要第11号	三重県埋蔵文化財センター	京都府埋蔵文化財情報 第86号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
研究紀要第12号ー森脇追跡ー	三重県埋蔵文化財センター	青陵 第108号	奈良県立橿原考古学研究所
研究紀要第7集	財団法人由良大和古代文化研究協会	青陵 第109号	奈良県立橿原考古学研究所
古事 天理大学考古学研究室紀要第6冊	天理大学考古学研究室	青陵 第110号	奈良県立橿原考古学研究所
考古学論叢第24冊	奈良県立橿原考古学研究所	葦火 97.98号	財団法人大阪市文化財協会
兵庫県埋蔵文化財研究紀要第2号	兵庫県教育委員会	葦火 99号	財団法人大阪市文化財協会
紀要愛媛第2号	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	葦火 100号	財団法人大阪市文化財協会
ミュージアム知覧紀要第8号	ミュージアム知覧	葦火 101号(Vol.17, No.5)	財団法人大阪市文化財協会
逐次刊行物		葦火 102号	財団法人大阪市文化財協会
テエタ 北海道埋蔵文化財センターだより 第7号	財団法人 北海道埋蔵文化財センター	葦火 総索引集(創刊号～100号)	財団法人大阪市文化財協会
テエタ 北海道埋蔵文化財センターだより 第8号	財団法人 北海道埋蔵文化財センター	大阪府立近つ飛鳥博物館 館報7	大阪府立近つ飛鳥博物館
胆沢城 第51号	水沢市埋蔵文化財調査センター	アスカディア・古墳の森 Vol.16	大阪府立近つ飛鳥博物館
平泉文化研究年報第2号	岩手県教育委員会	アスカディア・古墳の森 Vol.17	大阪府立近つ飛鳥博物館
沖縄研究ノート11	宮城学院女子大学キリスト教文化研究所	ひょうごの遺跡 43号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
研究ノート11号	財団法人茨城県教育財団	ひょうごの遺跡 44号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
歴史人類第31号	筑波大学歴史・人類学系	ひょうごの遺跡 45号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
歴史人類第30号	筑波大学歴史・人類学系	年報 津山弥生の里 第10号(平成13年度)	津山弥生の里文化財センター
さきたまvol.13	埼玉県立さきたま資料館	自然科学研究所研究報告 第27号	岡山理科大学
調査研究報告第15号	埼玉県立さきたま資料館	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第27号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
駒澤考古第27号	駒澤大学考古学研究室	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第28号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
駒澤考古第28号	駒澤大学考古学研究室	出雲地方における前方後円墳の出現とその時代	島根県教育委員会
研究論集XIX	東京都埋蔵文化財センター	隠岐に召すまスペシャル最終号3	島根県埋蔵文化財調査センター
人類史集報2001	東京都立大学人類史調査グループ	オロチのいぶき(特別号)尾原ダム建設予定地内の遺跡	島根県埋蔵文化財調査センター
青山史學第20号	青山学院大学文学部史学研究室	青木遺跡調査概報林木バイパス発掘だより増刊号	島根県埋蔵文化財調査センター
きみさらづ第19.20号	財団法人 君津郡市文化財センター	斐伊川放水路発掘調査概報「斐伊川放水路発掘物語」PART8	島根県埋蔵文化財調査センター
加止里第7号	財団法人 香取郡市文化財センター	ドキ土器まいぶん No.13	島根県埋蔵文化財調査センター
千葉県立房総風土記の丘だより第38号	千葉県立房総風土記の丘	ドキ土器まいぶん No.17	島根県埋蔵文化財調査センター
千葉県立房総風土記の丘だより第39号	千葉県立房総風土記の丘	ドキ土器まいぶん No.18	島根県埋蔵文化財調査センター
千葉県立房総風土記の丘だより第40号	千葉県立房総風土記の丘	ドキ土器まいぶん No.19	島根県埋蔵文化財調査センター
研究所報No.97	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	ドキ土器まいぶん No.20	島根県埋蔵文化財調査センター
研究所報No.98	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	古代文化研究 第10号	島根県古代文化センター
研究所報No.99	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	石見銀山ニュース第3号	島根県・大田市・温泉津町・仁摩町教育委員会
研究所報No.100	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	まいぶんえひめ No.28	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
研究所報No.101	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	まいぶんえひめ No.29	財団法人大愛媛県埋蔵文化財調査センター
研究所報No.102	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	湯築城だより 1号	湯築城資料館
静岡市立登呂博物館館報12	静岡市立登呂博物館	湯築城だより 2号	湯築城資料館
ー平成13年度ー		学内発掘20年の歩み	山口大学埋蔵文化財資料館
長野県埋蔵文化財発掘調査一覧その12	長野県教育委員会	山口大学埋蔵文化財資料館収蔵考古資料	山口大学埋蔵文化財資料館
名古屋市博物館だより 第145号	名古屋市博物館	シンポジウム韓国考古学の新世紀	九州大学大学院人文科学研究院
名古屋市博物館だより 第146号	名古屋市博物館	三遺跡交流こどもフォーラム記録集	福岡県教育委員会
名古屋市博物館だより 第147号	名古屋市博物館	姉妹遺跡	福岡県教育委員会
名古屋市博物館だより 第148号	名古屋市博物館	夜須町親子歴史教室	夜須町教育委員会
名古屋市博物館だより 第149号	名古屋市博物館	まいぶん久留米 創刊号	久留米市埋蔵文化財センター
名古屋市博物館だより 第150号	名古屋市博物館	太宰府市史 中世資料編	太宰府市
みえ 第33号	三重県埋蔵文化財センター	宇土市史研究第23号	宇土市教育委員会
佐加太 第16号	坂田郡社会教育研究会文化財部会	熊本博物館館報 No.14	熊本市立熊本博物館
佐加太 第17号	坂田郡社会教育研究会文化財部会	ふるさと古代発見展	鹿児島市立ふるさと考古歴史館
京都府埋蔵文化財情報 第83号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	ー原田久保遺跡の調査ー	
京都府埋蔵文化財情報 第84号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	ミュージアム知覧通信 第4号	ミュージアム知覧
京都府埋蔵文化財情報 第85号	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	南日本文化 第35号	鹿児島国際大学付属地域総合研究所

文献名	発行所	文献名	発行所
鹿児島大学総合情報処理センター 広報 2003 No.16	鹿児島大学総合情報処理センター	西台後藤田遺跡 第3地点	東京都埋蔵文化財センター
鹿児島大学総合研究博物館 NEWS LETTER No.2	鹿児島大学総合研究博物館	多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
鹿児島大学総合研究博物館 NEWS LETTER No.3	鹿児島大学総合研究博物館	多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
鹿児島大学総合研究博物館 NEWS LETTER No.4	鹿児島大学総合研究博物館	多摩ニュータウン遺跡No.20・480遺跡	東京都埋蔵文化財センター
鹿児島大学総合研究博物館 NEWS LETTER No.5	鹿児島大学総合研究博物館	多摩ニュータウン遺跡No. 200遺跡	東京都埋蔵文化財センター
鹿児島大学総合研究博物館 NEWS LETTER No.6	鹿児島大学総合研究博物館	多摩ニュータウン遺跡No. 939遺跡III	東京都埋蔵文化財センター
鹿児島大学総合研究博物館 NEWS LETTER	鹿児島大学総合研究博物館	島屋敷遺跡	東京都埋蔵文化財センター
琉球大学考古学研究集録第3号	琉球大学法文学部考古学研究室	内藤町遺跡	東京都埋蔵文化財センター
調査報告書		尾張藩上屋敷跡遺跡IX	東京都埋蔵文化財センター
ユカンボンC2遺跡・オサツ2遺跡にお ける考古学的調査	千歳市教育委員会	尾張藩上屋敷跡遺跡X	東京都埋蔵文化財センター
梅川4遺跡における考古学的調査一 大楽毛1遺跡調査報告書II	千歳市教育委員会	尾張藩上屋敷跡遺跡XI	東京都埋蔵文化財センター
祝梅排水路整備事業に伴う事前調査 柳の御所遺跡	鉦路市埋蔵文化財調査センター 越川町教育委員会 花巻地方振興局花巻農村整備 事務所・(財)岩手県文化振興 事業団埋蔵文化財センター	富士見池北遺跡	東京都埋蔵文化財センター
岩手の洞穴遺跡	岩手県教育委員会	武蔵国分寺跡関連遺跡	東京都埋蔵文化財センター
岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成10年度)	岩手県教育委員会	弁天町遺跡	東京都埋蔵文化財センター
岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成11年度)	岩手県教育委員会	方南峰遺跡C地点	東京都埋蔵文化財センター
岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成12年度)	岩手県教育委員会	吉祥寺南町1丁目遺跡O地点	武蔵野市教育委員会
岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成13年度)	岩手県教育委員会	真人原遺跡III	真人原遺跡発掘調査団
岩手県内遺跡発掘調査報告書 (平成14年度)	岩手県教育委員会	大塚町遺跡2	お茶の水女子大学
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 (平成13年度)	財団法人岩手県文化振興事業 団埋蔵文化財センター	日野駅北駐輪場建設に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告書	日野市
柳の御所遺跡	岩手県教育委員会	根形台遺跡群II	財団法人君津都市文化財センター
柳の御所遺跡一第52次発掘調査概報一	岩手県教育委員会	犬ヶ久保遺跡	財団法人君津都市文化財センター
国見山鹿寺跡	北上市立埋蔵文化財センター	坂畑南遺跡	財団法人君津都市文化財センター
塚遺跡	北上市立埋蔵文化財センター	秋元城跡I	財団法人君津都市文化財センター
鳩岡崎上の台遺跡	北上市教育委員会	中尾遺跡群II	財団法人君津都市文化財センター
蛭川遺跡	北上市教育委員会	蔵波岩跡	財団法人君津都市文化財センター
立花南遺跡	北上市教育委員会	吉原遺跡	財団法人君津都市文化財センター
向遺跡	北上市教育委員会	高部宮ノ前II遺跡・青山甚太山遺跡 II地区	財団法人君津都市文化財センター
黒岩宿遺跡	北上市教育委員会	主要地方道成田小見川鹿島港線	財団法人君津都市文化財センター
黒岩城跡	北上市教育委員会	織幡ササノ倉遺跡II(遺物篇)	財団法人君津都市文化財センター
森下遺跡	北上市教育委員会	神崎カントリークラブ埋蔵文化財調査報 告書I	財団法人君津都市文化財センター
水沢遺跡群範囲確認調査	水沢市教育委員会	竜谷城跡II	財団法人君津都市文化財センター
胆沢城跡	水沢市教育委員会	多古台遺跡群II	財団法人香取都市文化財センター
町屋敷遺跡	水沢市教育委員会	神奈川県埋蔵文化財調査報告44	神奈川県教育委員会生涯学習 文化財課
手形山南遺跡	秋田市水道局・秋田市教育委 員会・駒澤大学考古学研究室	稲荷山貝塚	財団法人かながわ考古学財団
高田B遺跡	仙台市教育委員会・宮城県道 路公社	原口遺跡III	財団法人かながわ考古学財団
今市遺跡	仙台市教育委員会	原口遺跡IV	財団法人かながわ考古学財団
若林城跡	仙台市教育委員会	佐原城跡遺跡	財団法人かながわ考古学財団
中在家南遺跡(第3・4次)・押口遺跡 (第3次)発掘調査報告書	仙台市教育委員会	上ノ町遺跡	財団法人かながわ考古学財団
八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書	仙台市教育委員会	杉浦平大夫邸跡 第3地点	財団法人かながわ考古学財団
姥久保遺跡IV	東京都南部住宅建設事務所	正覚寺やぐら群	財団法人かながわ考古学財団
姥久保遺跡III	東京都南部住宅建設事務所	川尻中村遺跡	財団法人かながわ考古学財団
お茶の水貝塚	東京都埋蔵文化財センター	大北横穴墓群	財団法人かながわ考古学財団
一三楽病院若葉寮地区一		池子遺跡群IX	財団法人かながわ考古学財団
市谷本村町遺跡	東京都埋蔵文化財センター	道志導水路関連遺跡	財団法人かながわ考古学財団
		南原遺跡	財団法人かながわ考古学財団
		比奈窪中屋敷横穴墓群	財団法人かながわ考古学財団
		恒武西宮遺跡II・笠井若林遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調 査研究所
		勝田井の口遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調 査研究所
		西の谷遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調 査研究所
		大平遺跡II	財団法人静岡県埋蔵文化財調 査研究所
		中原遺跡・宮裏遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調 査研究所
		藤守遺跡	財団法人静岡県埋蔵文化財調 査研究所
		下石田原田遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
		御幸町遺跡発掘調査報告書遺物編	沼津市教育委員会
		西洞遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
		拓南東遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会
		長塚古墳・清水遺跡発掘調査報告書	沼津市教育委員会

文献名	発行所	文献名	発行所
的場遺跡・上ノ段遺跡 一(国)175号 特殊改良第一種事業に伴う発掘調査 報告書一	兵庫県教育委員会	弥生時代の磨製石器	島根県埋蔵文化財調査センター・ 島根県古代文化センター
宝林寺北遺跡II	兵庫県教育委員会	史跡松江城整備事業報告書	松江市教育委員会
北口町遺跡	兵庫県教育委員会	ニッ縄手遺跡発掘調査報告書	松江市教育委員会
薬師前遺跡発掘調査報告書	兵庫県教育委員会	シアケ遺跡発掘調査報告書	伯太町教育委員会
深江北町遺跡 第9次	神戸市教育委員会	石見銀山 遺跡総合調査既報(2)	温泉津町教育委員会・仁摩町 教育委員会・大田市教育委員 会・島根県教育委員会
淡河木津遺跡 第1次・第2次発掘調 査報告書	神戸市教育委員会	妻木晩田遺跡	淀江町教育委員会
日輪寺遺跡発掘調査報告書	神戸市教育委員会	淀江町内遺跡VIII	淀江町教育委員会
日輪寺遺跡第4次～第7次調査	神戸市教育委員会	農学部遺跡1	香川大学埋蔵文化財調査室
兵庫県指定有形民俗文化財 沢の鶴大石蔵発掘調査報告書	神戸市教育委員会	幸の木遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
野瀬遺跡	神戸市教育委員会	祝谷西山遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
特別史跡姫路城跡	姫路市教育委員会	大久保遺跡・大久保1号墳	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
一お城本町地区市街地再開発事業に 伴う発掘調査既報一	姫路市教育委員会	中城跡 底なし田・遺跡 元城跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
TSUBOHORI姫路市埋蔵文化財調査 略報	姫路市教育委員会	土居窟遺跡2次・祝谷畑中遺跡・祝谷 本村遺跡2次	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
沼E遺跡I	津山市教育委員会	土居山遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
美作国分跡	津山市教育委員会	東峰遺跡第2・4地点 高見I遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
今岡庵寺	大原町教育委員会	湯築城跡 第5分冊	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
帝釈峽遺跡群発掘調査室年報XVI	広島大学大学院文学研究科	道後町遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調 査センター
屋敷古墳群・鋤崎古墳群・足頭古墳 群・長廻古墳群・海部城跡・杵子観 音・古墳群・杵子観音・遺跡	島根県教育委員会	伊台惣部遺跡	松山市教育委員会
御崎谷・遺跡	島根県教育委員会	桑原地区の遺跡IV	松山市教育委員会
一海軍望楼の官舎跡の調査一	島根県教育委員会	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 一1995・1996年度一	愛媛大学埋蔵文化財調査室
増補改訂 島根県遺跡地図・(石見編)	島根県教育委員会	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 一1997・1998年度一	愛媛大学埋蔵文化財調査室
田中谷遺跡・塚山古墳・下がり松遺 跡・角谷遺跡	島根県教育委員会	太宰府政庁跡	九州歴史資料館
東船遺跡 一旧石器時代から近代ま での複合遺跡の調査一	島根県教育委員会	堂畑遺跡I	福岡県教育委員会
馬場遺跡・杉ヶ掬遺跡・客山墳墓群・ 連行遺跡	島根県教育委員会	流川地区遺跡群	福岡県教育委員会
石見銀山	島根県教育委員会・大田市教 育委員会	宝満山遺跡群・浦ノ田遺跡III	福岡県教育委員会
石見銀山(能昌寺跡)	島根県教育委員会・大田市教 育委員会	原東遺跡 一原東遺跡 第2次調査	福岡県教育委員会
加茂岩倉遺跡	島根県教育委員会・加茂町教 育委員会	松門寺A遺跡	福岡県教育委員会
下山遺跡(2)	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	西新町遺跡IV	福岡県教育委員会
一縄文時代遺構の調査一	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	船越高原A遺跡III	福岡県教育委員会
貝谷遺跡	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	楠木遺跡群	福岡県教育委員会
小丸遺跡	国土交通省中国地方整備局 島根県教育委員会	福岡県埋蔵文化財発掘調査年報 一平成12年度一	福岡県教育委員会
上野・遺跡一弥生後期集落及び鍛冶 関連遺跡の調査一	日本道路公団中国支社・島根 県教育委員会	コノリ遺跡 一第3次調査報一	福岡市教育委員会
神原・遺跡一1997年の調査結果一	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	井尻B遺跡10	福岡市教育委員会
檀原遺跡(2)一自然科学分析編一	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	一井尻B遺跡第16次調査の報告一	福岡市教育委員会
殿淵山遺跡・獅子谷遺跡(1)	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	井相田D遺跡 一第1・3次調査一	福岡市教育委員会
一遺構・遺物編一	国土交通省中国地方整備局・ 島根県教育委員会	吉武遺跡群XIV 一飯盛・吉武園場整 備事業関係調査報告書8一	福岡市教育委員会
島根県出雲市 古志本郷遺跡IV・放 れ山横穴墓群・只谷間府・上沢・遺跡 (分析編)	日本道路公団中国支社・島根 県教育委員会	久保園遺跡2・席田青木遺跡4 一空 港線関係埋蔵文化財発掘調査報告書 元岡・桑原遺跡群1一 第2次調査の 報告	福岡市教育委員会
堤平遺跡	国土交通省中国地方整備局出 雲工事事務所・島根県教育委 員会	下山門敷町遺跡一下山門敷町遺跡第 3次調査報告一・下山門乙女田遺跡一 下山門乙女田遺跡第2次調査報告	福岡市教育委員会
馬場遺跡発掘調査報告書	日本道路公団中国支社・島根 県教育委員会	五十川遺跡一第5.6.7.8次調査の概要	福岡市教育委員会
白石大谷・遺跡・惣三堀遺跡 掘田ヶ 谷遺跡・地藏院遺跡・熊谷遺跡	日本道路公団中国支社・島根 県教育委員会	高畑遺跡 一第18次調査一	福岡市教育委員会
青銅器埋納地調査報告書I(銅鐸編)	島根県埋蔵文化財調査センター・ 島根県古代文化センター	鴻臚館跡12	福岡市教育委員会
		一平成11・12年度発掘調査報告書一	福岡市教育委員会
		鋤崎古墳 1981～1983年調査報告	福岡市教育委員会
		鋤崎古墳群3 B-5号墳の調査	福岡市教育委員会
		西新地区元寇防塁発掘調査報告書	福岡市教育委員会

受贈図書

文献名	発行所	文献名	発行所
大原D遺跡3—大原D遺跡群第5次・第6次調査報告—	福岡市教育委員会	三沢ハサコの宮遺跡III	小郡市教育委員会
那珂30—那珂遺跡第75次調査報告—	福岡県教育委員会	三沢古賀遺跡3	小郡市教育委員会
那珂31	福岡市教育委員会	三沢寺小路遺跡2	小郡市教育委員会
—那珂遺跡第77次・78次調査報告—		三沢北中尾遺跡1地点	小郡市教育委員会
那珂32—那珂遺跡第73次調査報告—	福岡市教育委員会	三沢蓬ヶ浦遺跡2	小郡市教育委員会
内ヶ磯窯跡2	福岡市教育委員会	寺福童遺跡2	小郡市教育委員会
萩ノ尾古墳	福岡市教育委員会	小郡宮衛周辺遺跡2	小郡市教育委員会
田島A遺跡—第3.4.5.6次調査報告	福岡市教育委員会	小郡若山遺跡6	小郡市教育委員会
博多80—御供所疎開跡地道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書—	福岡市教育委員会	小郡川原田遺跡II	小郡市教育委員会
博多81	福岡市教育委員会	小坂井連輪遺跡	小郡市教育委員会
—博多遺跡群第100次調査の概要—		上岩田周辺遺跡	小郡市教育委員会
博多82	福岡市教育委員会	福童山の上遺跡4	小郡市教育委員会
—博多遺跡群第115次調査の報告—		力武内畑遺跡3	小郡市教育委員会
博多83	福岡市教育委員会	力武内畑遺跡4	小郡市教育委員会
—博多遺跡群第127次調査の概要—		外野遺跡・荒木今宮脇遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
博多84	福岡市教育委員会	久留米市内遺跡群	久留米市埋蔵文化財センター
—博多遺跡群第122次発掘調査報告書—		久留米市埋蔵文化財調査集報IV	久留米市埋蔵文化財センター
博多85	福岡市教育委員会	金丸遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
—博多小学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—		鶴原待屋敷遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
麦野A遺跡	福岡市教育委員会	大園遺跡	久留米市埋蔵文化財センター
—麦野A遺跡群第10次調査報告—		筑後国府跡	久留米市埋蔵文化財センター
箱崎11	福岡市教育委員会	原ノ口遺跡	春日市教育委員会
—箱崎遺跡第16次調査報告—		須玖カクウタ遺跡	春日市教育委員会
箱崎12	福岡市教育委員会	立石遺跡	春日市教育委員会
—箱崎遺跡群第17次・第23次調査報告—		高祖遺跡群III	前原市教育委員会
箱崎13—箱崎遺跡第21次調査報告—	福岡市教育委員会	高田小生水遺跡	前原市教育委員会
板付市周辺遺跡調査報告書第23集	福岡市教育委員会	三雲・井原遺跡II	前原市教育委員会
板付周辺遺跡調査報告書第24集	福岡市教育委員会	三坂七尾遺跡	前原市教育委員会
板付周辺遺跡調査報告書第25集	福岡市教育委員会	神在横島遺跡	前原市教育委員会
飯倉C遺跡3 第5次調査	福岡県教育委員会	神在藤瀬家住宅	前原市教育委員会
彼坪遺跡I		飯原門口遺跡	前原市教育委員会
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告—14—	福岡市教育委員会	歳持境遺跡	前原市教育委員会
野方平原遺跡	福岡市教育委員会	萩浦天神社裏古墳	前原市教育委員会
—第1次・第2次調査の報告—		潜塚古墳II	大牟田市教育委員会
有田・小田部 第37集	福岡市教育委員会	三池集治監跡II	大牟田市教育委員会
立花寺B遺跡2	福岡市教育委員会	黒崎観世音塚古墳	大牟田市教育委員会
—都市高速道路5号線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—		大園遺跡	大牟田市教育委員会
ホリ遺跡	筑紫野市教育委員会	田隈柿添遺跡	大牟田市教育委員会
案内遺跡	筑紫野市教育委員会	田隈中屋敷遺跡	大牟田市教育委員会
永岡遺跡	筑紫野市教育委員会	梅林遺跡 第3次調査	大牟田市教育委員会
貝元遺跡1	筑紫野市教育委員会	塚口遺跡	大野城市教育委員会
山家地区史跡整備調査報告I	筑紫野市教育委員会	大野城市の文化財 第34集	大野城市教育委員会
柴田城峯畑遺跡第7次調査	筑紫野市教育委員会	山田西遺跡群III	宗像市教育委員会
袖ノ木遺跡	筑紫野市教育委員会	宗石遺跡群	那珂川町教育委員会
太宰府条坊跡	筑紫野市教育委員会	徳政宮ノ上遺跡	那珂川町教育委員会
太宰府条坊跡	筑紫野市教育委員会	追額遺跡I	夜須町教育委員会
大曲り遺跡II	筑紫野市教育委員会	八ヶ坪遺跡	夜須町教育委員会
峰古野1号墳	筑紫野市教育委員会	三並宮ノ前遺跡・本宮遺跡・鎌瀬遺跡	夜須町教育委員会
峯畑遺跡	筑紫野市教育委員会	城山遺跡群IV	夜須町教育委員会
堀池遺跡II	筑紫野市教育委員会	赤坂古墳群I	夜須町教育委員会
老松神社古墳群	筑紫野市教育委員会	曾根田前田遺跡I	夜須町教育委員会
大保西小路遺跡2	小郡市教育委員会	曾根田前田遺跡III	夜須町教育委員会
横隈仕解田遺跡	小郡市教育委員会	惣利遺跡I	夜須町教育委員会
横隈十三塚遺跡I	小郡市教育委員会	大坪遺跡II	夜須町教育委員会
横隈十三塚遺跡2	小郡市教育委員会	大木遺跡III	夜須町教育委員会
横隈上内畑遺跡3	小郡市教育委員会	中原遺跡	夜須町教育委員会
横隈上内畑遺跡4	小郡市教育委員会	藤坂古墳群II	夜須町教育委員会
横隈上内畑遺跡6	小郡市教育委員会	梨子木遺跡	夜須町教育委員会
花立山古墳群1	小郡市教育委員会	広園地区遺跡	吉井町教育委員会
干潟遺跡6	小郡市教育委員会	吉井中学校遺跡遺構編	吉井町教育委員会
干潟狼山遺跡	小郡市教育委員会	改築に伴う埋蔵文化財発掘調査	
三沢ヶ浦遺跡4	小郡市教育委員会	吉井町遺跡群 屋部西文蔵遺跡	吉井町教育委員会
		吉井町遺跡群 千年地区遺跡群 千年小森遺跡・千年西田遺跡	吉井町教育委員会
		宇野地区遺跡群IV 一福岡県築上郡	新吉富村教育委員会
		新吉富村所在遺跡群の調査—	

文献名	発行所	文献名	発行所
東北アジアにおける先史文化の比較考古学的研究	九州大学大学院人文科学研究院	上ノ原遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
権現原遺跡 権現原遺跡2区	佐賀市教育委員会	蔵座村遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
一弥生時代集落の調査一		長瀬原遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
権現原遺跡 権現原遺跡2区	佐賀市教育委員会	東九州自動車道(都農～西都間)関連埋蔵文化財発掘調査報告書II	宮崎県埋蔵文化財センター
一弥生時代集落の調査一		東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書II	宮崎県埋蔵文化財センター
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書	佐賀市教育委員会	内城跡	宮崎県埋蔵文化財センター
一1999年度一		南学原第1遺跡・南学原第2遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書	佐賀市教育委員会	白ヶ野第2・第3遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
一1999年度一		白ヶ野第2・第3遺跡 上の原第1遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
上和泉遺跡群・上和泉遺跡9区	佐賀市教育委員会	迫内遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書15一		別府原遺跡・西ヶ迫遺跡・別府原第2遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
上和泉遺跡群・上和泉遺跡9区	佐賀市教育委員会	母智丘谷遺跡・如田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書15一		本城跡	宮崎県埋蔵文化財センター
石土井遺跡・上九郎遺跡	佐賀市教育委員会	木脇遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター
石土井遺跡・上九郎遺跡	佐賀市教育委員会	宮崎県文化財年報III	宮崎県教育委員会
増田遺跡群	佐賀市教育委員会	西都原100号墳	宮崎県教育委員会
一増田遺跡4・5区の調査一		西都原古墳群	宮崎県教育委員会
徳永遺跡群VI 徳永遺跡20区	佐賀市教育委員会	横市地区遺跡群 江内谷遺跡・坂元B遺跡・加治屋B遺跡(第1次調査)	宮崎県都城市教育委員会
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書13一		横市地区遺跡群 肱穴遺跡(1)/今房遺跡/馬渡遺跡(第1次)	宮崎県都城市教育委員会
徳永遺跡群VII 徳永遺跡21区	佐賀市教育委員会	下久玉遺跡 第9・10次調査	宮崎県都城市教育委員会
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書14一		桑原遺跡	宮崎県都城市教育委員会
徳永遺跡群VIII 徳永遺跡3区・上和泉遺跡8区一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書16一	佐賀市教育委員会	志和池村古墳・9号墳	宮崎県都城市教育委員会
徳永遺跡群IX 徳永遺跡7・16区	佐賀市教育委員会	大浦遺跡	宮崎県都城市教育委員会
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書17一		大久保第2遺跡	宮崎県都城市教育委員会
徳永遺跡群X 徳永遺跡13・19区	佐賀市教育委員会	大島畠田遺跡	宮崎県都城市教育委員会
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書18一		池ノ友遺跡(第1次調査)	宮崎県都城市教育委員会
徳永遺跡群XI 徳永遺跡17区	佐賀市教育委員会	天神遺跡第2次・中町遺跡第3次調査	宮崎県都城市教育委員会
一佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書19一		平峰遺跡	宮崎県都城市教育委員会
平尾二本杉遺跡I-1区の調査一	佐賀市教育委員会	稲荷下遺跡II	宮崎県えびの市教育委員会
平尾二本杉遺跡II-2～6区の調査一	佐賀市教育委員会	小岡丸地区遺跡群	宮崎県えびの市教育委員会
佐志中通遺跡(2)	唐津市教育委員会	草刈田遺跡	宮崎県えびの市教育委員会
川頭遺跡	唐津市教育委員会	干道遺跡「I」概要・縄文時代遺構	鹿児島県立埋蔵文化財センター
天神ノ元遺跡	唐津市教育委員会	干道遺跡「II-1」縄文土器1	鹿児島県立埋蔵文化財センター
唐津市内遺跡確認調査(18)	唐津市教育委員会	干道遺跡「II-2」縄文土器2	鹿児島県立埋蔵文化財センター
安国寺遺跡・原遺跡ほか	国東町教育委員会	干道遺跡「III」縄文時代石器ほか・付篇	鹿児島県立埋蔵文化財センター
原遺跡亀井1地区・原遺跡平原1地区・原遺跡七郎丸1遺跡	国東町教育委員会	干道遺跡「IV」写真図版	鹿児島県立埋蔵文化財センター
国史跡 安国寺集落遺跡	国東町教育委員会	九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡 東九州自動車道建設(末吉IC～国分IC間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I	鹿児島県立埋蔵文化財センター
飯塚遺跡	国東町教育委員会	計志加里遺跡 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II	鹿児島県立埋蔵文化財センター
上城遺跡	久住町教育委員会	高井田遺跡 国道10号始良バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿児島県立埋蔵文化財センター
中殿遺跡	久住町教育委員会	今里遺跡 一南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV-(伊集院IC～市来IC)	鹿児島県立埋蔵文化財センター
原の辻遺跡	原の辻遺跡保存等協議会	寿国寺跡・梅落遺跡 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 IV	鹿児島県立埋蔵文化財センター
原の辻遺跡	長崎県芦辺町教育委員会	出水平遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
原の辻遺跡 一低地溜め池設置工事に伴う緊急発掘調査報告書一	長崎県芦辺町教育委員会	諏訪免遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
特別史跡 原の辻遺跡 一原の辻遺跡記念物保存修理に伴う発掘調査一	長崎県芦辺町教育委員会	鍛冶屋馬場遺跡 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III	鹿児島県立埋蔵文化財センター
特別史跡 原の辻遺跡 一青銅製権に関する自然科学分析の成果報告一	長崎県芦辺町教育委員会	池之頭遺跡 一南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書III-(伊集院IC～市来IC)	鹿児島県立埋蔵文化財センター
特別史跡金田城跡環境整備基本計画概要書	美津島町教育委員会		
矢立山古墳群発掘調査概報(2)	厳原町教育委員会		
沈目遺跡	城南町教育委員会		
先史琉球の生業と交易	熊本大学文学部		
屋敷遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター		
柿迫遺跡・龍泉寺遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター		
枯木ヶ迫遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター		

受贈図書

文献名	発行所	文献名	発行所
茶屋ノ元遺跡、鏡・安原遺跡、宮野脇遺跡、小松遺跡、前市野原遺跡、東下原遺跡九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書I	鹿児島県立埋蔵文化財センター	外園遺跡	松元町教育委員会
小倉畑遺跡 一般国道10号始良バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(I)	鹿児島県立埋蔵文化財センター	宮ノ上遺跡	鹿児島県吉田町教育委員会
松尾城跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター	健昌城跡	始良町教育委員会
本御内遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター	立山B遺跡	大崎町教育委員会
鹿児島市遺跡分布図	鹿児島市教育委員会	常盤原遺跡	鹿児島県郡山町教育委員会
原田久保遺跡	鹿児島市教育委員会	「仲覚兵衛顕彰事業」調査報告書	ミュージアム知覧
武遺跡E地点	鹿児島市教育委員会	田平下遺跡	財部町教育委員会
名山遺跡	鹿児島市教育委員会	楠川城跡	鹿児島県上屋久町教育委員会
春日町遺跡B地点	鹿児島市教育委員会	立切遺跡	鹿児島県薩摩郡中種子町教育委員会
伊作城跡	吹上町教育委員会	志喜屋武当遺跡	鹿児島県知名町教育委員会
		ヤッチのガマ・カンジン原古墓群	沖縄県立埋蔵文化財センター
		円覚寺跡一遺跡確認調査報告書一	沖縄県立埋蔵文化財センター
		浦添ようどれI	浦添市教育委員会
		大里城跡一都市公園計画に係わる緊急確認発掘調査報告書(2)	沖縄県大里村教育委員会

埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第 1 条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議)

第 2 条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各学部長、附属図書館長、医学部附属病院長および歯学部附属病院長

(3) 事務局長

(4) 学生部長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第 5 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の 3 分の 2 以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査委員会)

第 7 条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。

第 8 条 調査委員会は次の事項を審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 第 13 条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

(3) 第 13 条に規定する調査室の予算に関すること。

(4) その他埋蔵文化財及び第 13 条に規定する調査室の業務に関すること。

第 9 条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

(1) 各学部の教授、助教授、講師の中から選任され

た者各 1 名

(2) 第 15 条 2 項に規定する調査室長

2 前項第 1 号の委員の任期は 2 年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 10 条 調査委員会に委員長を置き、前項第 1 項第 1 号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第 11 条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第 12 条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査室)

第 13 条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第 14 条 調査室は、次の業務を行なう。

(1) 調査実施計画の立案

(2) 発掘調査、分布調査及び確認調査

(3) 調査報告書の作成

(4) その他必要な事項

第 15 条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第 16 条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 18 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の

任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和51年1月22日制定)は、廃止する。

付則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(平成12年4月1日現在)

委員長 石田忠彦(鹿児島大学副学長)

委員 辰村吉康(法文学部長)

中山右尚(教育学部長)

井上政義(理学部長)

永田行博(医学部長)

納 光弘(医学部附属病院長)

大工原恭(歯学部長)

井上裕喜(歯学部附属病院長)

矢野利明(工学部長)

下川悦郎(農学部長)

上田耕平(水産学部長)

荒井 啓(連合農学研究科長)

山口建太郎(事務局長)

岩本義男(学生部長)

石田尚治(附属図書館長)

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員(平成14年4月1日現在)

委員長 辻尾昇三(工学部教授)

委員 本田道輝(法文学部助教授)

日隈正守(教育学部助教授)

竹内 亨(医学部教授)

田中卓男(歯学部教授)

古川一男(理学部教授)

松元光春(農学部助教授)

中村啓彦(水産学部講師)

新田栄治(調査室長併任 法文学部教授)

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長(併) 法文学部教授 新田栄治

主任(併) 法文学部助教授 中村直子

(併) 法文学部助手 新里貴之

技術補佐員 寒川朋枝

技術補佐員 松本益幸(王 力明)

付編1 郡元団地 L-6 区(中央図書館増築地 A・B 地点)における発掘調査

1. 調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地に位置する中央図書館の増築を予定している。増築予定地は、第1次調査に、中央図書館の南側(A地点)、第2次調査として、図書館の南西側(B地点)、北西側の隣接地点(C地点)である。周辺部では、1975年調査の釘田第1地点¹⁾において、古墳時代後半期の住居跡が20基以上検出された。また、1980年の中央図書館工事の際には、多量の遺物が出土していたらしく、遺物の一部が図書館職員によって保管されていた²⁾。

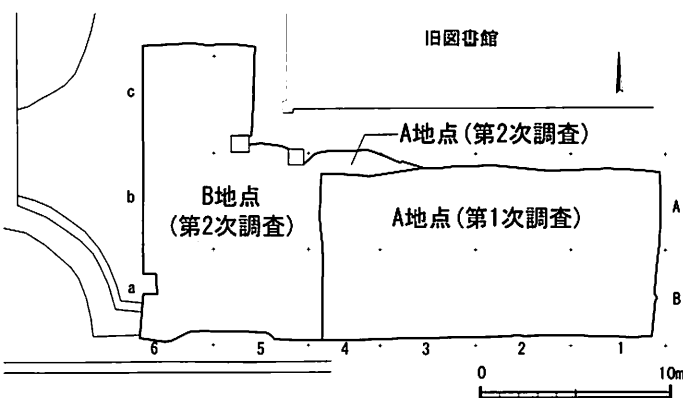


Fig.26 調査地点配置図(S=1/400)

本地点においても、良好な状態で遺跡が包蔵されている可能性が高く、発掘調査を実施した。

今回の報告は、整理作業期間の都合上、第1次調査のA地点と、第2次調査B・C地点のうち、B地点のみを報告し、C地点は、3次調査D・E地点とともに次号に譲る。

2. 調査体制

調査は下記の体制で行った。

Tab.5 調査体制

第1次調査	第2次調査
所在地 鹿児島市郡元1-21-25	所在地 鹿児島市郡元1-21-25
期間 1993(平成5)年1月20日-3月30日	期間 1993(平成5)年5月13日-9月10日
面積 A地点190㎡	面積 B地点のみ120㎡
主体者 埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄	主体者 埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄
担当 埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄	担当 埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄
埋蔵文化財調査室室員 中村直子	埋蔵文化財調査室室員 中村直子
大西智和 前 幸男 松村みどり	峰山いづみ 大西智和 前 幸男
作業員 安部松伊都子, 奥谷ミエ子, 岩川エミ子, 岩戸ツツ子, 岩戸シズ子, 岩川ミツ子, 積田アキエ, 積田チリ, 坂口ミエ子, 寺光ミツ子, 末吉サミ, 末吉ミヤ, 原訪田フサエ, 谷口アル, 田野邊昭徳, 中塚チツ子, 名塚ヒデ子, 西住司, 西村チエ子, 野下チリ子, 野下ヨシエ, 福水シノブ, 福水花江, 牧島加子, 増岡ミエ子, 松下ミチ, 盛岡アイ子, 柳田キミ子, 柳田二三子, 岩永セツ子, 脇ツルエ, 脇俊子	作業員 柳田二三子, 名塚ヒデ子, 盛岡アイ子, 坂口ミエ子, 奥谷ミエ子, 福水花江, 福水シノブ, 柳田キミ子, 古澤生, 池口洋人, 西谷彰, 横手香二郎, 甲斐光代, 小八重睦子, 今村加子, 西中川泉, 星野恵美, 小原愛, 国分リカ, 上地浩, 中村由美子, 坂本裕子, 脇川泉子, 西住司, 松島恵子

2次調査は、中央図書館を挟んで南北に分かれ、A地点に西接した部分をB地点、北側をC地点としている。また、A地点検出の住居跡(SK4)の北・西の拡張部の調査も行われた(Fig.26)。B・C地点の調査は、同時並行して行われ、遺構などは、調査の都合上、連続番号が両地点にまたがって付けられている。そのため、今回の報告における遺構欠番は、C地点に属するものである。

B地点は、東西方向はA地点に準ずるように、連続番号としたが、A地点西壁を基準に西方向へ改めて5mメッシュのグリッドを設定し、東から西に5、6とした。したがって、A・B地点の境界である4の東西長は、5mではなく、4.249mである。また、南北方向は、A地点とは異なり、C地点を見通して、南から北へa-cとした。

3層上面からは、土坑1基(SK1)が検出された。4層上面からは、A地点の続きで、溝状遺構(SD1-3)が検出された。また、浅い落ち込み(SK2)も検出されている。5層上面では、直線状に伸びる溝状遺構(SD5-7)、浅い落ち込み(SK11)、多数のピット群を検出した。A地点の拡張部では、A地点の住居跡(SK4)や土坑(SK6)の、それぞれの続きと、ピット群が検出されている。これらの調査を完了し、5層地山を検出して、調査を終了した。

3. 調査の経過

A地点は、5mメッシュでグリッドを設定し、東から西へ1-4、北から南へA・Bとした(Fig.26)。

表土層は、重機によって除去し、プライマリーな層である2層以下より手作業による掘削を行なった。掘削は層ごとに遺構を確認し、写真撮影・実測・測量・遺物取り上げを行いながら進行した。3層上面では土坑が2基(SK1-2)、4a層上面では溝状遺構2条(SD1-2)、4b層上面では、土坑1基(SK3)が確認されている。5層上面では、住居跡(SK4)1軒と土坑3基(SK5-7)、ピット群が検出されている。調査は5層上面までを掘り下げ、地山として検出、確認した時点で終了した。

4. 層位(Fig.27-32, Tab.6・7, PL.4-8)

基本的に、A地点とB地点の土層は整合的であり、対応している。5枚の層に大別され、それぞれが内容物や若干の色調の相違で、さらに細分されている。

1層は、表土層や大学造成時の攪乱層である。2層は、中近世以降の水田層である可能性がある。3層は、時期が不明の水田層である。4層は、古墳時代後半期を中心とする遺物包含層で、最も遺物量が多い。5層は粗砂の層で地山であり、基本的に遺物を含まない。

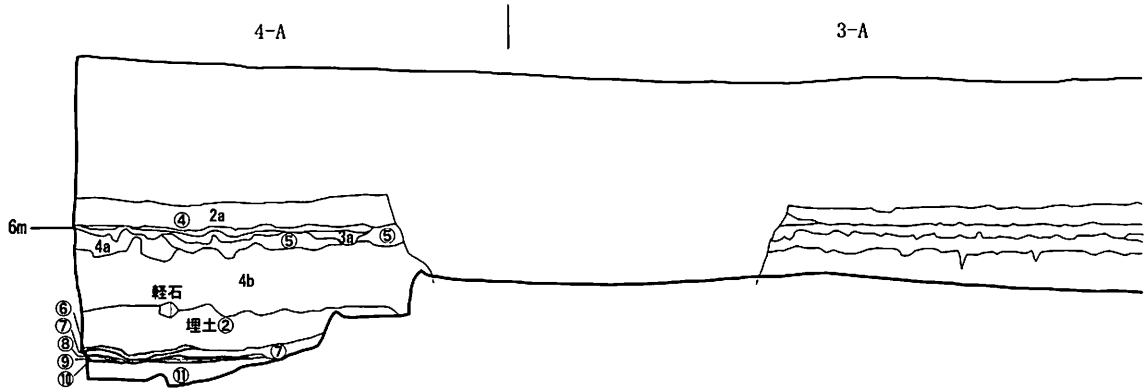


Fig.27 A地点北壁(S=1/60)

Tab.6 A地点基本土層

層序	色調・内容	性格など
1層		表土・客土
2a層	灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂.軽石含む. 締まりよい.	遺物包含層.
2b層	灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂.軽石含む. 締まりよい.	遺物包含層.
3a層	灰黄褐色(10YR6/6)シルト質砂.	遺物包含層.上面よりSK1-2検出.
3b層	明黄褐色(10YR6/8)シルト質砂.軽石含む.	遺物包含層.
3c層	にぶい黄褐色(10YR5/2)シルト質砂.	遺物包含層.
3d層	オリーブ褐色(2.5YR4/6)シルト質砂.軽石含む.明黄褐色(10YR6/8)ブロックを含む.	遺物包含層.
4a層	灰褐色(7.5YR4/2)砂質シルト.粒子が細かい.鉄分の浸透.	遺物包含層.上面よりSD1-2検出.
4b層	黒褐色(5YR3/1)砂質シルト.	遺物包含層.上面よりSK3検出
4c層	褐灰色(7.5YR4/1)粗砂混じりシルト.	遺物包含層.
5層	にぶい黄褐色(10YR7/4)粗砂.	上面よりSK4-7,ピット群検出.

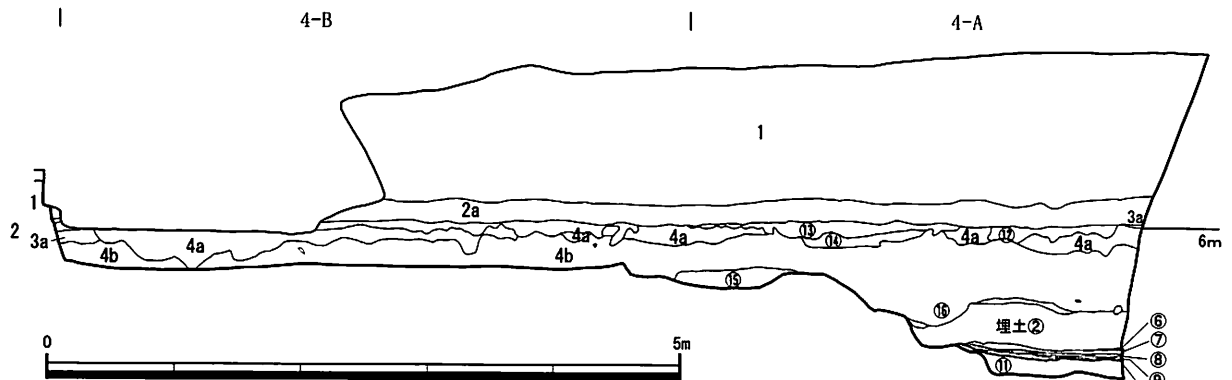
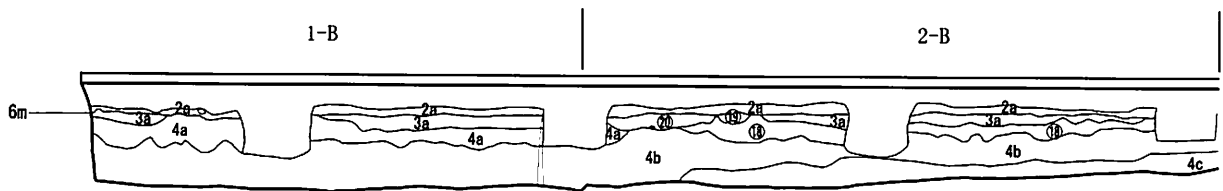
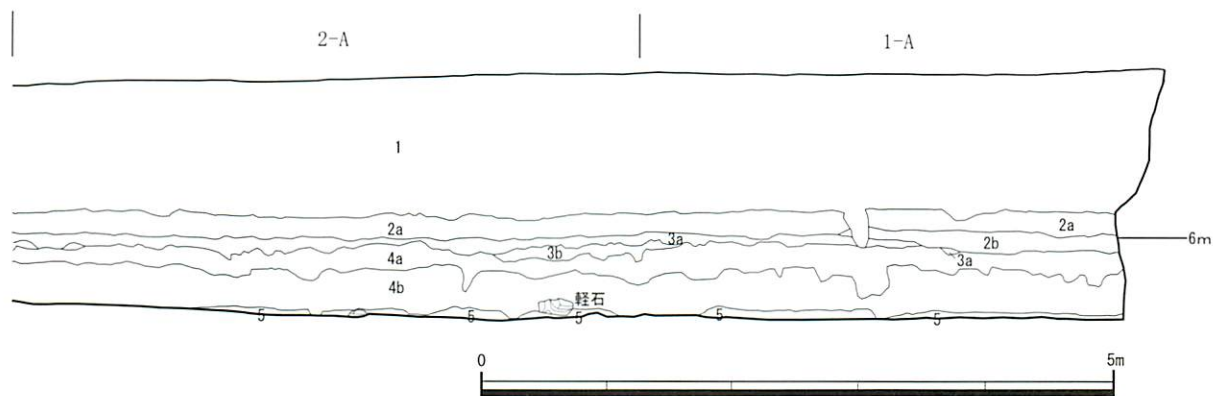


Fig.28 A地点西壁(S=1/60)



- ① 明黄褐色10YR6/6. 軽石を含む. 2b層と3a層土の中間色. 3層に近い.
- ② 5a層土. 4層土をブロック状に含み, 3層土を基調としている.
- ③ にぶい褐色7.5YR5/3. 軽石含む.
- ④ にぶい黄褐色10YR7/4. 粗砂層. 軽石.
- ⑤ ⑩に類似. ⑩より砂質. 黄色味が強く, 色が濃い.
- ⑥ 炭の層.
- ⑦ 細かい白砂層を基調とした炭との混土.
- ⑧ 黒色7.5YR2/1, 砂混じり. 炭.
- ⑨ 細かい白砂層を基調とした炭との混土
- ⑩ オリーブ褐色2.5Y3/3暗炭層.
- ⑪ 砂と4b層の混土. 基調は5層土.
- ⑫ にぶい黄褐色2.5YR6/3. シルト質砂. 軽石小粒を含む.
- ⑬ 浅黄色2.5YR7/3. 粗砂. 軽石粒・礫を含む.

Fig.30 A地点南壁(S=1/60)



PL.4 A 地点東壁



PL.5 A 地点北壁

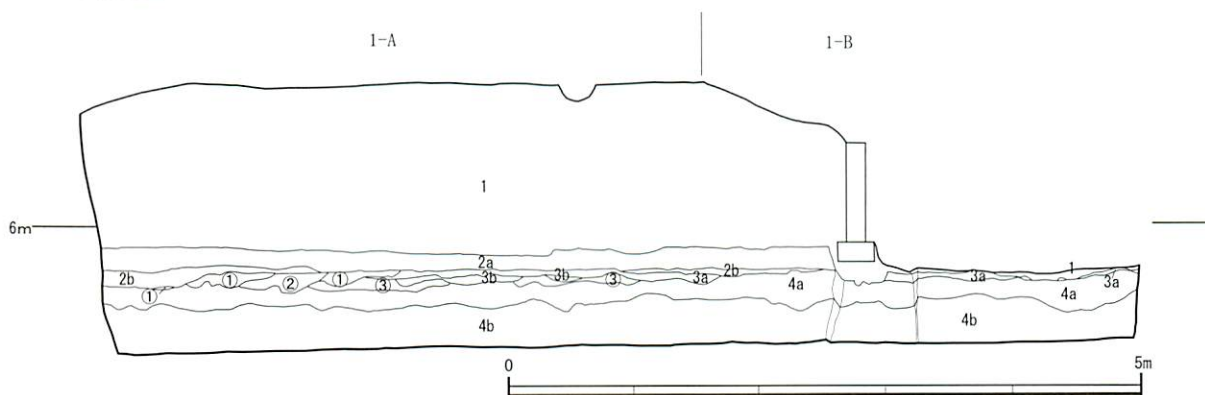
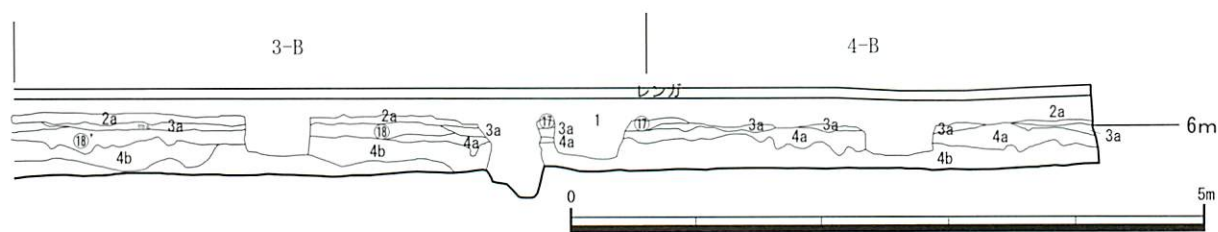


Fig.29 A 地点東壁(S=1/60)



- ⑭ 明黄褐色2.5Y6/8. 粗砂層. 軽石小粒を少し含む.
- ⑮ 黒褐色10YR3/1. シルト質砂. 下部は砂質.
- ⑯ 4b層土と砂との混土.
- ⑰ 2層土を基調としたカクラン. 3層土・5層土をブロックで含む.
- ⑱ オリーブ褐色2.5Y4/6を基調とする. 明黄褐色10YR6/8をブロック状に含む. シルト質砂. 軽石を含む.
- ⑲' 灰褐色7.5YR5/2を基調とするシルト質砂. 東側ほど褐色を帯びる.
- ⑲ SD2の埋土. 浅黄色2.5Y7/3粗砂を基調とする. 明黄褐色2.5Y6/8粒を含む. 軽石を含む.
- ⑳ SD2の埋土. 明黄褐色2.5Y6/8粗砂を基調とする. 軽石粒, 2cm大の礫を多く含む. 上部に, 浅黄色2.5Y7/3粗砂ブロックを含む. 埋土⑳ 黒褐色10YR3/1. シルト質砂. 埋土上部より砂質.



PL.6 A 地点南壁

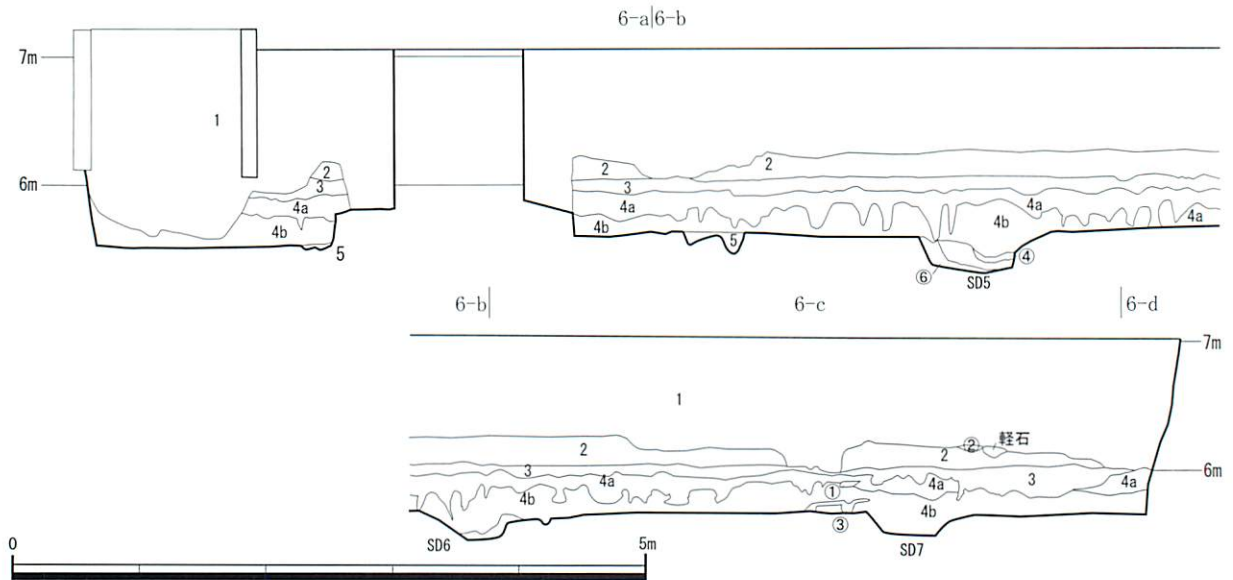


Fig.31 B 地点西壁(S=1/60)



PL.7 B 地点西壁

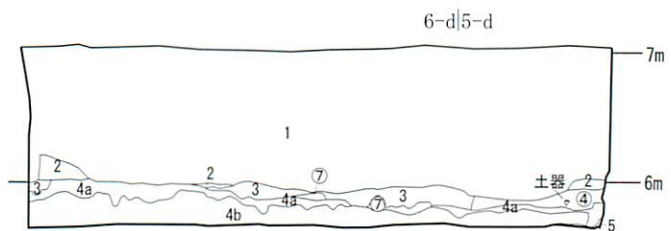


PL.8 B 地点北壁

- ① オリーブ褐色2.5Y6/1 シルト質砂。5mm～1cm大の軽石を含む。
- ② 黄灰色2.5Y5/1 シルト質砂。
- ③ 明褐色7.5Y5/8からにぶい黄褐色10YR6/4、樹痕。
- ④ 褐色10YR4/4 シルト質砂。SD5埋土。
- ⑤ オリーブ黒7.5Y3/1 シルト質砂。SD5埋土。
- ⑥ にぶい黄褐色10YR4/3 シルト質砂。SD5埋土。
- ⑦ 明灰褐色2.5Y5/2を基調として、4a・4b層をブロック状に含む。



Fig.32 B 地点北壁(S=1/60)



Tab.7 B 地点基本土層

層序	色調・内容	性格など
1層		表土・客土
2層	黄灰色(2.5YR6/1)シルト質砂。0.5-1cm大の軽石含む。	遺物包含層。
3層	明黄褐色(10YR7/6)粗砂混じりシルト質砂。0.5-1cm大の軽石含む。	遺物包含層。上面よりSK1検出。
4a層	黒褐色(7.5YR3/1)砂質シルト。締まりよい。鉄分の浸透。	遺物包含層。上面よりSK2,SD1-3検出。
4b層	黒褐色(2.5Y3/1)砂質シルト。	遺物包含層。
5層	褐色(10YR4/1)粗砂。	A地点の(SK4)の続き、上面よりSD5-7,SK11,ピット群検出。

5. 遺構・遺物

5-1. A・B 地点 1 層(表土・出土地不明)出土遺物
(Fig.33,Tab.8,PL.11・12)

1 層出土遺物は、重機で表土層を除去した後、攪乱部分に残った遺物を中心に採集されている。また、調査時に出土し、

調査地点や層位が分からなくなった遺物もここに含めた。遺物は、弥生時代中期、古墳時代、近世の遺物が含まれ(Fig.33), ほかにも近・現代の遺物が出土している。この一帯の遺物の包蔵状況を反映している(PL.11)。

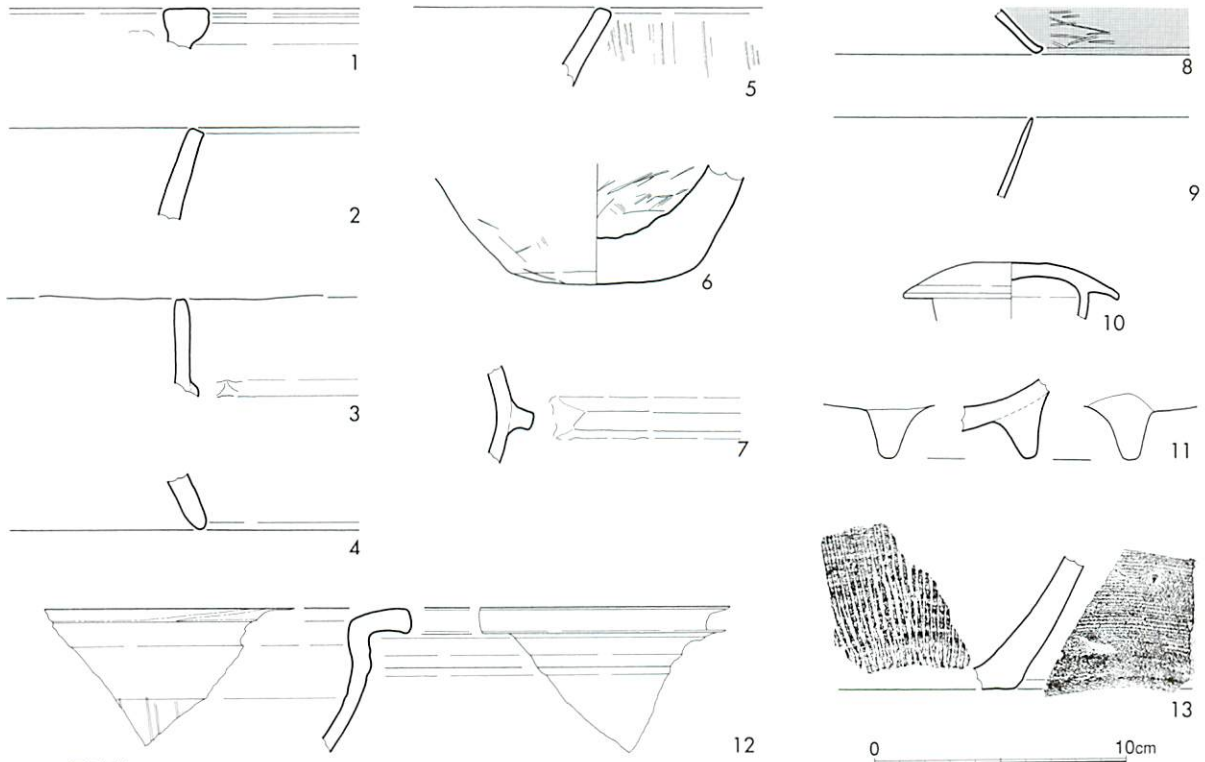


Fig.33 1 層遺物(S=1/3)



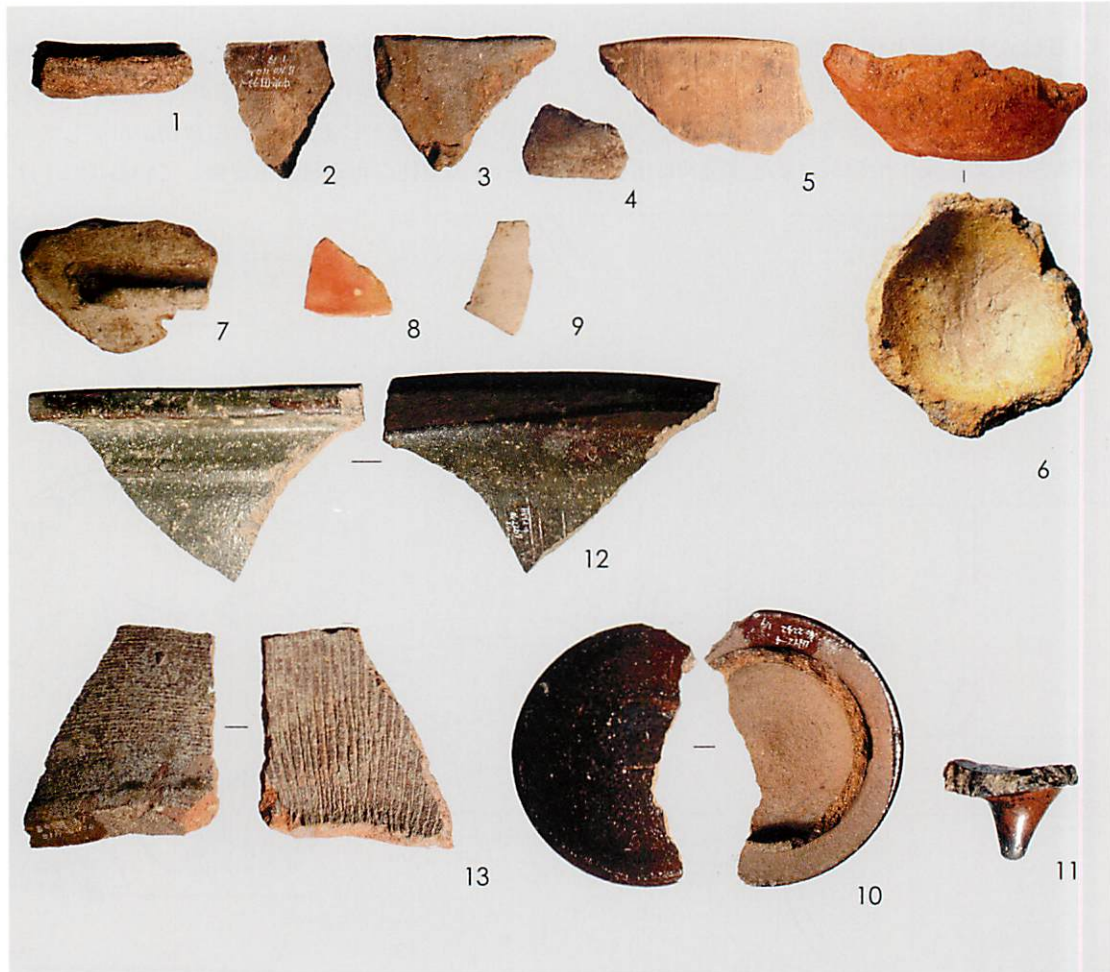
PL.9 A 地点表土掘削



PL.10 B 地点表土掘削



PL.11 近・現代の遺物



PL.12 1 層出土遺物

Tab.8 1 層出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
1 SK? A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面・器内:にぶい橙に類似7.5YR7/4.	礫:白色粒・赤色粒. 粗砂:角閃石・石英. 砂:石英. 細砂:黒色粒・角閃石?	2	内面:ハケ().	
2 1 B	古墳	甕	口縁部	内・外面:にぶい黄褐10YR5/3. 器内:黒褐2.5Y3/2.	粗砂:白色粒. 細砂:石英・白色粒・黒色粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:ヨコナデ.	
3 ?	笹貫式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/3. 内面・器内:鉄分付着のため不明.	砂:黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:鉄分付着のため不明.	貼付突帯1条.
4 表採 2次調査	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器内:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:粗いヨコナデ.	
5 1 A	古墳	壺?	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙10YR7/4. 器内:灰黄2.5Y7/2.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケ()→ナデ(). 内面:丁寧なヨコナデ.	
6 1 A	弥生か 古墳	壺	底部	外面:にぶい黄橙10YR7/3. 内面:明黄橙10YR6/8. 器内:灰黄褐10YR6/2.	礫:角閃石・石英.	4	内・外面:ハケ. 内面:ハケによる打ち込み痕多.	底径7.0cm.
7 ? A	弥生?	壺	胴部	外面:浅黄に類似2.5Y7/3. 内面:浅黄に類似2.5Y7/4. 器内:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	1	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	羽釜状把手つき.
8 1 A	古墳	高杯	脚部	外面:赤褐2.5YR4/6. 内面:鉄分付着のため不明. 器内:浅黄橙10YR8/3.	細砂:黒色粒(極少).	1	外面:ミガキ. 内面:鉄分付着のため不明.	外面:赤色顔料塗布.
9 表採 2次調査	東原式	埴	口縁部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 器内:浅黄橙10YR8/3.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	内・外面:ヨコナデ.	
10 1 A	薩摩焼	土瓶	蓋	釉:暗赤褐に類似5YR3/2. 光沢あり. 素地:にぶい黄褐に類似10YR5/3.	砂:黒色粒・白色粒.	3	外面:施釉. 内面:無釉.	近世. 苗代川系. 径(8.6cm).
11 1 A	薩摩焼	土瓶	脚部	釉:鉄釉(にぶい赤褐5YR4/4・黒). 不透明釉. 光沢あり. 素地:にぶい黄橙10YR6/3.	砂:黒色粒・白色粒.	4	内・外面とも施釉.	近世. 苗代川系.
12 1 A	薩摩焼	播鉢	口縁部	内・外面:灰10Y4/1. 素地:灰褐5YR4/2.	砂:白色粒. 細砂:透明粒.	1	内・外面とも施釉.ただし口縁上面は釉が拭き取られる(拭き残し部分が線状に残る).	18世紀. 苗代川系.
13 1 B	薩摩焼	播鉢	底部	釉:暗褐7.5YR3/3. 素地:橙2.5YR6/6.	礫:白色粒. 砂:白色粒・黒色粒.	3	外面:ハケ(—). 底部まで釉垂れ.	近世. 苗代川系.

5-2. A・B地点2層出土遺物(Fig.34-36, Tab.9-11, PL.13-15)

2層以下は、プライマリーな層であり、現代の大規模な攪乱は受けていない。

A・B地点における2層出土の遺物は、弥生時代-古墳時代の土器小破片や、須恵器、ほかに中世の中国青磁・白磁、備前焼插鉢、近世以降の薩摩焼、肥前磁器などが認められる。また、土錘や、古銭の出土もあった(Tab.38)。

遺物の出土量からすれば、近世代のものが多く、2層の形成時期は、この時期に近いと考えられる。しかし、青磁などの中世陶磁器も出土していることから、近隣に中世の遺物包含層や生活域が存在する可能性もある。

2層は、土壌プラント・オパール分析によれば、最もイネの含有量が高く、水田であった可能性が高いが、ヨシなどが検出されていないため、水田のような湿潤な環境にあったかは不明な部分もある(付編2参照)。

Tab.9 古銭

No.	層	銭径	孔径	銭厚	重量	備考
19	2a	永曆通寶 24mm / 24mm	6mm / 6mm	1mm	2.40g	初鈔1647年清朝初期。背面：無文。

Tab.10 石器

大学構内遺跡において、古墳時代後半期を中心とする集落跡でもときおり黒曜石の破片や剥片が出土することがある。帰属時期は不明である。

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
25	2b	竜ヶ水産	2.35	1.95	1.1	4.32

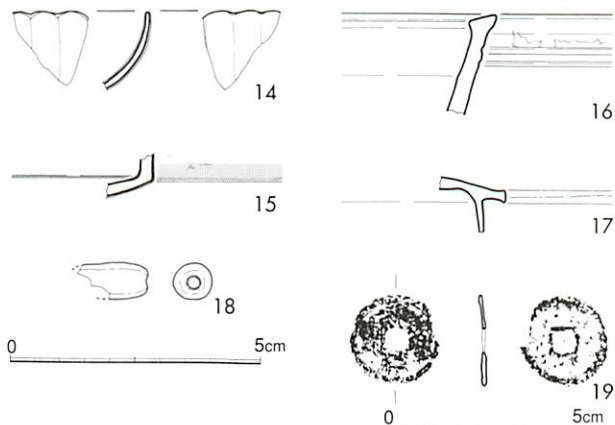


Fig.34 A地点2a層出土遺物(S=1/3), (19)はS=1/2

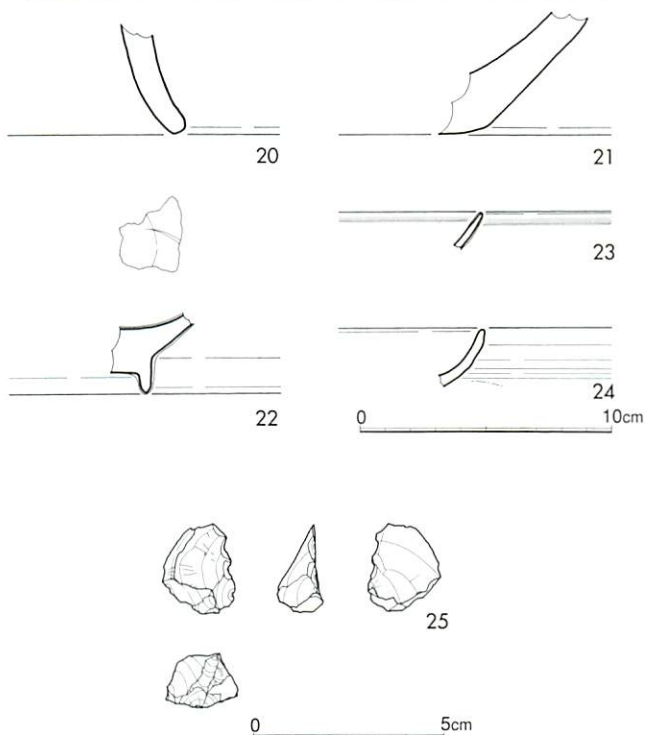
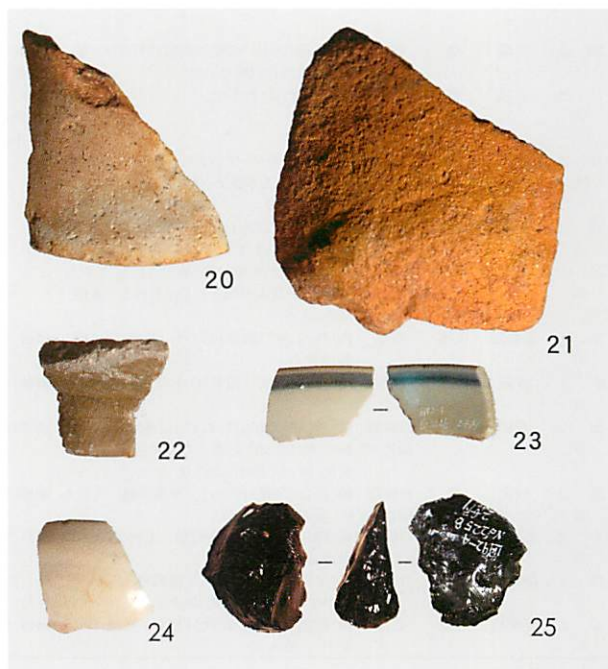


Fig.35 A地点2b層出土遺物(S=1/3), (25)はS=1/2



PL.13 A地点2a層出土遺物



PL.14 A地点2b層出土遺物

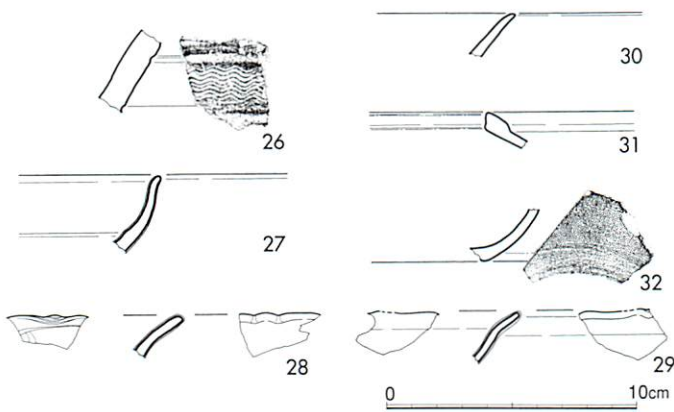
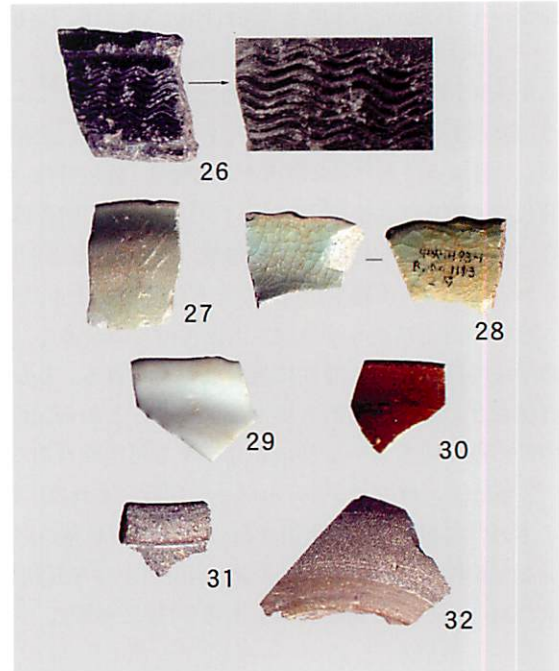


Fig.36 B地点2層出土遺物(S=1/3)

26は、須恵器の大甕の頸部破片である。小破片のために、時期は不明。突帯下に横位の櫛描波状文を施す。



PL.15 B地点2層出土遺物

Tab.11 A・B地点2層出土遺物観察

No.	層	地点	種別	器種	部位	色調	胎土			備考
							混和材	砂粒の多さ	調整	
14	2a	A	青磁	皿?	口縁部(稜花)	釉:不透明(風化か?),明緑灰に類似GY7/1. 光沢少ない,素地:白色.		1	内・外面とも施釉.	近世,肥前系.
15	2a	A	染付	筒碗	胴部	釉:透明釉.光沢あり.全体に細かい貫入が認められる.素地:灰白2.5Y8/1.		1	内・面とも施釉.外面:文様あり.内面:屈曲部に線状の文様.	18世紀末~19世紀初.肥前系.
16	2a	A	薩摩焼	鉢	口縁部	釉:黒に類似5Y2/1.若干光沢あり.素地:灰褐に類似7.5YR4/2.	砂:黒色粒.細砂:白色粒.	1	内・外面とも施釉.ただし口縁上には釉が拭き取られる.外面:無釉部位あり.2条の凹線.	近世,苗代川系.
17	2a	A	薩摩焼	土瓶	蓋	釉:黒10YR2/1.光沢あり.不透明釉.素地:赤10R5/6.		2	外面のみ施釉(口縁端部上半まで).	近世,苗代川系.
18	2a	A	土鐘		内・外面・器内	にぶい黄橙10YR7/4.	砂:角閃石.細砂:黒色粒・白色粒・透明粒.	7		直径:14.2mm.中心孔:4.5mm.一部欠損.
20	2b	A	古墳	甕	脚台	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4.器内:浅黄橙10YR8/3.	砂:角閃石・黒雲母・石英.細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面とも丁寧なナデ.	
21	2b	A	古墳	壺	底部	鉄分付着のため不明.	粗砂:白色粒・石英.砂:白色粒・黒色粒・石英.細砂:黒色粒・透明粒.	5	鉄分付着のため不明.	
22	2b	A	青磁	碗	脚部	透明釉:灰オリーブ5Y5/3.光沢あり.全面に細かい貫入が認められる.素地:灰白に類似2.5Y8/2.		1	内外面とも施釉.	中世,中国産.
23	2b	A	染付	皿?	口縁部	釉:灰白2.5GY8/1.不透明釉.光沢あり.素地:灰白5Y8/1.		1	内・外面とも施釉.口縁端部に暗青灰色5BG4/1のライン(内・外面とも).	肥前系.
24	2b	A	白薩摩?	皿?	口縁部	釉:透明釉が非常に薄く施釉される.光沢あり.細かい貫入が全面に認められる.素地:灰白2.5Y8/2.		1	下端部で一部素地が露胎.	
26	2	B	須恵器	大甕	頸部	内・外面:灰に類似10Y4/1.器内:灰に類似10Y6/1.	細砂:黒色粒.	1	外面:ヨコナデ.内面:剥落が著しい.	櫛描波状文.
27	2	B	青磁	椀?	口縁部	釉:オリーブ灰に類似5GY6/1.素地:灰白に類似5Y7/1.	細砂:黒色粒・白色粒.	1	内面:僅かに貫入が認められる.内・外面とも施釉.	中世,中国産.
28	2	B	青磁	皿?	口縁部(輪花?)	釉:明緑灰に類似7.5GY7/1.透明釉.光沢あり.全体に細かい貫入が認められる.素地:灰白に類似7.5Y7/1.	細砂:黒色粒.	1	内・外面とも施釉.	中世,中国産.内面:文様あり(草花?).
29	2	B	白磁	皿	口縁部(輪花?)	釉:灰白に類似10Y8/1.不透明釉.光沢あり.素地:灰白N8/0.	細砂:黒色粒.	1	内・外面とも施釉.	中世,中国産.
30	2	B	薩摩焼	皿	口縁部	釉:褐10YR4/4.不透明釉.光沢少ない.素地:灰10Y6/1.	細砂:黒色粒・白色粒.	1	内・外面とも施釉.	近世,加治木・始良系.
31	2	B	薩摩焼	土瓶	口縁部	釉:オリーブ黒5Y3/1.不透明釉.あまり光沢がない.素地:赤褐10R4/4.	砂:白色粒.細砂:黒色粒・白色粒.	1	口縁内面:ヨコナデ.内・外面とも施釉.	近世,苗代川系.
32	2	B	薩摩焼	急須	底部	釉:鮫肌.光沢あり.灰5Y5/1.素地:灰オリーブ5Y4/2.	細砂:黒色粒・白色粒.	1	内・外面とも施釉.	19世紀,龍門司.

5-3. A・B地点3層上面検出遺構(Fig.37-40,Tab.12,PL.16-23)

3層上面検出遺構は、A地点において、土坑2基(SK1・2)、B地点において、土坑1基(SK1)が確認されている。

A地点SK1は、検出面からの深さが9-10cm、埋土は、2b層土で、灰黄色2.5Y6/2シルト質砂。パミスを含む。壁面の様子から(Fig.29;A地点東壁参照)、遺構で

はなく、自然の層の落ち込みである可能性が高い。

A地点SK2は、推定径約0.6-1.0mの楕円形で、深さ9.5-10cmを計る。埋土は、2b層土で、灰黄色2.5Y6/2シルト質砂。パミスを含む。(Fig.39)。

B地点SK1は、推定径約0.93-1.0mの楕円形で、深さ13-15cmである。埋土は、黄灰色2.5Y6/1シルト質砂0.5-1.0cm大のパミスを含む(Fig.40)。

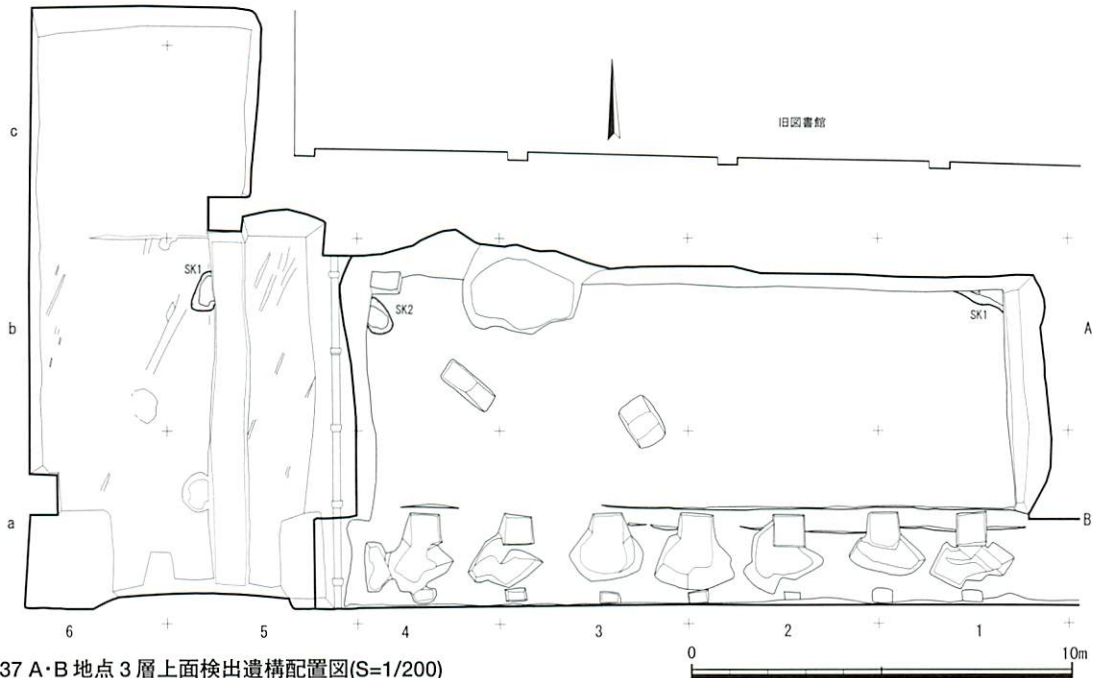


Fig.37 A・B地点3層上面検出遺構配置図(S=1/200)



PL.16 A地点SK1 検出状況



PL.17 A地点SK1 完掘状況

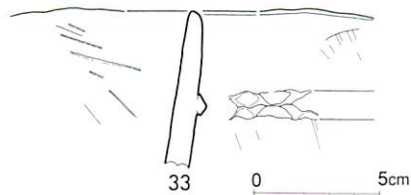


Fig.38 A地点SK1 出土土器(S=1/3)



PL.18 A地点SK1 出土遺物

典型的な笹貫式甕である。突帯貼り付けの際につまんだ指頭圧痕が、突帯上に明瞭に残る。

Tab.12 A地点SK1 出土遺物観察

No.	地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の多さ		
33	SK1 A	笹貫式	甕	口縁部	外面: 褐10YR4/6. 内面: 橙7.5YR6/6. 器肉: 灰白2.5Y8/2.	礫: 白色粒. 粗砂・角閃石・石英・白色粒. 細砂: 黒色粒・透明粒.	3	外面: ハケ(), 内面: ハケの打ち込み痕あり.	絡縄突帯1条.

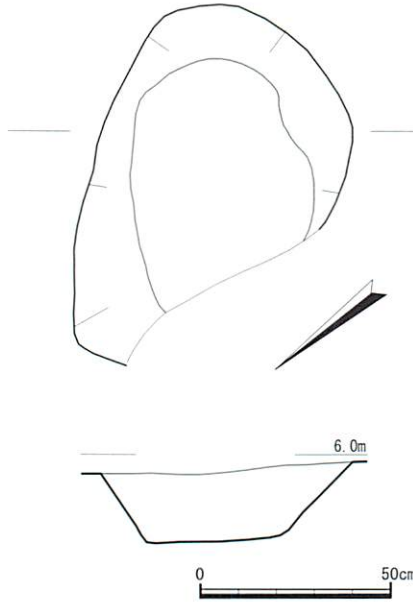


Fig.39 A 地点 SK2(S=1/20)

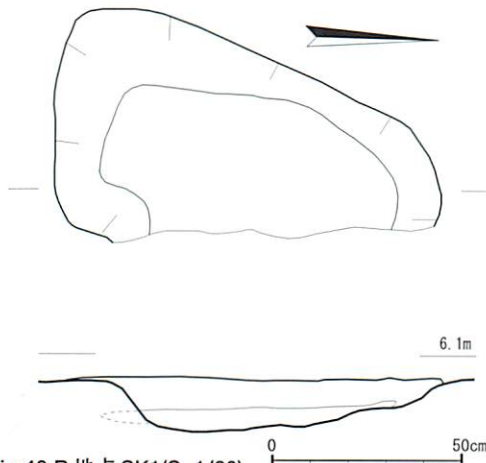


Fig.40 B 地点 SK1(S=1/20)
断面は見通し。



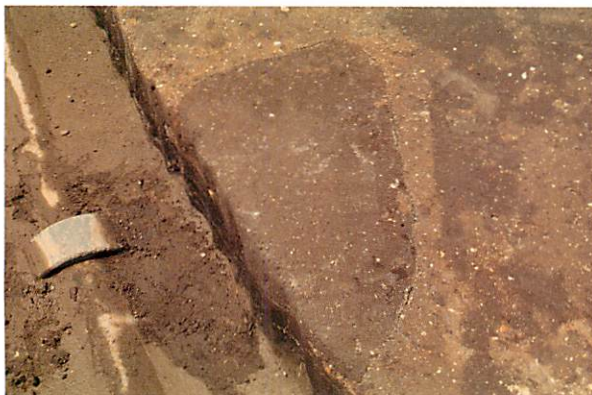
PL.19 作業風景 1



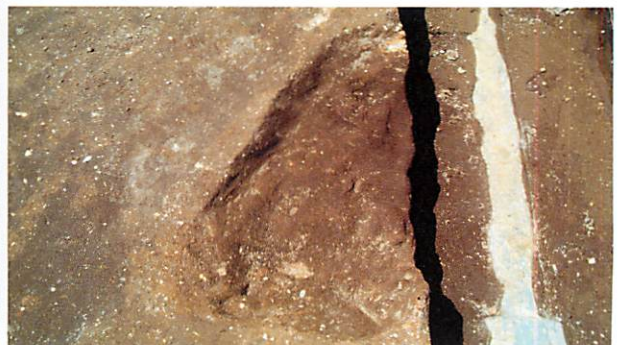
PL.20 作業風景 2



PL.21 B 地点 SK1 断面
断面の形状も不整形であり、浅く、底面に凹凸がみられる。このことも自然な落ち込みか、樹根の可能性があると考えられる。



PL.22 B 地点 SK1 検出状況



PL.23 B 地点 SK1 完掘状況

5-4. A・B地点3層出土遺物(Fig.41・42,Tab.13, PL.24・25)

3層出土遺物は、古墳時代後半期の遺物が中心に、わ

ずかに1点、薩摩焼(苗代川系)の羽釜資料が含まれている(Tab.38)。この資料は、2層形成段階における、何らかの落ち込みによるものであると考えられる。

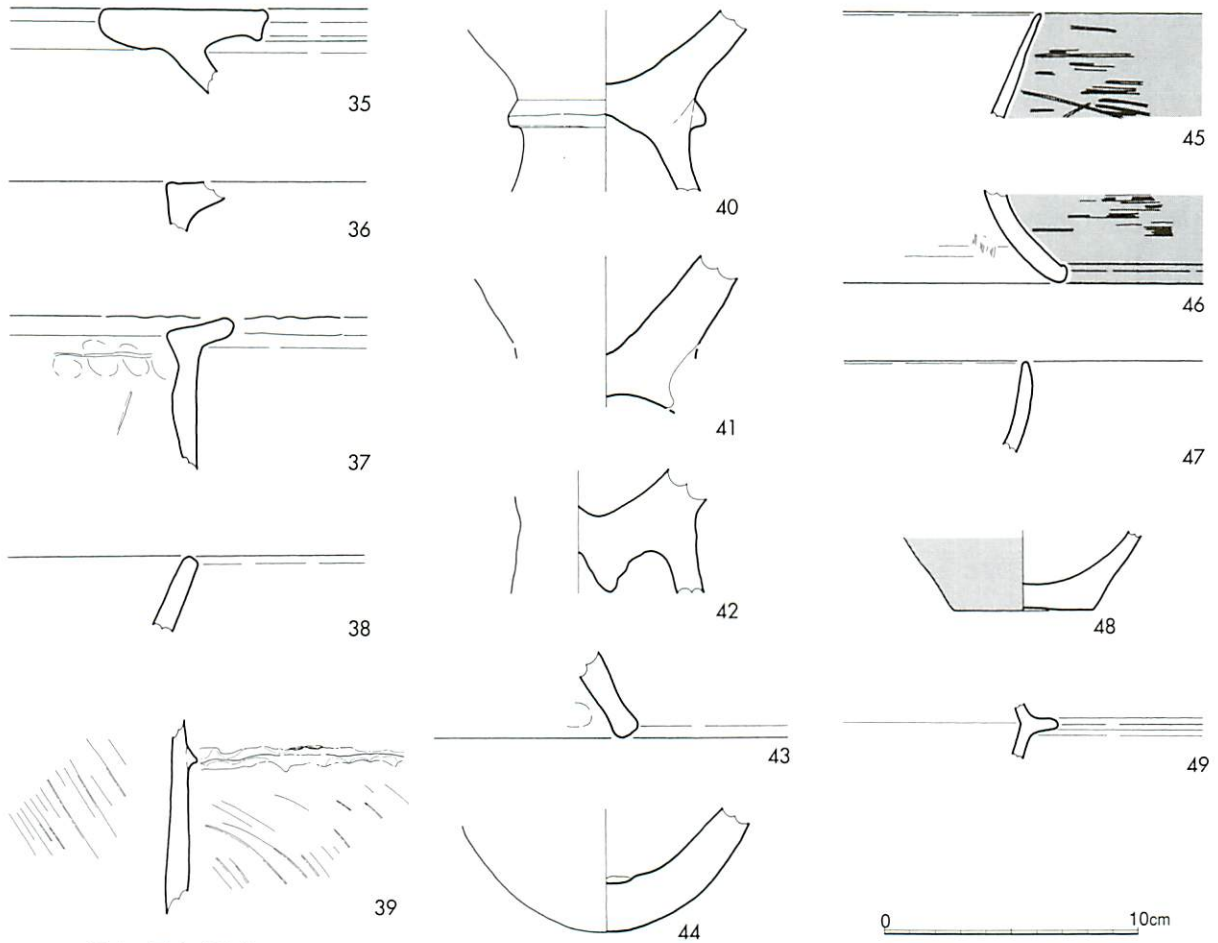
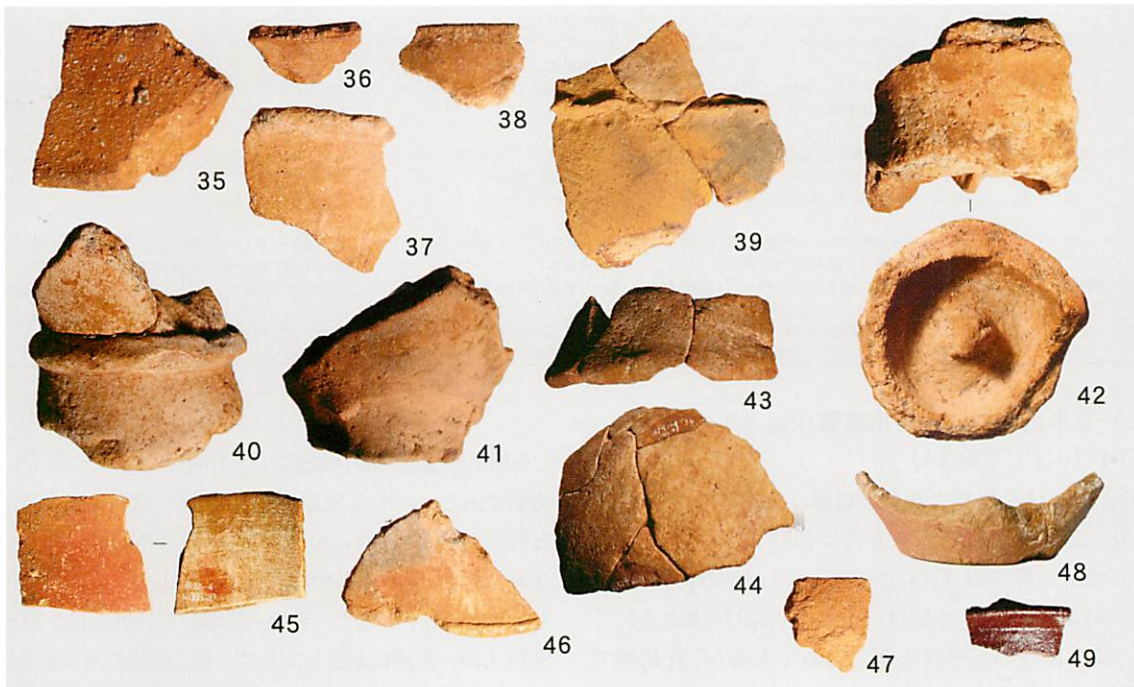


Fig.41 A地点3層出土遺物(S=1/3)



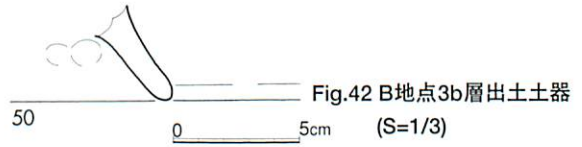
PL.24 A地点3層出土遺物

35は、甕棺の口縁部資料であるが、近年、鹿児島県内での出土例が増加してきている。口縁部上部平坦面の長さは、約6.5cmで、さほど大きな甕ではない。

36・37は、弥生時代中期に属すると考えられるが、つくりが雑である。

38-43, 45-48・50は、古墳時代のもので、甕(38-43・50)、鉢(77)、高杯(46)、埴(48)などがある。

42の脚部内面の突起は、いわゆる「舌型」³⁾に属する資料で、やや低い。古墳時代後半期に散見されるものである。41は全形が不明であるが、立ち上がりのしっかりとした厚みから、甕であると判断した。40の脚部の接合部に突帯を巡らせて加飾するものも、多くはないが、散見されるものである。



PL.25 B地点3b層土器

Tab.13 A・B地点3層出土遺物観察

No.	層	地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
35	3	A	須玖式	甕棺	口縁部	外面:橙に類似5YR6/6. 内面:器肉にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫・粗砂:石英. 砂:石英・雲母. 細砂:雲母・透明粒.	5	口唇部(内外面)ヨコナデ. 全体に剥落が著しい.	搬入品.
36	3	A	弥生	甕	口縁部	鉄分付着・摩滅のため不明.	礫:黒曜石・石英. 粗砂:砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	5	鉄分付着・摩滅のため不明.	
37	3	A	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:黒色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケの打ち込み痕. 摩滅. 内面:ユビオサエ. 摩滅.	接合痕あり.
38	3	A	古墳	甕	口縁部	内・外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:にぶい黄橙10YR7/4.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ(一).	
39	3	A	古墳	甕	胴部	内外面:鉄分付着のため不明. 器肉:にぶい黄橙10YR6/3.	砂:黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	内外面:粗いハケ(一).	
40	3	A	古墳	甕	脚台付近	内外面:浅黄橙10YR8/4. 器肉:浅黄橙7.5YR8/4.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ・ナデ(一). 内面:粗いナデ.	接合痕あり. 三角突帯1条.
41	3	A	古墳	甕	底部	外面:明黄褐10YR6/6. 内面:明黄褐10YR6/8. 器肉:鉄分付着のため不明.	礫:石英・白色粒・灰色粒. 粗砂:砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ナデ. 内面:摩滅.	
42	3	A	古墳	甕	底部	外面:黄橙10YR8/6. 内面:灰黄橙10YR6/2. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	6	外面:ナデ. 内底面:ハケ→ナデ.	
43	3	A	古墳	甕	脚台付近	外面:浅黄橙10YR8/3. 内面:明黄橙に類似10YR7/6. 器肉:橙5YR6/6.	粗砂:石英. 砂:黒色粒・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:摩滅. 内面:ヨコナデ.	
44	3	A	弥生か古墳	壺	底部	外面:明黄褐10YR6/6. 内面:器肉:黄褐10YR5/6.	砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	2	内面:ユビオサエ.	
45	3	A	古墳	高杯か鉢	口縁部	外面:明赤褐に類似2.5YR5/6. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:にぶい黄2.5Y6/3.	粗砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	1	外面:ミガキ(ただし鉄分付着のため不明). 内面:ヨコナデ.	外面:赤色顔料塗布. 内面:顔料が指頭状に残る.
46	3	A	古墳	高杯	脚部	外面:黄褐10YR5/6. 内面:黄褐10YR5/8. 器肉:灰白10YR8/2.	粗砂:角閃石. 砂:角閃石・灰色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ(一). 内面:ナデ(一)→ヨコナデ.	外面:赤色顔料塗布.
47	3	A	古墳	鉢	口縁部	鉄分付着のため不明.	鉄分付着のため不明.	2	鉄分付着のため不明.	
48	3	A	古墳	埴	底部	外面:赤10R5/6. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:淡黄2.5Y8/3.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(鉄分の付着により不明). 内面:鉄分付着のため不明. 底径(5.6cm)	外面:赤色顔料塗布.
49	3	A	薩摩焼	羽釜	鏝	内・外面:暗赤褐2.5YR3/3. 素地:橙2.5YR6/6.	砂:白色粒. 細砂:白色粒・黒色粒.	2	内・外面とも施釉.	19世紀以降. 苗代川系.
50	3b	B	古墳	甕	脚台	外面:浅黄橙7.5YR8/4. 内面:鉄分付着のため不明. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・灰色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ. 内面:ナデ・ユビオサエ.	

5-5.A・B地点4層上面検出遺構(Fig.43-50, Tab. 14-18, PL.26-41)

A地点における4a層上面検出遺構は、SD1・2, SD1a・1bがあり、これらは北西-南東方向に伸びている。また、4b層上面検出遺構SK3は、推定径約0.9-1.1mの楕円形で、性格不明である。B地点では、SD1-3, SK2が検出されており、SK2は浅い方形の落ち込みであるが、住居跡であるという確証がなかった。

A地点のSD1=SD1b=SD2は、方向性から考えて、同一の遺構である。A地点SD2=SD1aも同一遺構に属するものと考えられる。これらの埋土には、粗砂や細砂が多量に含まれ、また、肩の平面形状も凹凸が著しく、人為的なものとは考えにくい。また、B地点において検出されたSD1やSD3も同一方向にあるとすれば、約5m幅の河川があったか、湿地における浅い自然流路の可能性が高い。断面形状か

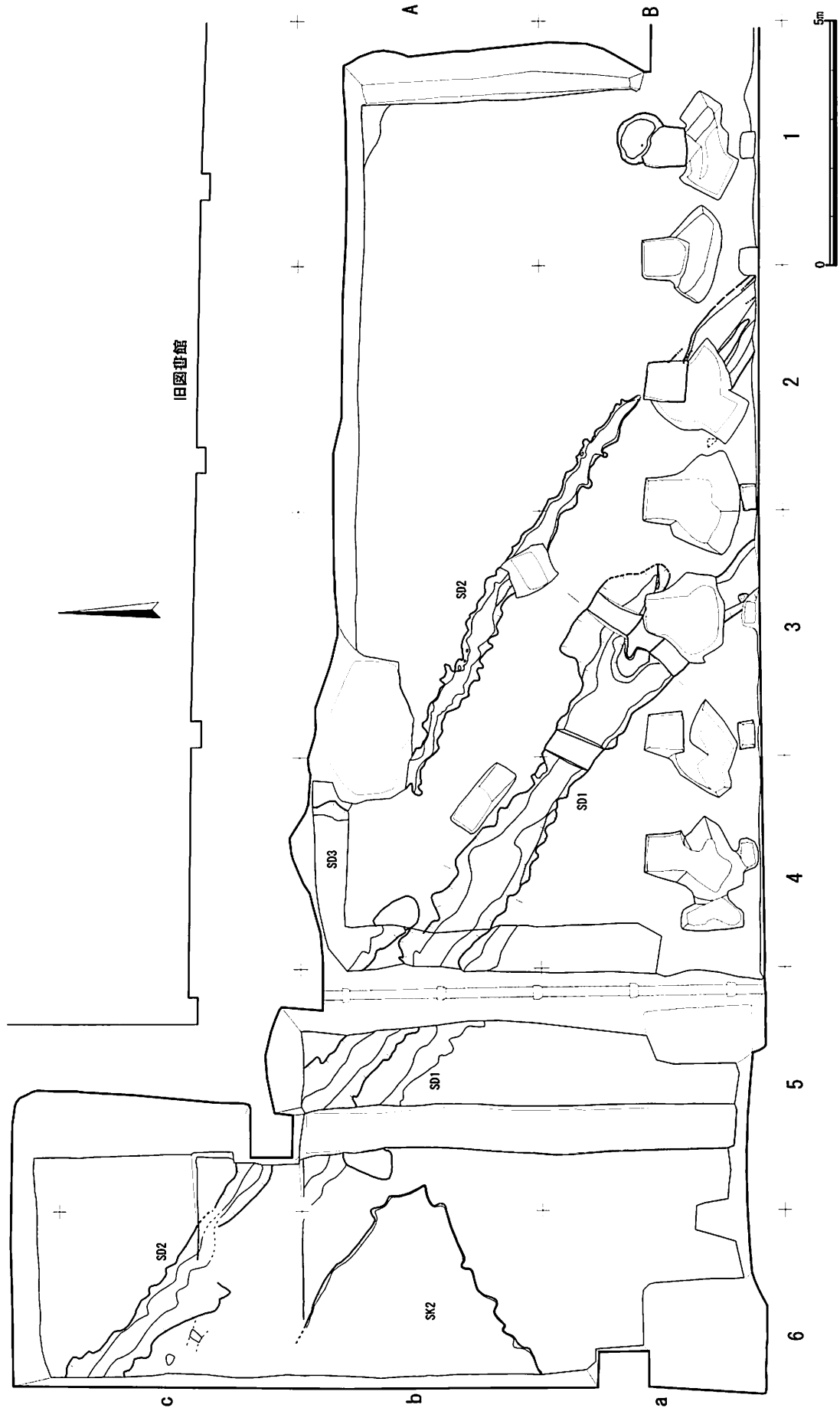
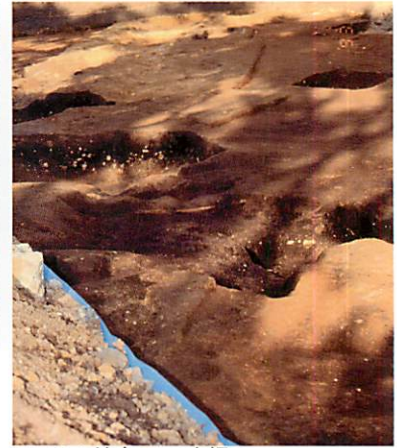


Fig.43 A・B地点4層上面検出遺構(S=1/120)

らみると(PL.28),
2層土の堆積時に,
削平されたように,
上部がなくなっ
ている。しかし, 付
編2にあるように,
3層の土壤プラ
ント・オパール定
量分析では, かな
りの量でイネ・ヨ
シが検出されてお
り, 水田の可能
性がある。しか
し, その周辺には
他の遺構は認め
られていない。



PL.26 A 地点 SD1 検出南側



PL.27 A 地点 SD1 完掘



PL.28 A 地点 SD1 断面

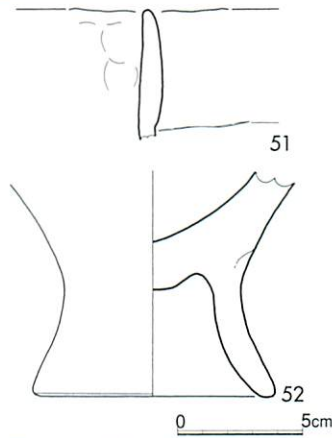


Fig.44 A 地点 SD1 出土土器(S=1/3)



PL.29 A 地点 SD1 出土土器

Tab.14 A 地点 SD1 出土土器観察

No. 地点	層 種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
51 A	SD1 古墳	甕	口縁部	鉄分付着のため不明.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ナデ, 内面:ナデ・ユビオサ エ.	貼付突帯の接合痕あ り.
52 A	SD1 古墳	甕	脚台	外面:明黄褐10YR7/6. 内面:黒褐2.5Y 3/2. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	粗砂・砂:角閃石・石英, 細砂: 黒色粒・透明粒.	4	内・外面:ナデ.	底径(9.0cm).



PL.30 A 地点 SD2 検出

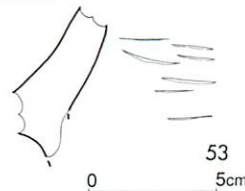


PL.31 A 地点
SD2 完掘



PL.32 A 地点 SD2 断面

Fig.45 A 地点 SD2
出土土器
(S=1/3)



PL.33 A 地点 SD2 出
土土器

Tab.15 A 地点 SD2 出土土器観察

No. 地点	層 種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
53 A	SD2 弥生か 古墳	甕	底部	外面:明黄褐10YR6/6. 内面:明黄褐10YR 6/8. 器肉:鉄分付着のため不明.	縦・粗砂:灰色粒, 砂:角閃石 ・石英, 細砂:黒色粒.	4	内・外面とも剥落. 外面:ハケの 打ち込み痕あり.	



PL.34 B 地点 SD1・2 検出状況

B地点SD2において、作業台石らしき石器の破損品が出土している(54)。片面に磨面があり、片面は自然面のままで、加工痕らしきものは見当たらない。

出土状況からは、時期判断が困難であるが、遺跡の性格から、弥生時代あるいは古墳時代に属するものが、後世の流路による削平であられたものとみなしたい。



PL.36 B 地点 SD2 出土石器

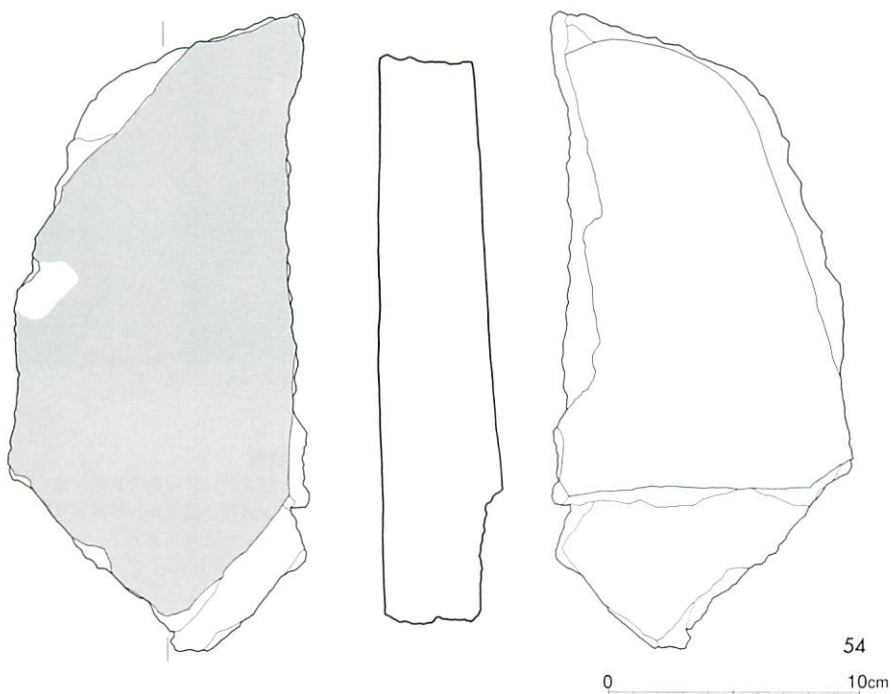
54



PL.35 B地点SD2
完掘

Tab.16 B 地点 SD2 出土石器観察

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
54	SD2	輝石安山岩	25.1	11.8	4.8	1350	作業台



54

0 10cm

Fig.46 B 地点 SD2 出石器(S=1/3)

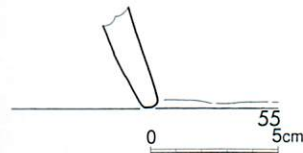


Fig.47 B 地点 SD3 出土遺物(S=1/3)



PL.38 B 地点 SD3 出土遺物

PL.37 B 地点 SD3 完掘状況

Tab.17 B 地点 SD3 出土土器観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
55 SD3 B	古墳	甕	脚台	内・外面・器内:橙7.5YR6/6.	粗砂:石英, 砂:角閃石・黒色	1	内・外面:ヨコナデ.	

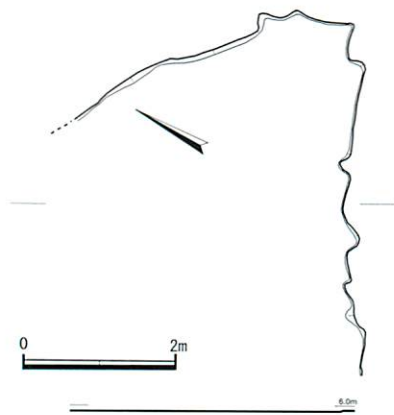


Fig.48 B 地点 SK2 (S=1/100)
深さ2-3cm程度しかなく、土層の落ち込みである可能性が高い。

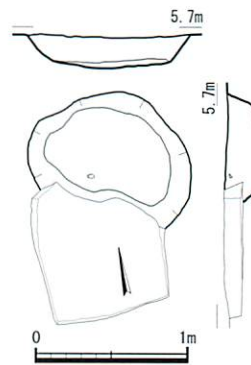


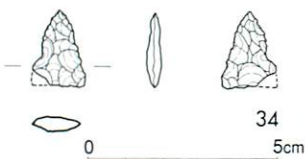
Fig.50 A 地点 4b 層上面検出 SK3(S=1/50)



PL.39 B 地点 SK2 完掘



PL.41 A 地点 4b 層上面検出 SK3 完掘



34 Fig.49 B 地点 SK2 出土石鏃 (S=1/2)



34 PL.40 B 地点 SK2 出土石鏃

Tab.18 B 地点 SK2 出土石鏃観察

長さ2cm程度の石鏃であり、技法的に縁辺部の剥離が粗く、大雑把である。本調査区の出土遺物の状況から判断すれば、弥生時代中期ごろの遺物ではないかと考えられる。

No. 層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
34 SK2	ホルンフェルス化した頁岩	2	1.5	0.41	0.85

5-6.A・B地点4層出土遺物(Fig.51-56,Tab.19-28, PL.42-49)

4層は、A・B地点において、最も遺物の出土量の多い層である。出土遺物は5層上面で検出される遺構の時期に近いものと判断されるが、遺物に弥生時代中期-古墳時代後半期という時期幅がある。

弥生時代の遺物も少なくない。弥生時代中期前半段階の入来Ⅱ式土器は、小破片が多いものの、口唇部を平坦にし、凹部を形成する特徴と、口縁部上端が水平もしくはわ

ずかに上下に傾く特徴から、比較的容易に認定される(56・57・59, 81・84・117-126)。また、口縁部上端がやや上傾していることから、入来Ⅱ式よりも、やや後出すると考えられる一群があり(58・82・83・127)、そのほかにも中九州系の黒髪式系統土器(85)や、北部九州の須玖式系統の土器片も出土している(89)。また、系統不明の資料(60・86)も存在する。

特筆すべきは、入来Ⅱ式段階の大甕(120・121・125)と、

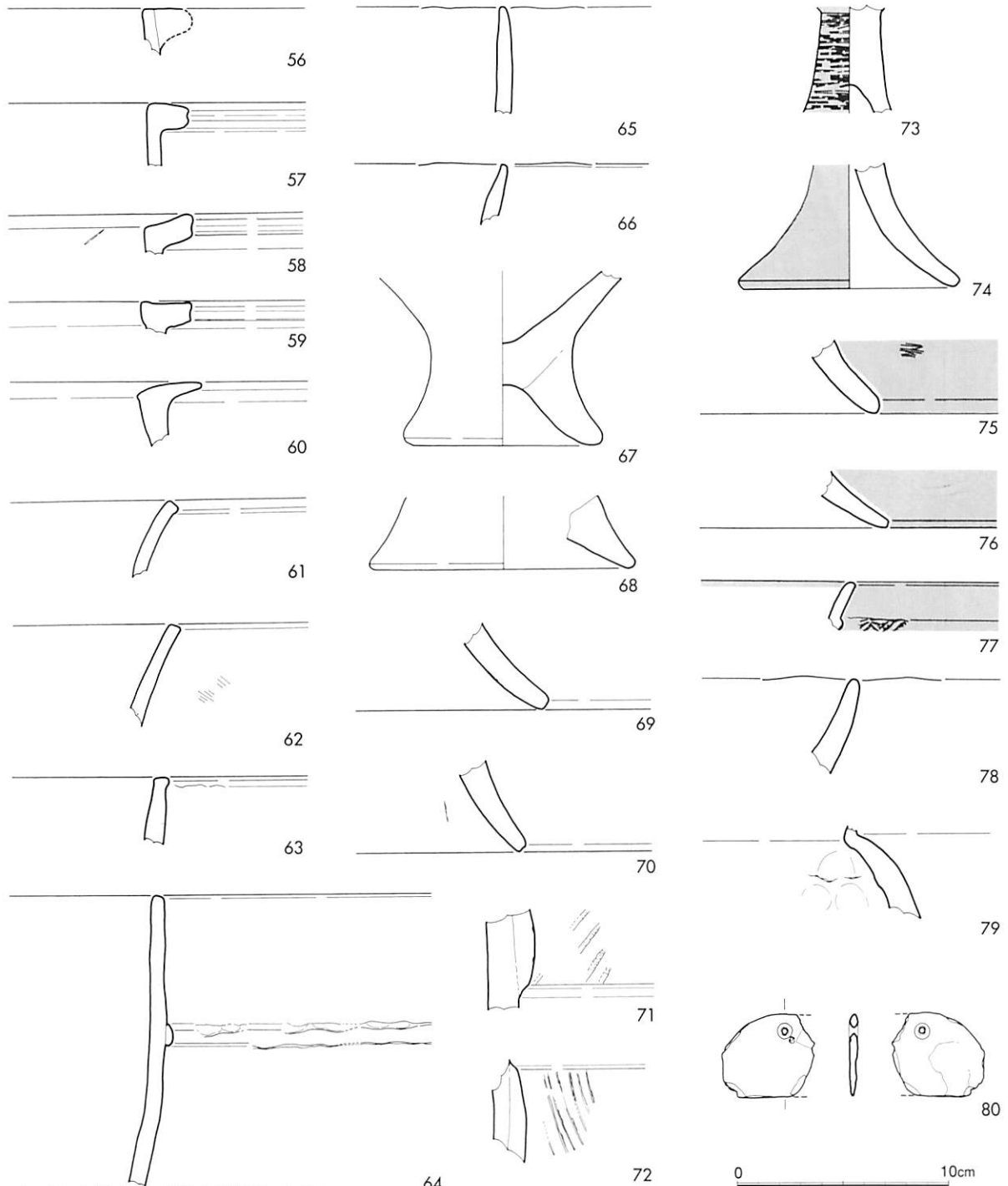


Fig.51 A地点4a層出土遺物(S=1/3)



PL.42 A 地点 4a 層出土遺物

一の宮式段階の甕(127)の出土であろう。前者は、大粒の雲母を胎土に混入しており、鹿児島湾沿岸部の主要な胎土ではない。大隅半島や指宿地域、甕島地域、大隅諸島地域に顕著な胎土である。ほかにも(56・58・81・117・123・124・129)などは、大粒の雲母を混入しており、日常的な地域間交流の一端をあらわしている可能性が高い。教育学部キャンパスにあたる郡元団地 M・N-4・5 区(サークル棟建設地)の調査では、山ノ口式土器が多量に出土しているが、その大半に雲母を混入する⁴⁾。

後者の一の宮式甕は、「絡縄突帯」・「中実脚台」・「口

縁部の内面への張り出し」・「黒褐色」・「粗造」などで、特徴付けられる土器であるが⁵⁾、その系譜など不明な部分が多い。近年では、北麓遺跡において、入来Ⅱ式段階から絡縄突帯・黒褐色・粗造などの特徴を持つことが知られており⁶⁾、少なくとも鹿児島市域では、このような特徴は、弥生時代中期中葉ごろから現れていることが分かっている。本遺跡出土資料は、口縁部の屈曲部が短いことや、内面への突出がないことなどから、型式学的には、典型的な一の宮式甕よりもやや古手であり、入来Ⅱ式よりは、後出であろうと考えられる。

Tab.19 A 地点 4a 層出土土器

No.	層	地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
							混和材	砂粒の 多さ		
56	4a	A	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:鉄分付着のため不明. 器内:明赤褐2.5YR5/6.	礫:石英・粗砂;黒雲母・角閃石・石英・白色粒. 砂:黒雲母・角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	5	外面:剥落. 内面:鉄分付着のため不明.	接合痕あり.
57	4a	A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:明褐7.5YR5/6. 器内:橙7.5YR6/6.	粗砂:角閃石・石英・黒色粒. 砂:角閃石・白色粒・赤色粒.	7	摩滅のため不明.	
58	4a	A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:浅黄2.5Y7/3. 器内:灰5Y4/1.	礫:白色粒. 粗砂:白色粒・黒雲母. 砂:黒雲母・黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	5	外面:ヨコナデ. 内面:ヘラ状工具による調整痕.	
59	4a	A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:灰褐7.5YR4/2. 内面:にぶい黄褐10YR5/3. 器内:鉄分付着のため不明.	礫:灰色粒. 粗砂:灰色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面・口唇部:ヨコナデ.	
60	4a	A	弥生	甕か鉢	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR4/3. 内面・器内:鉄分付着のため不明.	礫:赤色粒. 粗砂:白色粒・灰色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	内・外面:ヨコナデ.	
61	4a	A	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器内:鉄分付着のため不明.	粗砂:白色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒.	2	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	
62	4a	A	古墳	甕	口縁部	外面:灰黄褐に類似10YR5/2. 内面:明黄褐10YR6/6. 器内:灰白10YR8/2.	粗砂・砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ハケ(一). 剥落. 内面:ヨコナデ・ユビオサエ.	
63	4a	A	篋貫式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面:浅黄に類似2.5Y7/3. 器内:灰白10YR8/2.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:胎土が外面側にかぶる. 内面:ハケ(一)→ナデ(一).	
64	4a	A	古墳	甕	口縁部～胴部上半	外面:にぶい黄褐10YR6/4. 内面:灰オリーブ5Y5/2. 器内:淡黄2.5Y8/4.	粗砂:角閃石. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:鉄分付着・摩滅のため不明. 内面:丁寧なナデ.	貼付突帯1条. ススの付着.
65	4a	A	篋貫式	甕	口縁部	外面:鉄分付着のため不明. 内面:灰黄に類似2.5Y7/2. 器内:灰白2.5Y8/2.	砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:鉄分付着のため不明. 内面:丁寧なナデ・ユビオサエ.	
66	4a	A	古墳	甕?	口縁部	外面:灰5Y6/1. 内面:鉄分付着のため不明. 器内:灰白10YR8/1.	砂・細砂:黒色粒.	2	外面:ヨコナデ. 内面:鉄分付着のため不明.	
67	4a	A	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 器内:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:灰色粒. 粗砂:石英・白色粒・灰色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:透明粒.	4	外面:ナデ(一). 明瞭に痕が残る. 内面:非常に丁寧なナデ.	接合痕あり.底径(8.8cm).
68	4a	A	古墳	甕	脚台	内・外面:灰白10YR8/2. 器内:灰5Y5/1.	細砂:黒色粒.	2	内・外面:鉄分付着・摩滅のため不明.	接合部で剥落.底径(12.2cm).
69	4a	A	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面:淡黄に類似2.5Y8/4. 器内:灰白に類似2.5Y8/2.	礫:白色粒・黒色粒. 粗砂:石英. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:ナデ(一). 摩滅. 内面:丁寧なナデ.	
70	4	A	古墳	甕	脚台	外面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器内:灰5Y5/1.	砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ(一)・端部はヨコナデ. 内面:ハケ(一)・ヨコナデ. ハケの打ち込み痕あり.	
71	4a	A	篋貫式	壺	胴部	外面:にぶい黄褐に類似10YR5/4. 内面・器内:鉄分付着のため不明.	粗砂:石英・白色粒. 砂:石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	6	外面:ヨコナデ. 内面:鉄分付着のため不明.	幅広突帯にハケによる刺突文(ノ)接合痕あり.
72	4a	A	篋貫式	壺	胴部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器内:灰に類似5Y4/1.	砂:黒色粒・白色粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	幅広突帯にヘラによる沈線(ノ).接合痕あり.
73	4a	A	古墳	高杯	脚部	外面:明赤褐に類似2.5YR5/6. 器内:灰黄2.5Y6/2.	細砂:透明粒.	1	外面:ミガキ(一).	外面:赤色顔料塗布.
74	4a	A	古墳	高杯	脚部	外面:赤10R4/8. 内面・器内:鉄分付着のため不明.	砂:黒色粒. 細砂:透明粒.	1	鉄分付着のため不明.	外面:赤色顔料塗布.底径(9.9cm).
75	4a	A	古墳	高杯?	脚部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4. 内面:にぶい赤褐5YR5/3. 器内:黄灰2.5Y5/1.	粗砂:黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:粗いミガキ. 内面:ナデ(一).	外面:赤色顔料塗布.
76	?	A	古墳	高杯	脚部	内・外面:黄褐10YR5/6. 赤色顔料:灰赤2.5Y4/2. 器内:鉄分付着のため不明.	砂:角閃石・石英. 細砂:白色粒・透明粒.	2	外面:ミガキ.	外面:赤色顔料塗布.
77	4a	A	古墳	鉢か高杯	口縁部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4. 内面:淡黄2.5Y8/3. 器内:灰白10YR8/2.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(一). 内面:丁寧なナデ.	刻目突帯1条(ノ).外面:赤色顔料塗布.
78	4a	A	古墳	埴	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面・器内:鉄分付着のため不明.	粗砂:白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:ナデ(一). 内面にハケの打ち込み痕あり.	
79	4a	A	古墳	埴	胴部上半	外面:にぶい橙7.5YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器内:鉄分付着のため不明.	粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ. 内面:粗いナデ・ユビオサエ. 粘土の貼付痕あり.	

Tab.20 A 地点 4a 層出土石包丁

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
80	4a	ホルンフェルス化した頁岩	4	4.4	0.4	13.6	孔径:0.25cm. 半欠.

弥生時代後期に属する資料の存在はないが、弥生時代終末期ごろの特徴を備える土器片は認められる(87・88)。

B 地点 4b 層では、弥生土器が比較的まとまって出土しており、弥生時代包含層の存在を窺わせる。ここでは、弥生時代終末期-古墳時代前期に属する中津野式の台付鉢(131)や、古式土師器系土器(132)も出土している。台付鉢(131)は、胎土に黒雲母の混入がみられる。古式土

師器系土器(132)は、底部形態は不明であるが、口縁部や球胴形状の特徴から、布留式並行ごろの時期が与えられるものである。そのなかでも、口縁部の傾きや口唇部のつくりから、古墳時代前半期に位置づけられるものではないかと推定されるが、布留式土器を忠実に模したものではないため、判断が難しい。器壁が成川式土器様式群と比べて薄く、口縁部外面に暗文などを有する特徴から、

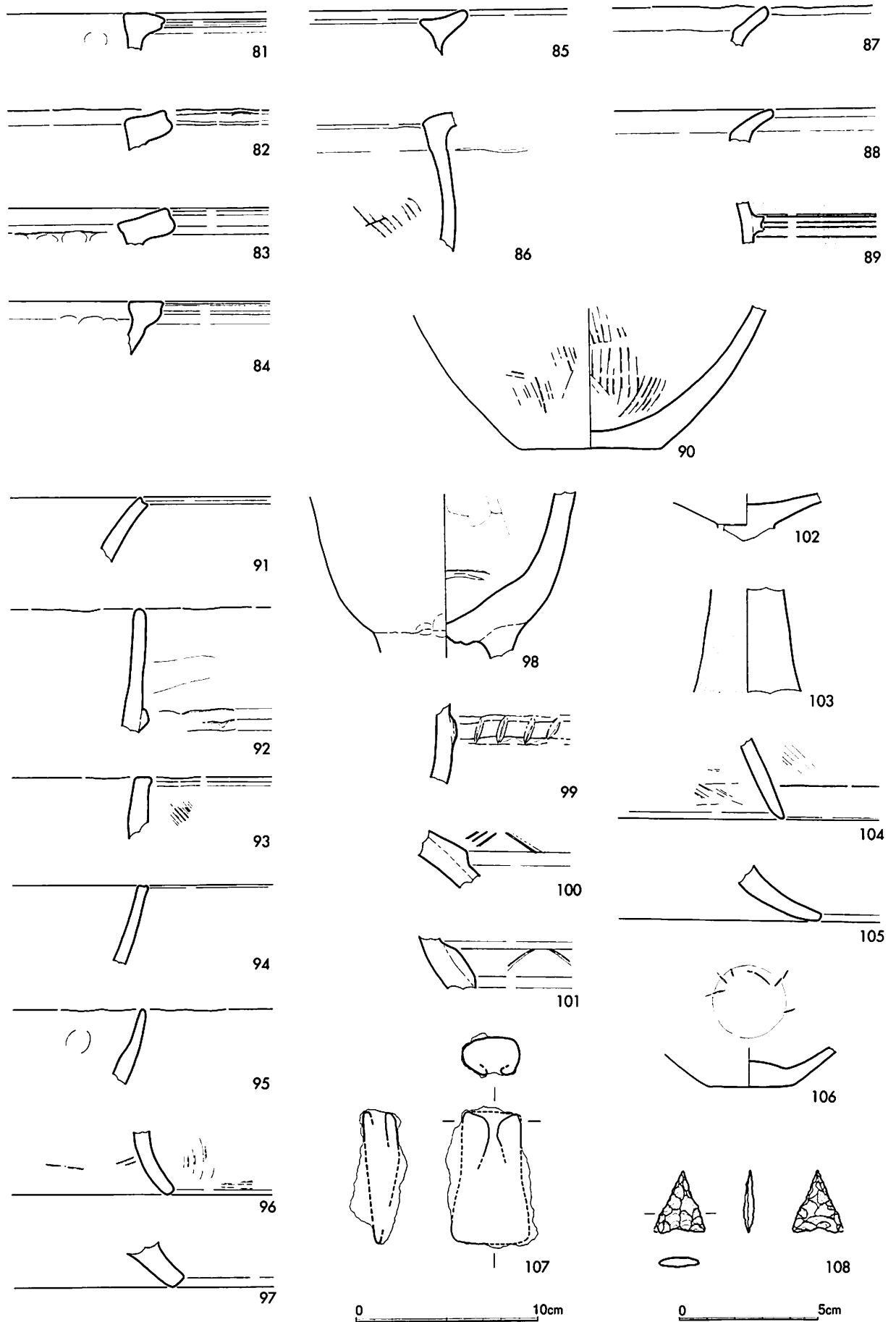


Fig.52 A 地点 4b 層出土土器(S=1/3), (108)は S=1/2



PL.43 A 地点 4b 層出土遺物

付編1 郡元団地 L-6 区(中央図書館増築地 A・B 地点)における発掘調査

Tab.21 A 地点 4b 層出土遺物

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の 多さ		
81	4b A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:にぶい褐色に類似7.5YR5/4。器内:にぶい橙7.5YR7/4。	礫:灰色粒。粗砂:白色粒。砂:黒雲母・角閃石・石英。細砂:黒色粒・透明粒。	2	外面:ヨコナデ。内面:ナデ・ユビオサエ。	
82	4b A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:にぶい黄褐色に類似10YR6/4。器内:にぶい黄褐色に類似10YR7/3。	礫:灰色粒。粗砂:角閃石・石英・白色粒。砂:角閃石・石英。細砂:黒色粒・透明粒。	2	外面:ナデ・ユビオサエ。内面:ユビオサエ・ヨコナデ。口唇部:ヨコナデ。	
83	4b A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面:にぶい褐色に類似7.5YR5/4。器内:にぶい褐色に類似7.5YR7/3。	礫:白色粒。粗砂:石英・白色粒。砂:石英・黒色粒。細砂:黒色粒・白色粒。	2	内・外面・口唇部:ヨコナデ。	内面側に突出部を貼付。
84	4b A	入来Ⅱ式	甕か鉢	口縁部	外面:にぶい褐色に類似7.5YR6/4。内面:にぶい褐色7.5YR7/4。器内:にぶい褐色5YR7/3。	粗砂:白色粒。砂:石英・黒色粒・白色粒。細砂:黒色粒・白色粒。	2	外面・口唇部:ヨコナデ。内面:ユビオサエ。胎土がかぶる。	
85	4b A	黒髪式系	甕	口縁部	内・外面・器内:淡黄2.5Y8/3。	粗砂・砂:石英。細砂:透明粒。	2	内・外面:ヨコナデ。	
86	4b A	弥生	甕	口縁部～胸部上半	外面:にぶい黄褐色に類似10YR5/3。内面:器内:にぶい褐色に類似7.5YR5/4。	粗砂:石英・白色粒。砂:灰色粒。細砂:黒色粒・白色粒・透明粒。	2	外面:ヨコナデ。内面:ハケ(\\)・ヨコナデ。ハケの打ち込み痕。	
87	4b A	弥生	甕	口縁部	内面:オリブ黒7.5Y3/1。外面・器内:鉄分付着のため不明。	砂:石英。細砂:黒色粒・透明粒。	2	内・外面:ヨコナデ。	口縁部のゆがみが著しい。
88	4b A	弥生	甕か鉢	口縁部	外面:にぶい褐色に類似7.5YR6/4。内面:にぶい黄褐色に類似10YR7/4。器内:灰5Y4/1。	砂:石英・灰色粒。細砂:黒色粒。	4	外面:ヨコナデ。内面:丁寧なナデ。	
89	4b A	須玖式	壺	胴部	外面:明赤褐2.5YR5/6。内面:橙5YR6/6。器内:灰白10YR8/2。	粗砂:石英・黒雲母。砂:黒雲母・白色粒。細砂:黒色粒・透明粒。	4	外面:ヨコナデ。内面:ナデ。	M字状突帯。外面:赤色顔料塗布。
90	4b A	弥生	壺	底部	外面:にぶい黄褐色に類似10YR5/4。内面:にぶい褐色に類似7.5YR6/4。器内:にぶい褐色5YR7/4。	礫:白色粒。粗砂:石英・白色粒。砂:灰色粒・白色粒。細砂:白色粒・黒色粒。	2	内・外面:ハケ()→ナデ。ただし調整具は異なる。	底径(7.6cm)。
91	4b A	弥生か古墳	甕	口縁部	外面:灰5Y6/1。内面:にぶい黄褐色に類似10YR7/4。器内:浅黄橙10YR8/3。	粗砂:赤色粒・黒色粒。砂:角閃石・石英。細砂:黒色粒・透明粒。	4	外面:ナデ。剥落が著しい。内面:ナデ。口唇部:ヨコナデ。	
92	4b A	笹貫式	甕	口縁部	外面:浅黄に類似2.5Y7/3。内面:にぶい黄褐色に類似10YR6/3。器内:浅黄橙7.5YR8/4。	礫:白色粒。粗砂:白色粒・灰色粒。砂:石英。細砂:黒色粒・透明粒。	2	外面:ナデ・ユビオサエ(一)。内面:貼付突帯1条。ナデ・ハケの打ち込み痕(一)。	
93	4b A	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐色10YR7/3。内面:浅黄に類似2.5Y7/3。器内:灰白10YR8/2。	砂:角閃石・石英・白色粒。細砂:黒色粒・透明粒。	2	外面:ハケ(\\)。外面側に胎土がかぶる。内面:ナデ(一)。	ススの付着。
94	4b A	弥生か古墳	甕か鉢	口縁部	外面:橙7.5YR6/6。内面:浅黄2.5Y7/3。器内:にぶい褐色7.5YR7/4。	砂:黒色粒。細砂:黒色粒・透明粒。	3	内・外面:ヨコナデ。	
95	4b A	古墳	甕か鉢	口縁部	内・外面:にぶい褐色に類似7.5YR6/4。器内:浅黄橙7.5YR8/6。	粗砂:白色粒。砂:石英・黒色粒。細砂:黒色粒・透明粒。	2	外面:摩滅のため不明。内面:ユビオサエ。鉄分付着・摩滅が著しい。	
96	4b A	古墳	甕	脚台	外面:にぶい褐色7.5YR5/4。内面:にぶい褐色7.5YR6/4。器内:にぶい褐色7.5YR7/4。	礫:白色粒。砂:石英。細砂:黒色粒・透明粒。	4	外面:ナデ()・端部はヨコナデ。内面:ナデ。	
97	4b A	古墳	甕	脚部	外面:にぶい黄褐色に類似10YR7/4。内面:にぶい黄褐色に類似10YR6/4。器内:浅黄橙10YR8/4。	粗砂:灰色粒・黒色粒。砂:角閃石・白色粒。細砂:黒色粒。	3	内・外面:ヨコナデ。	
98	4b A	古墳	甕	底部付近	外面:にぶい褐色に類似7.5YR7/4。内面:褐色に類似7.5YR7/6。器内:灰白に類似10YR8/2。	礫:灰色粒。粗砂:灰色粒・白色粒。砂:白色粒・角閃石・石英。細砂:黒色粒・白色粒。	2	外面:ハケ()少(一)→ナデ()。剥落あり。内面:ハケ()→粗いナデ(一)・ケズリ。	接合痕あり。
99	4b A	古墳	壺	胴部	鉄分付着のため不明。	砂:石英・黒色粒。細砂:黒色粒。	2	外面:摩滅のため不明。内面:鉄分付着のため不明。	刻目突帯(/)。
100	4b A	笹貫式	壺	肩部	外面:にぶい黄褐色10YR7/4。内面:にぶい褐色7.5YR6/4。器内:灰白10YR8/2。	粗砂:白色粒・赤色粒。砂:石英・白色粒。細砂:黒色粒。	3	内・外面:ナデ。	幅広突帯。3条一組の沈線(/)。
101	4b A	笹貫式	壺	肩部	外面:にぶい黄褐色に類似10YR6/3。内面:にぶい黄褐色に類似10YR6/4。器内:にぶい黄褐色に類似10YR7/2。	礫:灰色粒。粗砂:石英・白色粒。砂:角閃石・黒色粒・灰色粒。細砂:黒色粒・透明粒。	3	内・外面:ヨコナデ。	幅広突帯。沈線(/)。
102	4b A	古墳?	高杯	杯部	外面:にぶい褐色7.5YR5/4。内面:灰に類似7.5Y4/1。器内:鉄分付着のため不明。	細砂:透明粒。	1	外面:ヨコナデ。	脚が接合部で欠落。
103	4b A	古墳	高杯	脚部	鉄分付着のため不明。	細砂:黒色粒・透明粒。	1	鉄分付着のため不明。	外面:赤色顔料塗布。
104	4b A	弥生か古墳	高杯	脚部	外面:にぶい黄褐色に類似10YR7/4。内面:暗灰黄に類似2.5Y5/2。器内:灰黄2.5Y6/2。	砂:角閃石。細砂:黒色粒。	2	外面:ハケ(一)→ヨコナデ。内面:ヨコナデ。	
105	4b A	古墳	高杯	脚部	外面:にぶい褐色に類似7.5YR7/4。内面:浅黄橙7.5YR8/3。器内:灰白10YR8/2。	細砂:黒色粒・透明粒。	1	外面:ヨコナデ。内面:ナデ。内・外面とも摩滅が著しい。	
106	4b A	古墳	埴	底部	外面:浅黄褐色に類似10YR8/3。内面:にぶい黄褐色に類似10YR7/4。器内:暗灰黄に類似2.5Y5/2。	砂:角閃石・石英。細砂:黒色粒・透明粒。	1	外面:丁寧なナデ。摩滅。内底面:ハケ打ち込み痕が明瞭に残る。	底径4.5cm。

Tab.22 A 地点 4b 層出土鉄器

No.	層	最大長(cm)	刃部幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
107	4b	7.0	4.5	不明。袋部で約1.8cm。	110.39	完形品。錆跡が著しい。

Tab.23 A 地点 4b 層出土石器

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
108	4b	ホルンフェルス化した頁岩	2.05	1.8	0.4	0.95	一部欠損。



PL.44 A地点4b層出土鉄斧X線写真
(鹿児島県立埋蔵文化財センター提供)
X線写真でも錆膨れの著しい様子が分かる。ソケット部は密着せず、離れている。

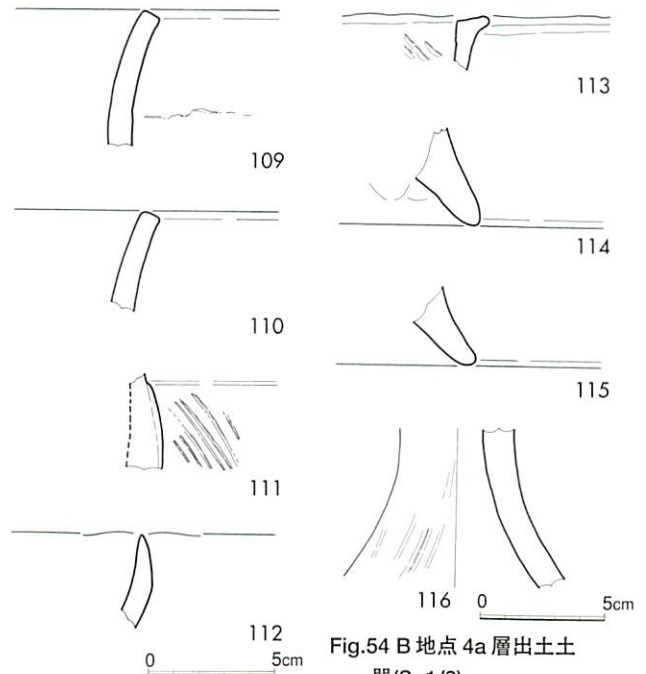


Fig.53 B地点4層出土土器 (S=1/3)

Fig.54 B地点4a層出土土器(S=1/3)



PL.45 B地点4層出土土器



PL.46 B地点4a層出土土器

Tab.24 B地点4・4a層出土土器

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の 多さ		
109	4	古墳	甕	口縁部	外面:浅黄に類似2.5Y7/3. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	礫:赤色粒. 粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:透明粒.	2	外面:ヨコナデ・丁寧なナデ. 内面:ヨコナデ・丁寧なナデ. 口唇部:ヨコナデ.	
110	4	古墳	甕	口縁部	外面:淡黄2.5Y8/3. 内面:浅黄2.5Y7/3. 器肉:にぶい黄2.5Y6/3.	礫:石英・黒雲母・白色粒. 粗砂:石英・黒雲母・黒色粒. 砂:黒雲母・黒色粒.	5	内・外面:剥落のため不明.	
111	4	篋貫式	壺	胴部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒. 砂:石英・白色粒・赤色粒. 細砂:白色粒・黒色粒・透明粒.	4	外面:幅広突帯. 内面:剥落.	幅広突帯にヘラ状工具による刺突文(∩).
112	4	古墳	鉢	口縁部	内・外面:にぶい黄2.5Y6/3. 器肉:淡黄2.5Y8/3.	粗砂:角閃石・石英. 細砂:透明粒.	2	外面:丁寧なナデ. 内面:粗いナデ.	
113	4a	弥生	鉢か甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:灰白10YR8/2.	礫:赤色粒・黒色粒・白色粒. 粗砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ナデ. 内面:ヘラ状工具の粗い調整痕.	
114	4a	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面・器肉:鉄分付着のため不明.	粗砂:石英・黒色粒・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ.	接合部で剥落.
115	4a	古墳	甕	脚台	外面:明黄褐に類似10YR6/6. 内面:明黄褐に類似10YR7/6. 器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	粗砂:黒色粒. 砂:石英・黒色粒・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ(一).	接合部で剥落.
116	4a	古墳	高杯	脚部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/3. 内面・器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	礫:粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケ(∩)→ミガキ(∩). 内面:ナデ(∩).	

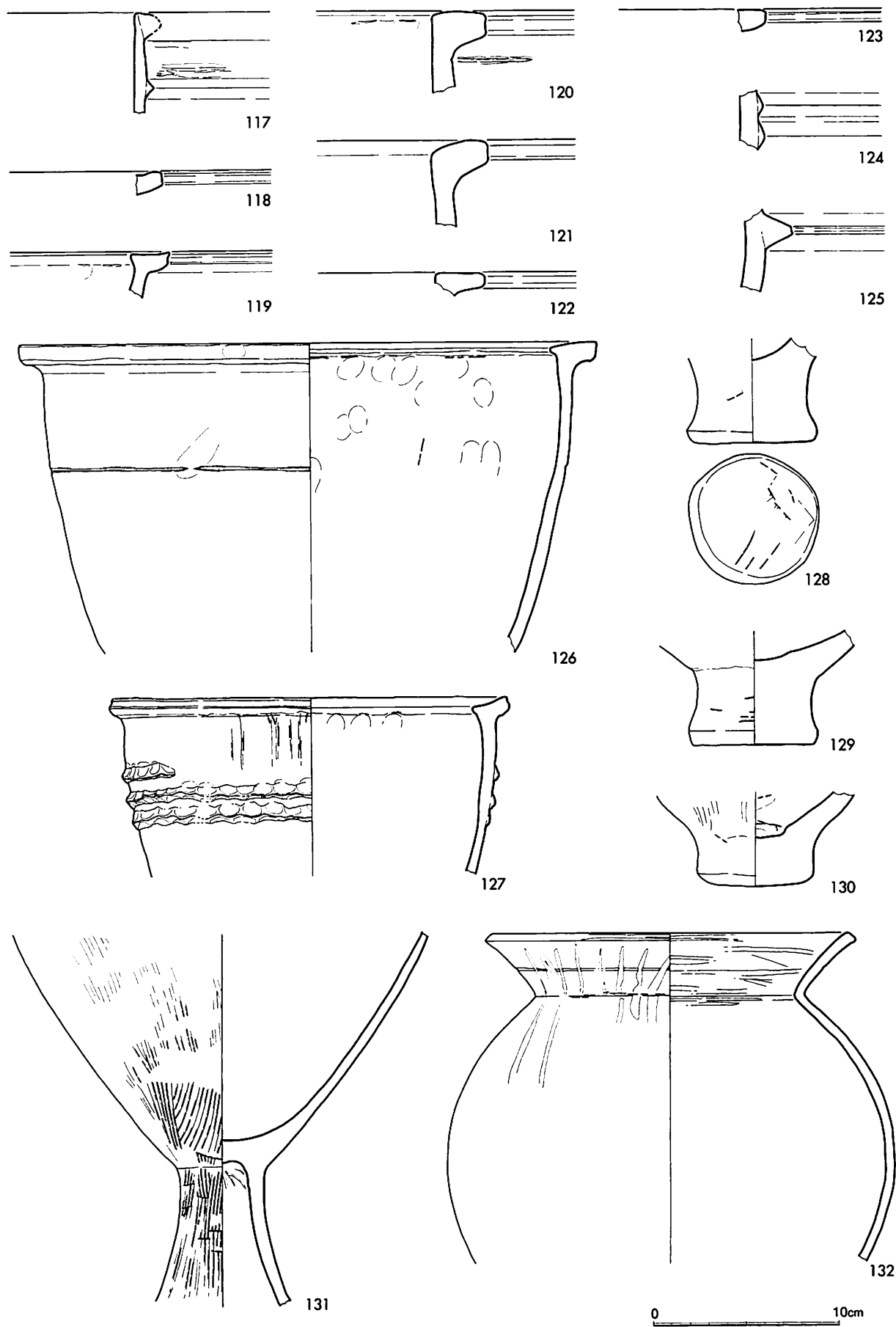


Fig.55 B 地点 4b 層出土遺物(1)(S=1/3)



PL.47 B 地点 4b 層遺物(1)

搬入品であると判断される。しかし、産地不明である。

古墳時代の在地土器である成川式土器は、甕、壺、鉢、高坏、埴などがあり、甕は、大まかに、前半期と後半期の特徴を持つものに分けられる。

すなわち、前半期：口唇部を平坦に面取りし、直状に開くもの、緩やかに開くもの(61・62・91・93・94・109・110・134・135)と、後半期：口唇部断面形状が、舌状に丸みを帯び、直状になるものや、やや内弯気味になるものなどである。これらは突帯や口縁部に指頭圧痕を明瞭に残し、粗雑な感を受けるものである(64・65・66・92・95・138・139・140)。しかし、篋貫式を中心とする成川式後半期の甕などは、個体差と捉えられる変異の幅が大きく、小破片でそれと確実に判断するのは難しい。

壺は、幅広突帯の大きさや施文などで分類される。突帯幅は、約1-5cm間であり、5cm幅の突帯はやや少なめである。突帯上の施文は、ヘラ状工具による斜位の沈線文(71・72・99・111)、ハの字の沈線文(100・101)などがあり、竹管工具による刺突文などは今回得られていない。

鉢は、認定できるものは少なく、時期の判断できないものである。高坏もまた、時期の判断が難しい。鉢と高坏の区別は、口縁部小破片の場合、困難な場合が多い。

埴も全形が窺える資料が少なく、口縁部資料もほとんどないが、(106)の底部資料などは、平底であることから、古墳時代後半期である可能性が高い。

また、時期不明の土器(152)も出土している。一応、口縁部として図化したものの、その確証がない。幅0.8cm

前後の半裁竹管状工具か叉状工具で、2本を対にした沈線文を縦位に施している。

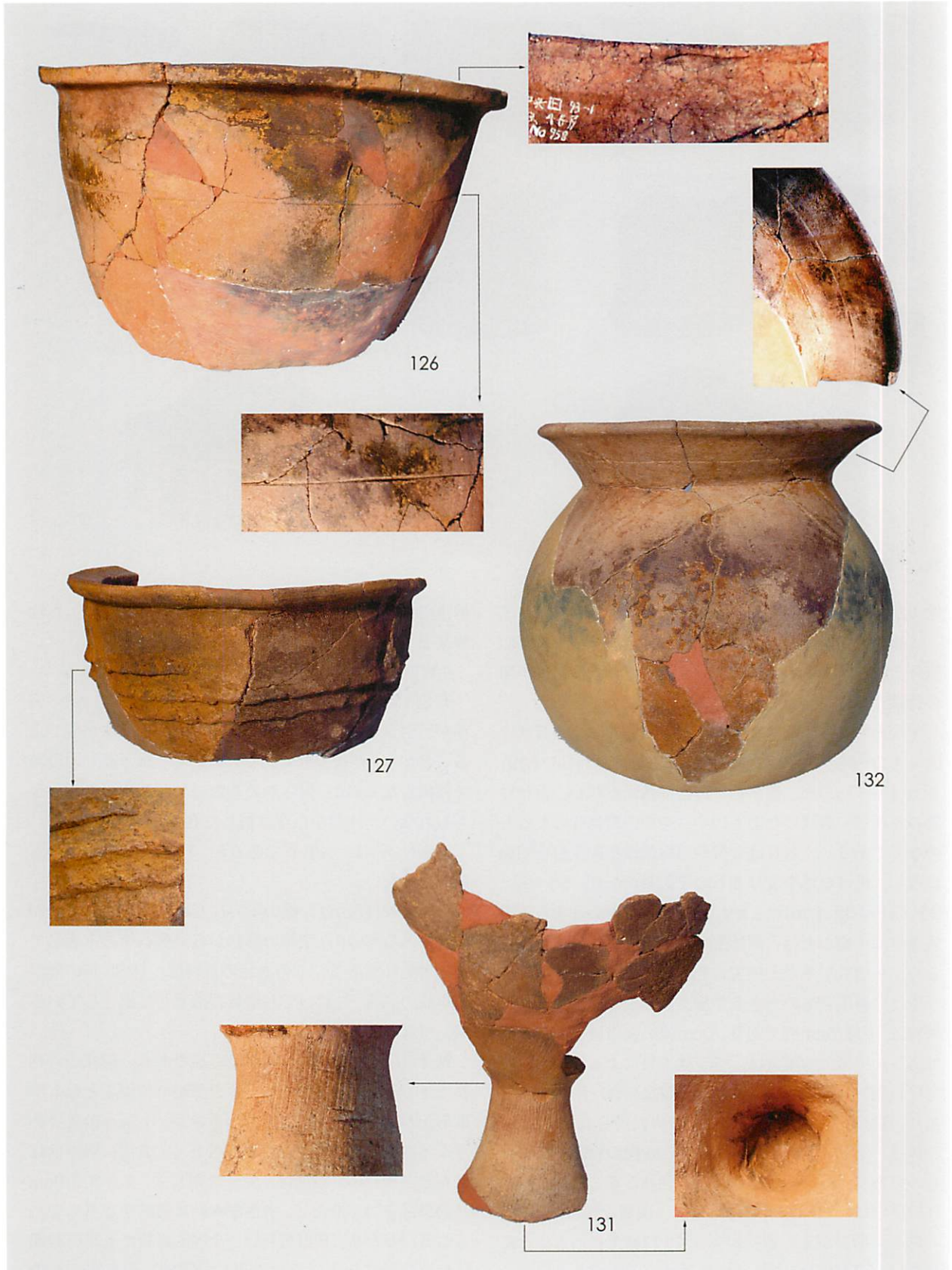
4層出土石器は、石包丁、石鏃と石材剥片がある。

石包丁(80)は、薄手・小型の直刃資料である。また、刃部が刃引きされ、刃縁は残っていない。薄手・小型であることから、かなり使い込まれたのち、砥ぎ直しの段階で破損したのか、何らかの垂飾品に再利用したものかもしれない。片面から空け損じた孔も認められる。

石鏃(108)は、頁岩製であるが、B地点SK2出土のものとは大差ない。

石材剥片(153)は、図の下方にした部分に、剥離面が顕著であるものの、全体の形状から磨製石鏃の未製品である可能性もある。この赤色の頁岩は、1983年の理学部車庫の調査⁷⁾においても磨製石鏃として出土しているが、帰属時期は断定できない。

鉄斧(107)は、袋状鉄斧の完形品である。現状から判断できる範囲で所見を記すと、刃部がやや幅広となる平面形かバチ形のもので、刃部の厚みが、0.5cm前後であろうと推定されるが、錆膨れが著しく、表面の観察はほとんどできない。袋部は、完全に閉じず、1.3×2.0cm径の袋部をつくりだし、小さな木柄に装着するものであることが分かる。類似資料は、全国的に見ても早い時期には弥生時代後半ごろに出現し全国的に分布するものの、古墳時代の後期ごろには型式変化するようである⁸⁾。これから考えると、本遺跡の遺物量から推定される占地の中心時期とは異なることになる。



PL.48 B 地点 4b 層出土遺物(1)

Tab.25 B地点4b層出土遺物(1)

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
117 4b B	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい褐7.5YR5/4. 内面・器内:にぶい橙に類似7.5YR6/4.	礫:石英・白色粒. 粗砂:石英・黒雲母. 砂:角閃石・黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母.	5	外面:ヨコナデ・ナデ(一). 内面:丁寧なナデ.	三角突帯1条.
118 4b B	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐10YR5/4. 器内:にぶい黄橙に類似10YR7/4.	礫:白色粒. 粗砂:黒色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面・口唇部:ヨコナデ.	口縁部上面が若干くぼむ.
119 4b B	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:褐灰に類似10YR4/1. 内面:にぶい黄褐に類似10YR5/3. 器内:にぶい黄橙10YR7/3.	粗砂:灰色粒. 砂:角閃石・石英・赤色粒. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ()→ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ. 口唇部:ヨコナデ.	
120 4b B	入来Ⅱ式	大甕	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:橙に類似7.5YR7/6. 器内:暗灰黄2.5Y4/2.	礫:石英・黒雲母・白色粒・灰色粒. 粗砂:石英・黒雲母・白色粒. 砂:石英・黒雲母・白色粒・黒色粒. 細砂:黒雲母・白色粒	5	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	内面側に若干胎土が突出する.
121 4b B	弥生	大甕	口縁部	外面:橙7.5YR6/6. 内面:にぶい黄に類似2.5Y6/4. 器内内:黄灰に類似2.5Y5/1. 器内外:灰黄に類似2.5Y7/2.	礫:石英・白色粒・灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・黒雲母・白色粒. 砂:石英・黒色粒・白色粒. 細砂:黒雲母?・白色粒・黒色粒	5	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	
122 4b B	弥生	甕	口縁部	内・外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器内:灰白10YR8/2.	粗砂:角閃石・石英・白色粒・赤色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:白色粒・黒色粒.	2	外面:ヨコナデ.	
123 4b B	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:欠損. 器内:にぶい黄に類似2.5Y6/3.	礫:石英・黒雲母. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒.	4	外面・口唇部:ヨコナデ.	
124 4b B	弥生	甕	胴部	外面:にぶい黄褐に類似10YR4/3. 内面:にぶい黄褐に類似10YR6/3. 器内:鉄分付着のため不明.	礫:石英・黒雲母・灰色粒. 粗砂:黒雲母・白色粒. 砂:角閃石・黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ.	三角突帯2条.
125 4b B	弥生	大甕	胴部	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:橙に類似7.5YR7/6. 器内:灰黄2.5Y7/2.	礫:石英・黒色粒. 粗砂:石英・黒雲母・白色粒・黒色粒. 砂:角閃石・黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母?・白色粒.	5	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ(\\).	M字状突帯1条.
126 4b B	弥生	甕	口縁部～胴部	外面:にぶい赤褐5YR5/4. 内面:灰黄褐に類似10YR4/2. 器内:にぶい黄橙10YR7/3.	礫:灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・灰色粒・白色粒. 砂:石英・角閃石・白色粒. 細砂:白色粒・黒色粒・透明粒.	3	外面:口縁部:ヨコナデ・ユビオサエ. 胴部…ハケ()・ユビオサエ. 内面:口縁部…ハケの打ち込み痕・ヨコナデ・ユビオサエ. 胴部…ハケ(\\)・ユビオサエ・ナデ.	外面胴部上位に1条の沈線. ススの付着. 口径(31.4cm).
127 4b B	一の宮式(古)?	甕	口縁部～胴部	外面:にぶい褐に類似7.5YR5/3. 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器内:浅黄橙7.5YR8/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(). 内面:口縁部…ユビオサエ・ヨコナデ. 胴部:ハケ()・ナデ.	絡縄突帯2～3条. ススの付着. 口径(21.3cm).
128 4b B	弥生	甕	脚台	外面:にぶい黄に類似2.5Y6/3. 内面:暗灰黄に類似2.5Y5/2. 器内:橙5YR6/6.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ()(/)→ナデ. 剥落が著しい. 底面:ハケ→ケズリ.	白色粉末の付着範囲が認められる. 底径6.0cm.
129 4b B	弥生	甕	脚台	外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR6/3. 器内:にぶい黄褐に類似10YR5/4.	礫:黒雲母・白色粒. 粗砂:黒雲母・石英・白色粒. 砂:黒雲母・白色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒.	5	外面:ハケ(一)()→ナデ. ハケの打ち込み痕. 内面:ハケの打ち込み痕・ナデ.	黒雲母が目立つ. 底径6.5cm.
130 4b B	弥生	壺	底部	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器内:にぶい黄橙に類似10YR7/3.	礫:黒色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ(一)→ナデ(一)()→ミガキ. 内面:ハケ(一).	底径(4.5cm).
131 4b B	中津野式	台付鉢	胴部下半～脚部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:灰黄褐10YR5/2. 器内:にぶい黄橙10YR7/4.	粗砂:雲母. 砂:石英・雲母・白色粒・黒色粒. 細砂:白色粒・黒色粒.	5	外面:ハケ(\\)(). 内面:摩滅が著しい. 脚部内面:ヘラ状工具による粗い整形痕・ナデ.	
132 4b B	古式土師器系	甕	口縁部～胴部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい黄橙10YR7/3. 器内:浅黄橙10YR8/3.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ミガキ(一). 横沈線1条. 内面:ススの付着. ミガキ(一). 口唇部:ヨコナデ.	

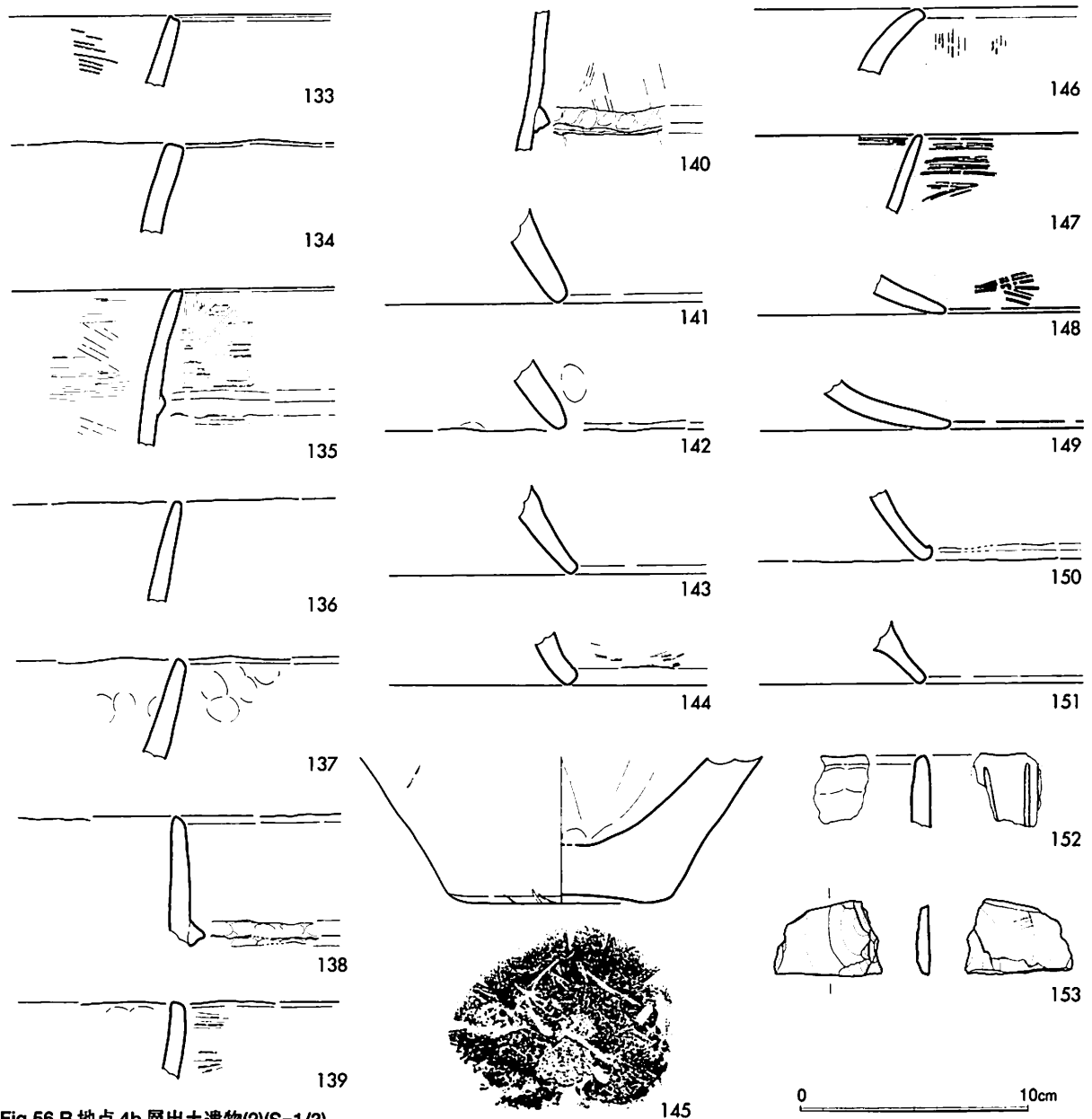


Fig.56 B地点4b層出土遺物(2)(S=1/3)

Tab.26 B地点4b層出土遺物(2)

No. 地点	層	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
						混和材	砂粒の多さ		
133	4b	弥生か	甕	口縁部	内・外面・器内:にぶい黄橙に類似10YR7/4.	粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石. 細砂:透明粒.	3	外面:ナデ.内面:ハケ(一)→ナデ.	
134	4b	古墳	甕	口縁部	外面:暗灰黄2.5Y4/2. 内面:灰黄に類似2.5Y7/2. 器内:灰白2.5Y8/2.	粗砂:石英・白色粒・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ(一)(\). 内面:ナデ(一).	
135	4b	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR6/4. 内面:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 器内:にぶい黄橙10YR7/4.	礫:石英. 粗砂:石英・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:角閃石・黒色粒. 透明粒.	3	外面:ヨコナデ(一)(/)→(一). 内面:ハケ(\)→ヨコナデ.	三角突帯1条. ススの付着.
136	4b	古墳	甕	口縁部	鉄分付着のため不明.	粗砂:角閃石・石英・灰色粒. 砂:黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ナデ. 内面:ナデ.	
137	4b	古墳	甕	口縁部	内・外面:浅黄橙10YR8/4に赤く彩色か?(外面:橙5YR6/6. 内面:明赤褐5YR5/6.) 器内:浅黄橙10YR8/4.	礫:白色粒. 粗砂:角閃石. 砂:黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ユビオサエ・ナデ(\). 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	
138	4b	笹貫式	甕	口縁部	外面:灰オリブ5Y5/2. 内面:灰オリブ5Y6/2. 器内:灰白2.5Y7/1.	粗砂:石英・黒色粒・白色粒. 砂:石英. 細砂:透明粒.	2	外面:ハケ(\)→ナデ. 内面:ナデ. 絡縄突帯1条.	
139	4b	古墳	鉢か甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:浅黄橙に類似10YR8/4. 器内:浅黄橙7.5YR8/6.	砂:角閃石・赤色粒・白色粒. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(一)→ナデ. 内面:ナデ.	
140	4b	古墳	甕	胴部	外面:灰に類似5Y4/1. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器内:黄灰2.5Y5/1.	粗砂:石英・黒色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ハケ(一)→ナデ. 内面:ハケ(\)→ナデ.	絡縄突帯1条.



PL.49 B 地点 4b 層出土遺物(2)

Tab.27 B 地点 4b 層出土遺物(2)

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
141 B	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄橙10YR7/4. 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 器肉:浅黄橙10YR8/4.	礫:灰色粒. 粗砂:角閃石・石英・灰色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:摩滅により不明. 内面:ハケ(一)・ナデ.	
142 B	古墳	甕	脚台	外面:灰黄2.5Y7/2. 内面:にぶい黄橙10YR7/4. 器肉:橙5YR7/6.	粗砂:角閃石・石英・白色粒・灰色粒. 砂:角閃石・石英・細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面:ナデ(一).	
143 B	古墳	甕	脚台	外面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 内面:明黄橙に類似10YR7/6. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ナデ(一) (ノ).	
144 B	古墳	甕	脚台	内・外面:にぶい黄橙10YR7/4. 器肉:灰白10YR8/2.	礫:灰色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒.	3	外面:ハケ(一)→ナデ. 内面:ナデ.	
145 B	古墳	壺	底部	外面:明赤褐2.5YR5/6. 内面:橙に類似7.5YR6/6. 器肉:明赤褐2.5YR5/6.	礫:灰色粒. 粗砂:白色粒. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:板状工具による調整()→ナデ(). 内面:ヘラ状工具による(?)の圧痕あり. 僅かに上げ底. 中央部をくぼませる. 底径(8.0cm)	底面:製作時の敷物
146 B	古墳	壺	口縁部	外面:浅黄橙に類似10YR8/4. 内面:器肉内:にぶい橙に類似7.5YR7/4. 器内外:灰白10YR8/2.	礫:軽石・石英. 粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石・石英・赤色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ハケ()→ヨコナデ. 内面:ナデ.	
147 B	古墳	高杯?	口縁部	外面:明赤褐2.5Y5/6. 内面:明赤褐に類似2.5YR5/6. 器肉:浅黄橙10YR8/3.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(一)→ナデ. 内面:ナデ(ノ)→(一).	内・外面:赤色顔料塗布.
148 B	古墳	高杯	脚部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4. 内面:浅黄橙に類似10YR8/4. 器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	粗砂:黒色粒・白色粒. 砂:黒色粒・赤色粒. 細砂:透明粒.	2	外面:ミガキ. 内面:ナデ(一ノ).	外面:赤色顔料塗布. 内面に指頭状に顔料がつく.
149 B	古墳	高杯	脚部	外面:橙に類似2.5YR6/6. 内面:浅黄橙10YR8/3. 器肉:淡黄に類似2.5Y8/3.	細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ミガキ(?)	外面:赤色顔料塗布.
150 B	古墳	高杯	脚部	外面:オリーブ黒5Y3/1(スス付着による色調か?). 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4. 器肉:にぶい赤褐5YR5/4.	礫:白色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:鉄分付着のため不明. 接地部外面が盛り上がる. 内面:ヨコナデ.	
151 B	古墳	鉢	脚台	外面:橙5YR7/6. 内面:橙7.5YR7/6. 器肉:にぶい橙5YR7/4.	砂:角閃石. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	内・外面:ヨコナデ.	
152 B	?	?	口縁部	内・外面:にぶい黄橙に類似10YR6/4. 器肉:灰黄2.5Y6/2.	礫:石英・赤色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	5	内・外面:ナデ.	外面:縦沈線. 2条で1対?

Tab.28 B 地点 4b 層出土石器

No. 層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
153 4b	紫赤色頁岩	3.3	4.8	0.6	10.55	剥片

5-7.A・B 地点 5 層上面検出遺構(Fig.57-68,Tab.29-35,PL.50-82)

A・B 地点における 5 層上面検出遺構は、住居跡 1 基(SK4)、土坑 4 基(A 地点 SK5-7、B 地点 SK11)、溝状遺構 3 基(B 地点 SD5-7)、多数のピット群がある。

住居跡(SK4)(Fig.58)

A 地点の住居跡 SK4 は、平面全体の形状が、突出部のある円形住居である。住居全体の推定径は、約 5.5-6m、深さ 0.5-1.0m を計る。南東方向に突出した掘り込みがあり、深さが約 0.4-0.45m 程度ある。いわゆる「柄鏡型住居」と呼ばれるものである。この突出部は、一般的に、住居入口と考えられており、それを評価するならば、南東方向に入口を持つ住居であった可能性がある。

竪穴内部のピットの分布は、西側に偏っており、小ピット群の深さは、P-a が 5-12.2cm、b が 2.2-7.3cm、c:7.7-12.7cm、d:3.6-6.3cm、e:11.8-15.1cm、f:8.9-17.3cm、g:6-10.3cm となっており、深さから判断すると、どれも浅く、支柱である可能性は低い。しかし、いわゆるベッド状遺構上にあるピット(P- α :22-35cm \cdot β :8.9-29cm)がやや深く、ピット底面の平面形状から、数度の建直しをあらわす支柱の可能性はある。これは、住居全形が不明であるので確言できないものの、対照的に北側未調査部分にも存在する可能性があり、その場合、計 4 本の支柱となる。支柱は判然としないが、竪穴外検出ピットのうち、P A112・113 などは、25cm 前後で比較的深く(Tab.34)、配置からは、入口の底を支える柱穴と考える。その場合、P A115 と対になっている可能性がある。

住居内中央部には、屋内地床炉らしきものがあり、炭が分布している。この炉は、住居が廃棄されるまでに、少なくとも 3 度のつくり直しを行っていると考えられ、厚さ 1-2cm 程度の 3 枚の炭層が確認できる。炭の分布は、北壁に向かって薄くなり、拡張部(第 2 次調査)の北壁には炭 1 はほとんど確認されない。

また、床面の土器片などは、その特徴から、古墳時代後半期の壺と考えられ(165)、この住居跡の帰属時期が大雑把には推定できる。炭を基準に床のつくり直しを見ると、炭 2(床 2)の段階に、中央炉付近に、赤色顔料の薄い分布も確認されている。これは分析の結果、ベンガラであることが分かった(Fig.59, PL.55)。ベンガラは、南部九州の古墳時代後半期の高坏や埴に多用されており、住居内で塗布作業を行っていた可能性もある。

竪穴は、最初、中央部付近を最も凹面状に深く掘り下げ、掘具痕を残したまま凹凸に粗く掘り込む。その上に、10-25cm 程度の厚さに土を充填してフラットに

し、床面としている。

竪穴外壁に沿って、いわゆる「ベッド状遺構」といわれる段が形成されている。その段は、幅 0.5-1.0m、高さ約 20cm 前後である。

そのほかに、竪穴内壁の段隅部分と貼り床隅部に「壁溝」が巡っており、内壁に板壁などをたてて、住居内を保護していたと推定される。これは、地山に深く掘り込んだものだけが認定されているので、検出面からの深さは極めて浅く、1-4cm 程度が残存しているに過ぎない。段上の住居土壁に接するものは、住居内部への雨などの浸入から防御するものとして考えられるが、段下の貼り床の板壁は、何の機能を果たしていたのか定かではない。

住居内出土遺物は、弥生時代-古墳時代のものまであるが、先述したように床面にあるものは、古墳時代後半期土器である。遺物の接合状況からは、竪穴内部の埋土のみで接合し、わずかに 4b 層遺物との接合関係がみられる程度である。これは、住居廃棄の際に、一気に埋め戻された結果ではないかと考える。

SK5・6(土坑)

SK5・6 は、検出面で観察すると、平面形は不整形であり、底面は凹凸が著しく、掘り具痕を示していると考えられる。深さ 10-20cm 前後でかなり浅い。この SK5・6 は、それ自体が独立して機能していたとは考えにくく、住居跡とは切り合っていない状況から推して、住居竪穴の存在を意識してつくられたものであろうと考えられる。また、住居の入口付近の東西側に存在し、住居跡を全周するわけではない。

上屋構造を考えれば、SK4 の住居掘り込みの突出部分(入口)を覆い隠すような屋根の存在でなければならないから、SK5・6 は、屋根に隠れている部分になる。また、屋根との接地部分は、空間として広い場所ではなく、日常的に使用する空間ではないと考えられる。

SK4 における壁溝の存在や、SK5・6 が屋根に隠れている可能性、そして遺物の接合状況などから、検出はされていないものの、周堤の存在を想定したい。周堤は直裁的に考えれば、竪穴掘削段階において多量にでる廃土そのものでつくり、竪穴を外周するものと考えられるが、SK5・6 は土堤製作の際にわずかに足りない土を追加するために掘られた穴か、あるいは、住居廃棄の埋め戻す際、周堤だけでは足りない土を掘った結果ではないだろうか。仮に土堤が想定できるならば、入口のピット(P A111-115)の存在から、周堤は入口を開けた馬蹄形のものであると考えられる。

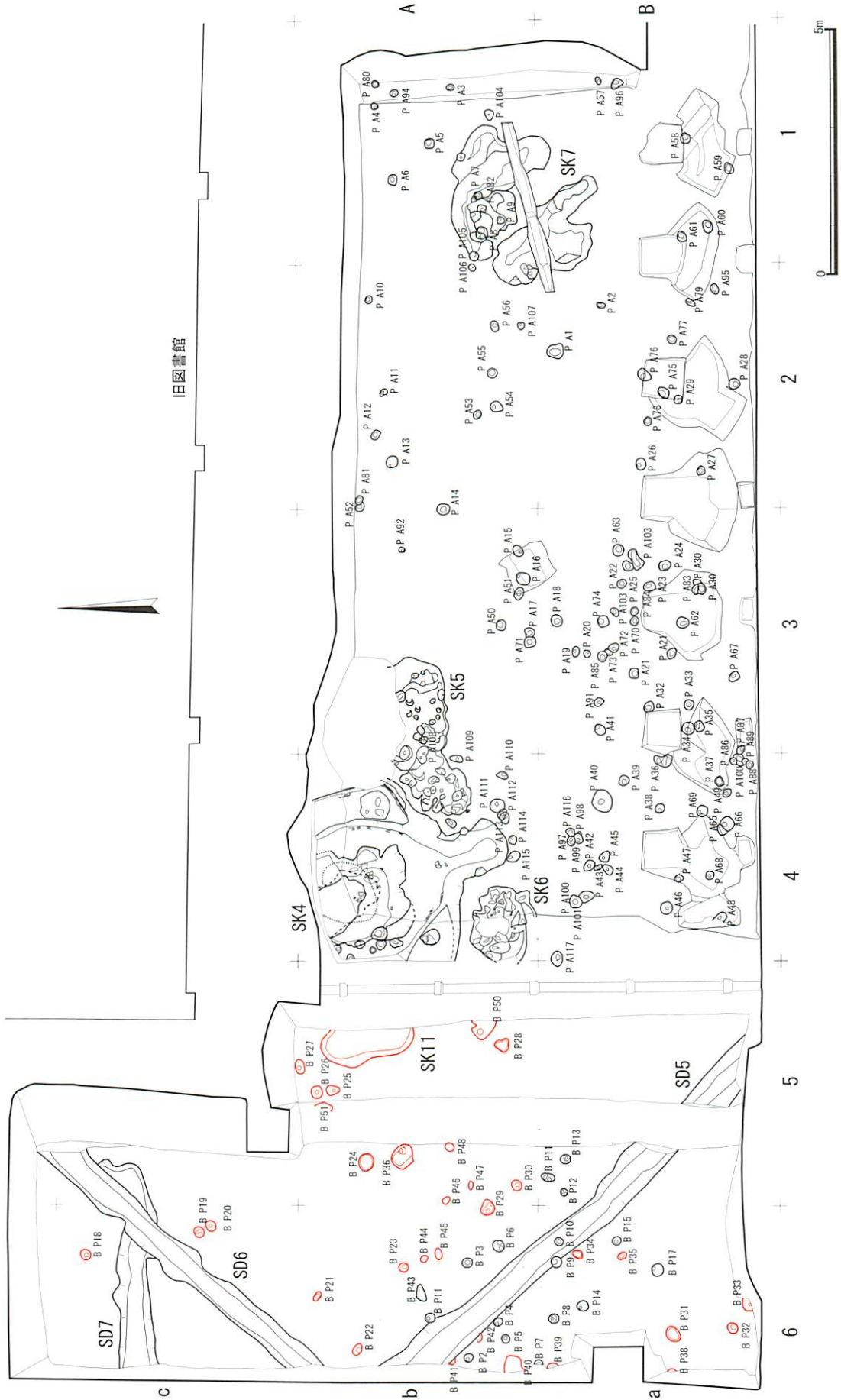


Fig.57 A・B地点5層上面検出遺構(S=1/120)

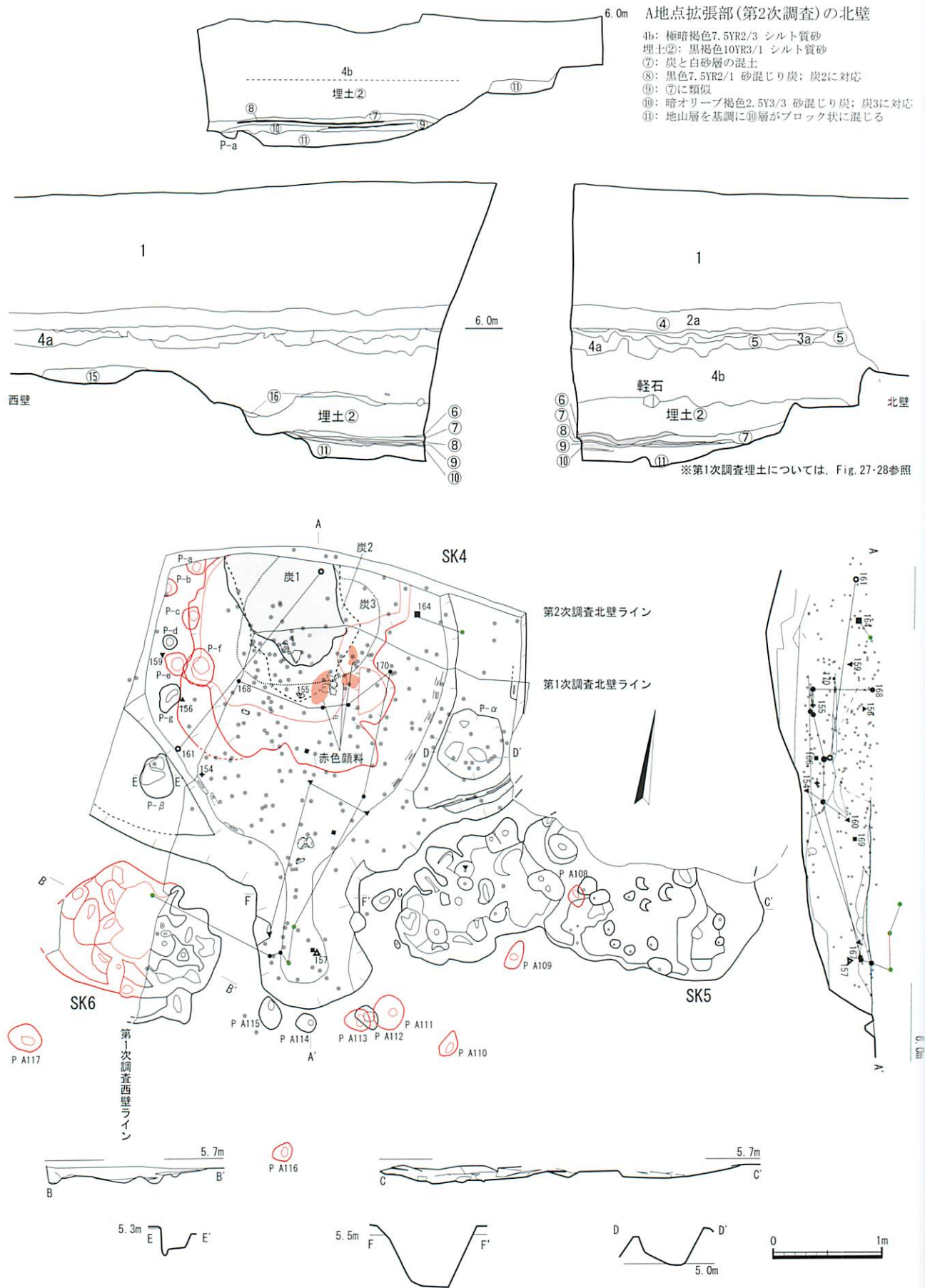


Fig.58 A 地点 SK4-6(S=1/50)

遺構: 黒色ラインは5層上面検出, 赤色ラインは住居の掘り込みラインと, より下位のレベルより検出されたもの。

遺物: 黒; 遺構出土, 赤; 2・3層出土, 緑; 4・5層出土. ■; 古墳時代在地系土器, □; 古墳時代外来系土器, ▼; 弥生時代在地系土器, △; 弥生時代外来系土器, ●; 弥生時代古墳時代土器, ●; その他無文胴部など, +; 石器



PL.50 A地点SK4・5・6検出状況(第1次調査)



PL.51 A地点SK4・5・6掘り下げ状況(第1次調査)



PL.52 A地点SK4床面1検出状況(第1次調査)



PL.53 A地点SK4床面2検出状況(第1次調査)



PL.54 A地点SK4床面2赤色顔料検出(第1次調査)

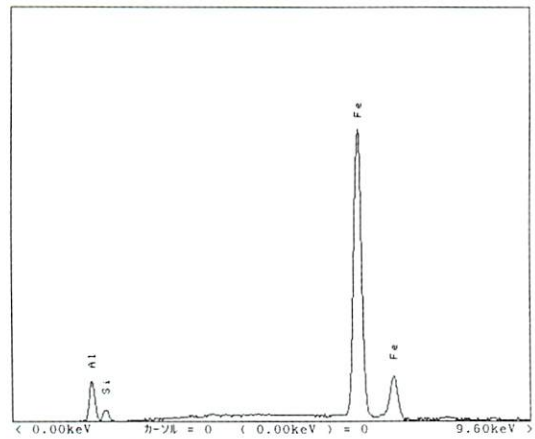
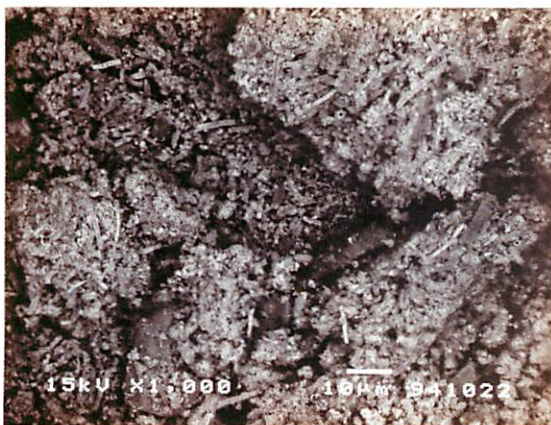


Fig.59 赤色顔料X線分析スペクトル
(鹿児島県立埋蔵文化財センター提供)

JEOL JED-2001
試料名:KADAI MAIBUN 2220
経過時間:121.34秒
有効時間:100.00秒
測定日:94年10月22日
測定時刻:12時03分06秒
フルスケール:8K



PL.55 赤色顔料電子顕微鏡写真 (鹿児島県立埋蔵文化財センター提供)

この赤色顔料は、酸化第二鉄(Fe_2O_3)のいわゆる「ベンガラ」である。鉄細菌由来のパイプ状粒子構造が見られる。



PL.56 A 地点 SK4 床面検出壁溝(第1次調査)



PL.57 A 地点 SK4 床面遺物出土状況(第1次調査)



PL.58 SK4 北壁観察による炉のつくり直し(第1次調査)

当時の炉の大きさは現状では判然としないため、炭の分布範囲から、中心部などを推定するほかない。SK4では最も炭の厚い部分を炉の中心と捉えている。また、SK4には、鹿児島大学構内遺跡郡元団地の古墳時代後半期に顕著な埋設土器が残されていない。あるいは元来なかったのかもしれない。



PL.59 A 地点 SK4 炉完掘(第1次調査)



PL.60 A 地点 SK4 掘床検出時の工具痕(第1次調査)



PL.61 A 地点 SK4 完掘(第1次調査)



PL.62 A 地点 SK4 完掘(第1次調査)



PL.63 A 地点 SK4 拡張部(第2次調査)



PL.64 A 地点 SK4 拡張部床面検出(第2次調査)



PL.65 A 地点 SK4 拡張部完掘(第2次調査)



PL.66 A 地点 SK4 西壁(第2次調査)



PL.67 A 地点 SK4 北壁(第2次調査)

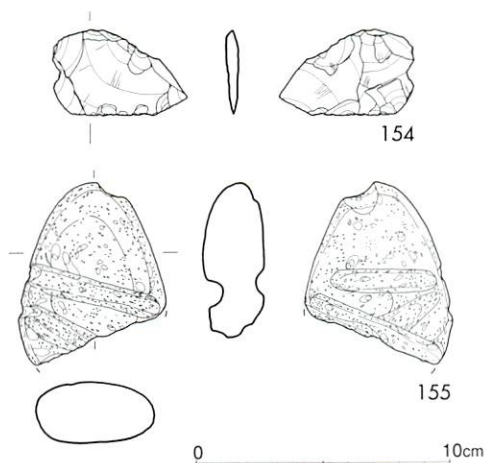


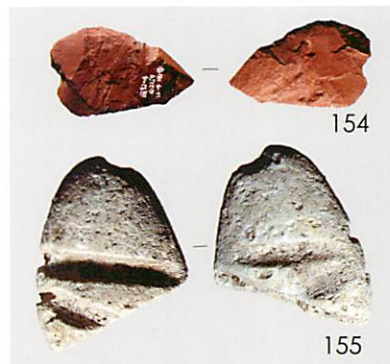
Fig.60 SK4 出土石器(S=1/3)

Tab.29 SK4 出土石器観察

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
154	SK4(埋土2)	紫赤色頁岩	5.6	3.4	0.6	10.87	図下部に剥離が認められる

Tab.30 SK4 出土軽石製品観察

No.	層	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
155	92-4 SK4	7.1	5.8	2.4	16.38	楕円形、下半部欠損。表・裏面に2条の凹部をつくる。



PL.68 SK4 出土石器

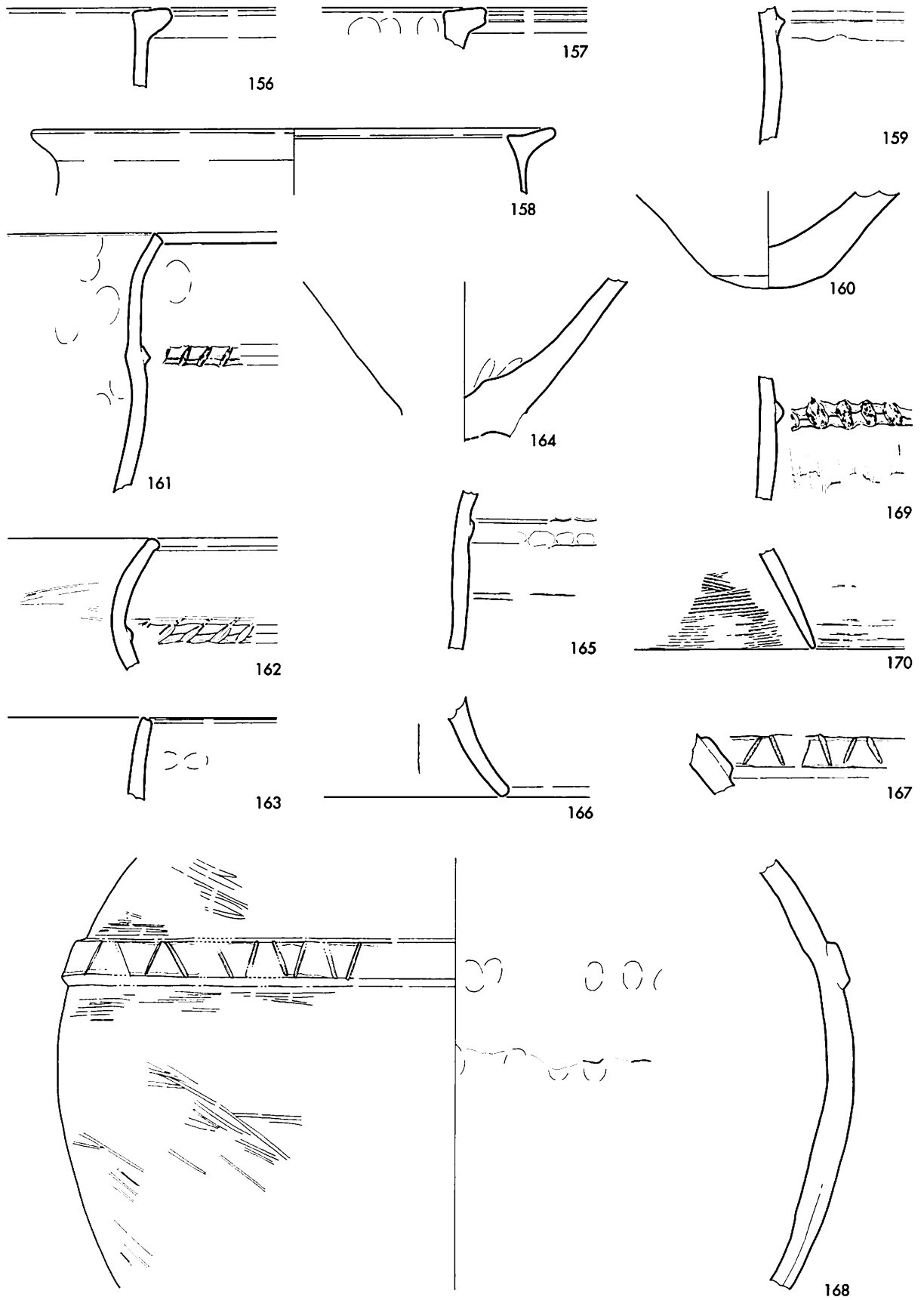
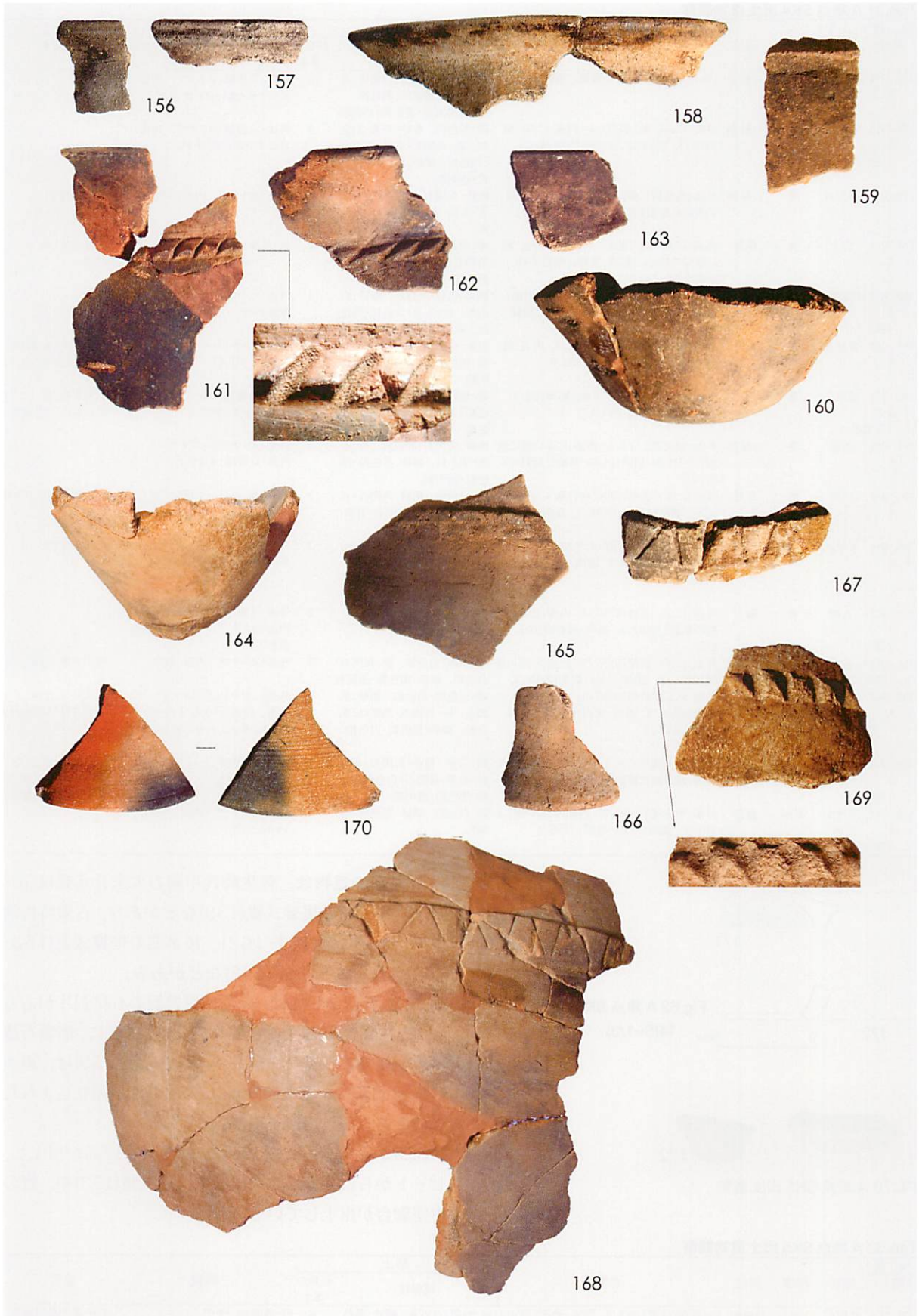


Fig.61 A 地点 SK4 出土遺物(S=1/3)

0 10cm



PL.69 A 地点 SK4 出土遺物

Tab.31 A 地点 SK4 出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
156 SK4 A	入来Ⅱ式	甕	口縁部	内・外面・器内:にぶい黄褐色に類似10YR5/3.	礫:黒雲母・赤色粒. 粗砂:黒雲母. 砂:黒雲母・黒色粒. 細砂:黒雲母・黒色粒・白色粒.	3	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ヨコナデ・浅いユビオサエ.	
157 SK4 A (埋土1)	入来Ⅱ式	甕	口縁部	外面:にぶい褐色7.5YR5/3. 内面:にぶい褐色5YR6/4. 器内:にぶい褐色7.5YR7/4.	礫:黒色粒. 粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石・石英・黒雲母・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒・透明粒.	4	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	
158 SK4 A	黒髪式	甕	口縁部	外面:浅黄褐色に類似10YR8/3. 内面:にぶい黄褐色に類似10YR7/4. 器内:灰5Y4/1.	粗砂:角閃石・石英. 砂:角閃石・石英・赤色粒. 細砂:黒色粒.	4	外面:ヨコナデ. 内面:ユビオサエ・ヨコナデ.	ススの付着. 口径(27.4cm).
159 SK4 A	弥生	甕	胴部	外面:にぶい褐色に類似7.5YR6/4. 内面:褐色に類似5YR6/6. 器内:黄褐色に類似10YR8/6.	礫:赤色粒. 粗砂:石英. 砂:角閃石・石英・白色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	内・外面:ナデ(一).	三角突帯1条. ススの付着.
160 SK4 A (埋土1・2)	中津野式	壺	底部	外面:にぶい黄褐色に類似10YR6/3. 内面:摩滅のため不明. 器内:にぶい褐色に類似7.5YR7/4.	礫:白色粒・灰色粒. 粗砂:白色粒. 砂:石英・白色粒・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	外面:ハケ(横か). 内・外面とも摩滅が著しい.	
161 SK4 A	東原式	甕	胴部	外面:にぶい褐色に類似7.5YR6/4. 内面:褐色5YR6/6. 器内:褐色に類似5YR6/6.	粗砂:白色粒・赤色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ヨコナデ・ナデ. 内面:ヨコナデ・ナデ(一).	三角突帯1条. 刻目(ノ)中に布目圧痕. ススの付着.
162 SK4 A (埋土2)	東原式	甕	口縁部	外面:明赤褐色5YR5/6. 内面:褐色10YR4/4. 器内:にぶい褐色7.5YR5/4.	礫:黒色粒. 粗砂:角閃石・白色粒・赤色粒. 細砂:石英・白色粒.	3	外面・口唇部:ヨコナデ. 内面:ハケ(一)→ヨコナデ	三角突帯1条. ハケによる刻目(ノ)を施す.
163 SK4 A	古墳	甕	口縁部	外面:暗灰黄2.5Y4/2. 内面:にぶい褐色に類似7.5YR7/4. 器内:にぶい黄褐色に類似10YR7/4.	粗砂:角閃石・赤色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:赤色粒・黒色粒・透明粒.	3	外面:ヨコナデ・ユビオサエ. 内面:口唇部:ヨコナデ.	
164 SK4 A	古墳	甕	底部	外面:にぶい黄褐色に類似10YR6/4. 内面:にぶい黄褐色に類似10YR6/3. 器内:褐色7.5YR7/6.	礫:白色粒. 粗砂:角閃石・石英・白色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	内・外面:ハケ→丁寧なナデ(一). 内面底部にユビオサエ.	接合部で脚台が欠落.
165 SK4 A	東原式	甕	胴部	外面:にぶい褐色7.5YR5/4. スス付着. 内面:浅黄褐色に類似2.5Y7/3. 器内:にぶい黄褐色10YR7/4.	礫:灰色粒・赤色粒. 粗砂:石英・灰色粒・白色粒・赤色粒. 砂:石英・黒色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ナデ(一). 内面:ナデ. 内・外面:ハケの打ち込み痕あり.	絡縄突帯1条.
166 SK4 A (埋土2)	古墳	甕	脚台	外面:にぶい黄褐色10YR7/4. 内面:にぶい褐色に類似7.5YR7/4. 器内:浅黄褐色10YR8/3.	砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	2	外面:丁寧なナデ(一)・ヨコナデ. 内面:ヨコナデ. ハケの打ち込み痕あり.	
167 SK4 A (埋土1)	古墳	壺	肩部	外面:にぶい黄褐色10YR7/3. 内面:にぶい黄褐色10YR5/3. 器内:にぶい黄褐色10YR6/3.	礫・粗砂:白色粒. 砂:角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	3	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	幅広突帯. 沈線(一).
168 SK4 A	笹貫式	壺	胴部	外面:にぶい黄褐色10YR5/3. 内面:にぶい黄褐色10YR6/3. 器内:灰白10YR8/2・にぶい褐色7.5YR7/4.	礫:灰色粒・白色粒. 粗砂:角閃石. 砂:角閃石・黒雲母・黒色粒. 細砂:黒色粒・白色粒.	2	外面:ミガキ(一)・ヨコナデ. スス付着. 内面:ハケ(一)・ナデ(一)・ユビオサエ. ハケの打ち込み痕あり.	幅広突帯. 沈線(一). 胴最大径(42.0cm).
169 SK4 A (埋土1)	古墳	壺	胴部	外面:浅黄褐色10YR8/4. 内面:灰黄2.5Y6/2. 器内:浅黄褐色に類似10YR8/3.	礫:石英. 粗砂:角閃石・石英. 砂:石英・角閃石・白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	2	外面:ヨコナデ(一)(一). 内面:ナデ(一)(一).	三角突帯1条. 刻目(ノ)中に布目圧痕. 刻目は上下2方向から施す.
170 SK4 A (埋土2)	弥生か 古墳	高杯	脚部	外面:明赤褐色2.5YR5/6. 内面:にぶい褐色7.5YR5/4. 器内:にぶい黄褐色10YR6/3.	砂:白色粒. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ヨコナデ. 内面:ハケ(一)→ヨコナデ.	

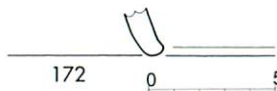


Fig.62 A 地点 SK5 出土遺物(S=1/3)



PL.70 A 地点 SK5 出土遺物

SK4 内の遺物は、弥生時代中期の入来Ⅱ式甕(156・157)、中九州系黒髪式甕(158)などがあり、古墳時代前半期の東原式甕(161・162)、後半期の笹貫式甕(163・165)、笹貫式壺(167・168)などがある。

また、石器としては、赤色の頁岩製の石材剥片があるが、これは4b層出土類似資料(153)と同様に、磨製石鏃の未製品である可能性がある。軽石製品(155)は、両面に幅1cm前後、深さ約0.4-0.6cmの溝が掘り込まれたものであるが、用途不明である。

SK5からは、黒髪式(171)と中空脚台(172)が出土し、ピットからは、古墳時代後半期笹貫式甕(173)や、甕の中空脚台が出土している(174)。

Tab.32 A 地点 SK5 出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
171 SK5 A	黒髪式	甕	口縁部	内・外面:淡黄2.5Y8/3. 器内:黄灰2.5Y4/1.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・赤色粒.	4	内・外面:ヨコナデ.	外面:赤色顔料塗布.
172 SK5 A 古墳	弥生か	甕	脚台	外面:褐色7.5YR6/6. 内面・器内:にぶい黄褐色10YR5/4.	粗砂:石英・白色粒. 砂:角閃石. 細砂:黒色粒.	2	外面:ハケ(一)・端部はヨコナデ. 内面:ハケ(一)→ヨコナデ.	

土坑(SK7)

SK7は、平面形が馬蹄形状の凹地で、埋土が円形に巡っている。検出面からの深さは、10-30cmで比較的浅い。埋土は、中央部から外周部というように、変化しており、外周部に向かって下層になる。しかし、中央部にも地山の黄色砂層が上がり、土層の逆転現象がみられる。このような形状と埋土の土坑は、風倒木の可能性が考えられる。風倒木の場合、倒木の根側が、土層が大きく逆転していることが考えられるから、倒木方向は、南東方向であることが推定できる。

遺物の出土は、ほとんどない。



PL.71 SK7 断面



PL.72 A 地点 SK7 検出(一部既掘)



PL.73 A 地点 SK7 完掘

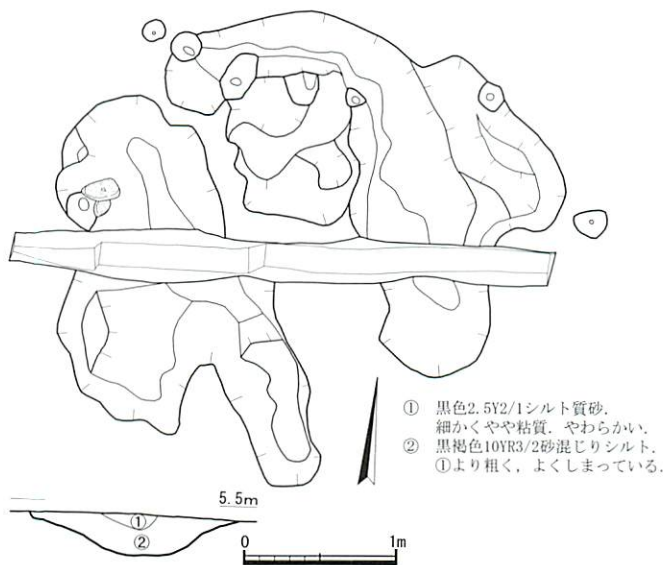
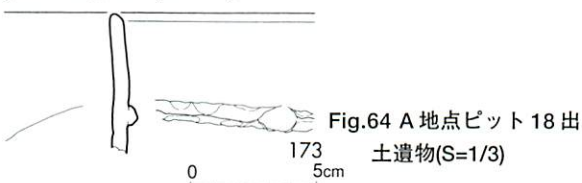
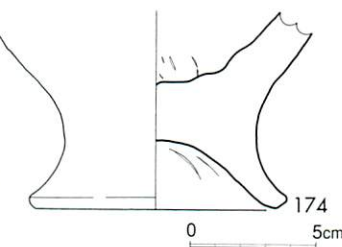


Fig.63 A 地点 SK7(S=1/50)



PL.74 A 地点ピット 18 出土遺物

Fig.65 A 地点ピット 68 出土遺物(S=1/3)
内底面に打ち込み痕とよぶ刷毛目の始点が観察される。



PL.75 A 地点ピット 68 出土遺物



Tab.33 A 地点ピット出土遺物観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の多さ		
173 Pit18 A	甕貫式	甕	口縁部	内・外面:浅黄橙10YR8/3. 器内:灰白10YR7/1.	粗砂:角閃石, 砂:角閃石・石英, 細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面:ナデ(-).	絡縄突帯1条.
174 Pit68 A	古墳	甕	脚台	外面・内面:橙7.5YR6/6. 器内:浅黄橙10YR8/3	粗砂・砂:角閃石・石英・白色粒, 細砂:黒色粒・白色粒.	4	外面:工具によるナデ(-). 内面:底径(9.6cm), ハケ・ハケの打ち込み痕あり.	

付編1 郡元団地L-6区(中央図書館増築地A・B地点)における発掘調査

Tab.34 A・B地点ピット深さ一覧

ピット№	長径(cm)	短径(cm)	検出レベル(cm)	最深レベル(cm)	深さ(cm)	ピット№	長径(cm)	短径(cm)	検出レベル(cm)	最深レベル(cm)	深さ(cm)
A-1	35	26	537.7	520.2	17.5	A-84	20	14	565.2	545.8	19.4
A-2	18	12	529.6	514.5	15.1	A-85	22	20	563.8	553.4	10.4
A-3	18	14	540.9	529.5	11.4	A-86	16		566.9	559.2	7.7
A-4	14		537.2	525.2	12	A-87	20	16	566.4	555.4	11
A-5	24	22	542.3	528.4	13.9	A-88	14		566.3	555.2	11.1
A-6	20	16	536.4	509.6	26.8	A-89	14		565.5	555.7	9.8
A-7	16	14	541.9	513.6	28.3	A-90	30	24	565.8	561.2	4.6
A-8	25	22	542.5	518.9	23.6	A-91	20	14			
A-9	18	14	547.7	535	12.7	A-92	14		555.4	539.7	15.7
A-10	16	13	540.2	533.6	6.6	A-93	17	14	542.8	526.8	16
A-11	18	12	545.9	536	9.9	A-94	18	16	536.5	523.2	13.3
A-12	20	17	547.5	533.2	14.3	A-95	22	18	536	548	-12
A-13	27	24	551.2	530.9	20.3	A-96	24	22	542.3	518	24.3
A-14	28	24	557.7	526.5	31.2	A-97	22	18	566.3	556.7	9.6
A-15	28	20	562.4	536	26.4	A-98	24	16	565.2	556.9	8.3
A-16	31	25	563.2	542.2	21	A-99	6+ α				
A-17	22	24	564.8	539.9	24.9	A-100	26	24	564	543.8	20.2
A-18	24		562.7	541	21.7	A-101	28+ α	22	565.3	558	7.3
A-19	24	16	564.6	556	8.6	A-103	42	18	563.1	553.7	9.4
A-20	14		565.2	553.5	11.7	A-104	24	19	540.6	528.1	12.5
A-21	24		564.9	553.8	11.1	A-105	19		538.5	525.6	12.9
A-22	20	18				A-106	15		540.2	535	5.2
A-23	26	21	567.2	557.8	9.4	A-107	14	12	542.8	526.8	16
A-24	24	20	564.1	542.7	21.4	A-108	22	13	553.2	546.5	6.7
A-25	28	22	578.7	553.6	25.1	A-109	26	14	558.7	545.4	13.3
A-26	26	22	556	543.7	12.3	A-110	24	16	562.4	544.8	17.6
A-27	20	18	555.9	548.2	7.7	A-111	32	27	561.7	541.6	20.1
A-28	24		549.5	529.4	20.1	A-112	24	15	565.7	538.9	26.8
A-29	19	18	551.6	528.5	23.1	A-113	24	21	562.1	537.5	24.6
A-30	22	19	565.6	552.2	13.4	A-114	19.5	17	566.2	557.3	8.9
A-31	24	18	563.2	552.4	10.8	A-115	29.5	20.5	565.7	544.3	21.4
A-32	24	21	566.3	550	16.3	A-116	18	17	558.6	550.1	8.5
A-33	21		563.8	550.1	13.7	A-117	25	19	566.5	548.8	17.7
A-34	24		563.4	536.8	26.6	B-1	26	20	565.9	551	14.9
A-35	22		564.1	543.9	20.2	B-2	15		563.5	552.8	10.7
A-36	38	28	566.7	542.5	24.2	B-3	21	18	564.8	552.2	12.6
A-37	20		567.6	556.9	10.7	B-4	23	18	562	540.6	21.4
A-38	21		568.6	546.9	21.7	B-5	18	14	562.7	547.9	14.8
A-39	23		565.8	543.8	22	B-6	28	23	563.3	532.3	31
A-40	50	42	566.1	553.3	12.8	B-7	20	18+ α	564	546.9	17.1
A-41	24	19	569	548.7	20.3	B-8	16		563.3	549	14.3
A-42	26	20	566.4	556.5	9.9	B-9	28	23	562.6	531.2	31.4
A-43	16	15	566	556.4	9.6	B-10	23	20	564.2	533.5	30.7
A-44	24	20	566.6	561.1	5.5	B-11	24	17	566.2	543	23.2
A-45	24	22	565.9	540.8	25.1	B-12	19	14	565.7	548.5	17.2
A-46	28	26	569.6	545.2	24.4	B-13	23	16	565.7	547.6	18.1
A-47	18	16	570.1	548.6	21.5	B-14	25	21	560.4	540	20.4
A-48	24+ α	22	567	550	17	B-15	18		563.5	542.8	20.7
A-49	20	16	568.4	554.6	13.8	B-16	18		565.4	540.6	24.8
A-50	24		560.6	537.5	23.1	B-17	27	23	560.6	546.7	13.9
A-51	26	18	561.4	543.4	18	B-18	24	20	568	553.4	14.6
A-52	22	19	551.2	533.4	17.8	B-19	22	16	566.9	558.8	8.1
A-53	21	16	545.7	531.3	14.4	B-20	24	18	566.2	555.1	11.1
A-54	28	24	545	517.7	27.3	B-21	24	12	566.2	552.7	13.5
A-55	20		542.8	528.8	14	B-22	26	18	564	543.5	20.5
A-56	22	15	542.9	520.7	22.2	B-23	18		564.4	555.5	8.9
A-57	16		544	535.2	8.8	B-24	40	32	564.6	556.5	8.1
A-58	24	22	541.3	516.9	24.4	B-25	28	18	563.7	554.5	9.2
A-59	24	18	542.4	527.4	15	B-26	26	20	564.5	560	4.5
A-60	28	20	545.5	533.5	12	B-27	28	16	566.2	538.4	27.8
A-61	24	16	541.9	524	17.9	B-28	30		563.4	557.4	6
A-62	26	22	558.4	545.5	12.9	B-29	34	30	562.5	539.3	23.2
A-63	24	24	562.9	543.4	19.5	B-30	22	20	562.2	542.9	19.3
A-64	24	20	563.4	551.2	12.2	B-31	38	28	554.6	543.9	10.7
A-65	24		565.2	541.9	23.3	B-32	24	21	554.5	543.9	10.6
A-66	30		566	529.2	36.8	B-33	40	20+ α	554	543.4	10.6
A-67	24	22	564.3	559.3	5	B-34	21	16	558.9	556	2.9
A-68	16		557.2	548.8	8.4	B-35	20	13	560.5	549.8	10.7
A-69	24	18	568.3	550.5	17.8	B-36	68	44	563.9	543.9	20
A-70	20		564	556	8	B-38	14+ α	-	554.5	-	-
A-72	24	16	564.5	557.6	6.9	B-39	24+ α	8+ α	561.7	549.5	12.2
A-73	16		563.7	554.8	8.9	B-40	50+ α	36+ α	559.5	531.8	27.7
A-74	28	24	563.3	535.9	27.4	B-41	16	12+ α	561.4	535.6	25.8
A-75	28	22	549.4	531.7	17.7	B-42	14+ α	-	560.3	554.2	6.1
A-76	30	24	549	533.9	15.1	B-43	32	18	564.2	543.6	20.6
A-77	22	16	545.5	535.8	9.7	B-44	16	14	563.8	551.2	12.6
A-78	17		550.5	536	14.5	B-45	24	14	562.6	540.1	22.5
A-79	24	12	546.4	531.8	14.6	B-46	18	10	563	541.7	21.3
A-80	15		535.1	511.2	23.9	B-47	16	10	562.6	553.6	9
A-81	22	16	550.8	543.3	7.5	B-48	19	16	565.3	545	20.3
A-82	18	14	540.1	528.2	11.9	B-50	40+ α	48	559.6	537.3	22.3
A-83	22		563.5	553.4	10.1	B-51	32+ α	-	566	-	-

B地点には、3条の溝状遺構(SK5-7)と土坑1基(SK11)、そして、多数のピット群が確認できる。

と考えられる SK5・6 の配置と、住居跡に近いという関連性があるようにも見受けられる。埋土は、4b層土に類似しており、黒褐色 5YR2/2 のシルト質砂である。

溝状遺構(SD5-7)

溝状遺構は全て直線的に伸びている。SD5は、北西-南東方向で、検出された長さは約8.5m、検出面からの深さ20-25cmである。SD6は、北東-南西方向で、長さ約6.7m、深さ20-25cm、SD7は、東西方向で、長さ約4.2m・深さ10-20cmで、SD6に切られる関係にある。

これらの溝の断面形状はU字形であり、共通している。また、検出幅も50-80cm間にあって類似しており、ある程度の同時性を推し量ることができる。埋土は単純であり、埋土の上部は4b層、下部は、地山5層の黄色粗砂層と4b層土の混土である。3条ともに特に著しい傾斜もなく、水流の痕跡も認められない。SD6からは(Fig.68)、古墳時代前半期の特徴をもつ甕口縁部(175)と、古墳時代後半期の高坏(177)、古墳時代の壺が出土しており(176)、帰属時期は判然としない。溝内遺物はほとんどが小破片のみであり、遺物が意図的に廃棄されているような様子も認められない。

これらの特徴から、この3条の溝状遺構は、何らかの区画溝であると考えられる。しかし、住居などを囲うなどといった状況も判断できず、ピット群との有機的関係性も分からない。

土坑(SK11)

検出面から判断して、推定径約0.9-2.0cmの長楕円形状を呈した土坑である。性格は不明であるが、A・B地点全体の遺構配置状況(Fig.57)からみると、A地点住居跡(SK4)に伴う

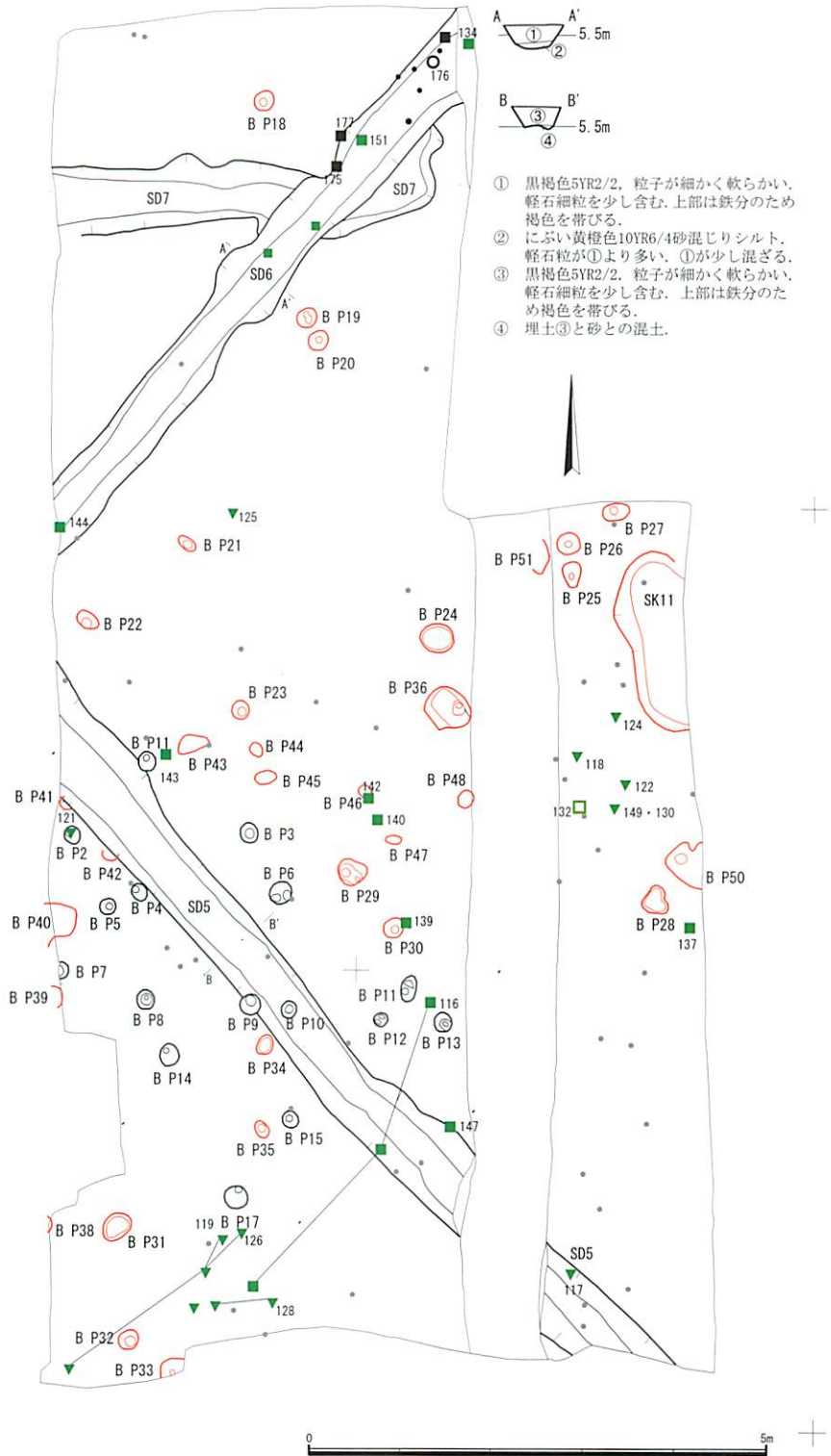


Fig.66 B 地点遺構配置図(S=1/80)

遺構: 黒色ラインは5層上面検出, 赤色ラインはより下位のレベルより検出されたもの。
遺物: 黒; 遺構出土, 赤; 2・3層出土, 緑; 4・5層出土。

■; 古墳時代在地系土器, □; 古墳時代外来系, ▼; 弥生時代在地系, △; 弥生時代外来系, ●; 弥生時代か古墳時代土器, ●; その他無文胴部など, +; 石器



PL.76 B 地点 SD5 検出

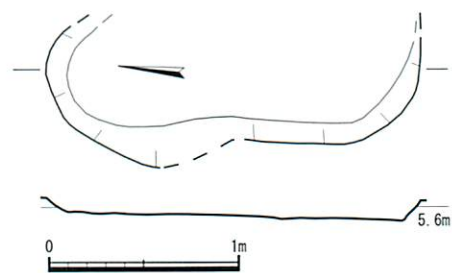


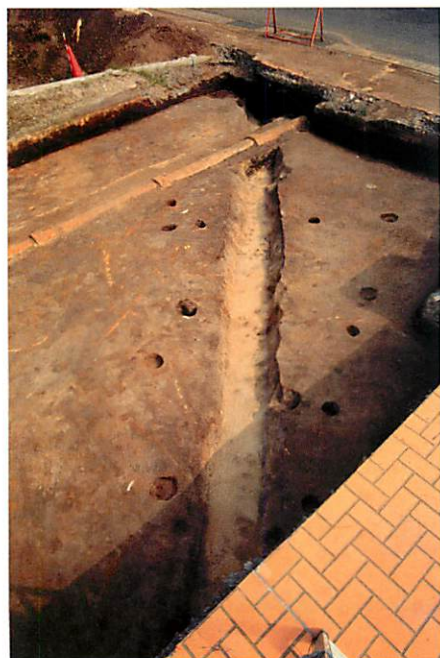
Fig.67 B 地点 SK11 断面(S=1/40)



PL.77 B 地点 SD5 断面



PL.79 B 地点 SD6 完掘



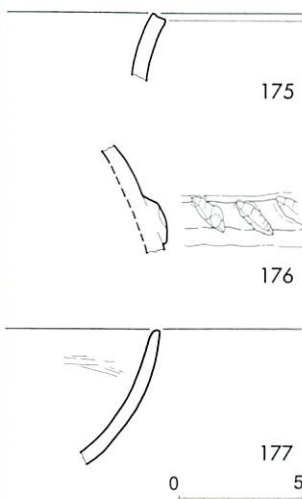
PL.78 B 地点 SD5 完掘



PL.80 B 地点 SD5・6・7 完掘



PL.81 B地点SD7完掘



PL.82 B地点SD6出土遺物

Fig.68 B地点SD6出土遺物(S=1/3)

Tab.35 B地点SD6出土土器観察

No. 層 地点	種別	器種	部位	色調	胎土			備考
					混和材	砂粒の 多さ	調整	
175 SD6 B (埋土1)	古墳	甕	口縁部	外面:暗灰黄2.5Y5/2. 内面:にぶい黄橙10YR7/4. 器内:浅黄橙10YR8/4.	粗砂:赤色粒. 砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	4	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	
176 SD6 B	古墳	壺	胴部	外面:にぶい黄褐10Yr5/4. 内面:明褐7.5YR5/6. 器内:にぶい橙7.5YR7/4.	礫:石英. 粗砂:角閃石・石英・白色粒・赤色粒. 砂:石英・黒色粒.	3	外面:ヨコナデ. 内面:剥落.	幅広突帯1条. ハケによる刻目(\\).
177 SD6 B	古墳	高杯	口縁部	外面:にぶい黄橙に類似10YR7/4. 内面・器内:浅黄橙に類似10YR8/4.	砂:角閃石・石英. 細砂:黒色粒・透明粒.	1	外面:ヨコナデ・ナデ(\\). 内面:ヨコナデ・細かいハケ(\\)→ナデ.	

5-8.A・B地点5層出土遺物(Fig.69・70,Tab.36・37, PL.83・84)

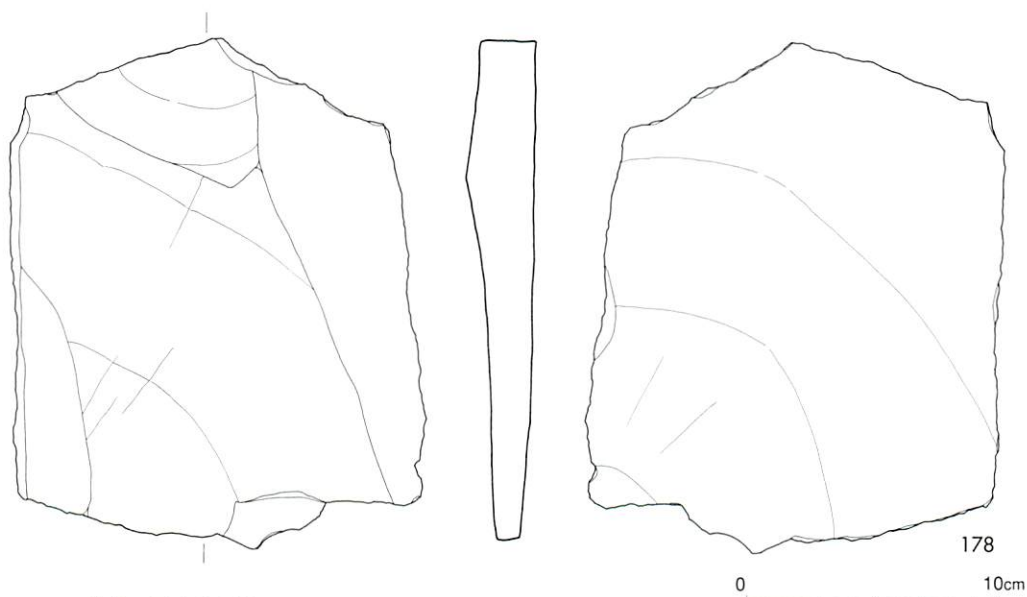


Fig.69 A地点5層出土土器(S=1/3)

5層出土遺物はわずかであり、4b層からの落ち込みや紛れ込みによるものと考えられる。

(178)は、A地点出土の、輝石安山岩製の石材と考えられる資料である。裏面の左下端に打点をもつ。

(179)は、口唇部を面取りするという、古墳時代前半期ごろの特徴をもつ甕口縁部である。

Tab.36 A地点5層出土土器観察

No. 層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考	
178	5	輝石安山岩	19.6	15.7	2.7	1085	両側面と上面に剥離面あり.



PL.83 A地点5層出土石器

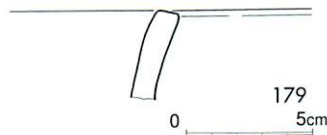


Fig.70 B地点5層出土土器 (S=1/3)
口唇部を面取りすると
いった古墳時代前半期の
特徴をもつ。



PL.84 B地点5層出土土器

Tab.37 B地点5層出土土器

No. 地点	層 種別	器種	部位	色調	胎土		調整	備考
					混和材	砂粒の 多さ		
179 B	5 古墳	甕	口縁部	外面:黄褐色に類似2.5Y5/3. 内面:にぶい黄 2.5Y6/3. 器内:橙7.5YR7/6.	粗砂・砂:石英. 細砂:透明粒.	2	内・外面・口唇部:ヨコナデ.	

6. まとめ

A・B地点の調査では、5層上面において、住居跡1基と、溝状遺構3条、性格不明土坑1基、多数のピット群が検出された。これらの有機的関係性は、明らかにできなかった。また、正確な時期の判断が困難であるが、出土遺物の量的な把握から(Tab.38)、古墳時代後半期ごろの時期が推定された。しかし、遺構内や4層包含層中に弥生土器や古墳時代前期ごろの遺物が混じるため、近隣には、それらの良好な包含層の存在も推定される。4a-3b層は、タケなどが検出されており、キビなどの検出もあるとされる。この時期の稲作は、畑作が想定されている(付編2参照)。

また、正確な時期を判断することはできないが、4層上面において、溝状遺構3条と性格不明土坑2基が検出されている。これらの溝は、粗砂や小礫を含み、水の流れていた様子が、埋土から確認される。また、平面形態の凹凸もまた、それを支持するものである。しかし、これが人工的なものであるか、自然のものであるかは、遺構そのものの形態からは判断できなかった。これらを覆う3a層は、土壌プラント・オパール分析によって、多量のイネが検出されており、また、ヨシの検出から、湿潤な環境が復元され、水田の可能性が示唆されている(付編2参照)。3層土と溝状遺構の埋土は異なるが、水田へと取水する溝の存在も否定できない。

2層土は、中近世ごろの時期が与えられるが、プラント・オパール分析によれば、イネの検出が最も多い。

遺物は、古墳時代後半期を中心とし、この地点がその

時期の活動が主となっている様子をうかがい知ることができる。ほかにも、弥生時代中期、弥生時代終末期～古墳時代前半期ごろの遺物の出土もみられる。

弥生時代中期

この時期の遺構は確認されていない。古墳時代後半期の遺物が中心となる4層に混在している状態である。大きくは、弥生時代中期前半(新)と中期後半(古)の二時期に分けられそうである。入来Ⅱ式段階の土器は、甕、大甕、小型甕などがある。壺は出土していない。いわゆる「一の宮式」と呼ばれる甕も確認されており、この口縁部に類するものも少なくない。土器胎土の肉眼観察によると、大甕などには大粒の黒雲母が混入しており、他地域からの持ち込み品である可能性が示唆される。また、搬入品と見られる須玖式(甕棺・壺?)、黒髪式(甕)も認められ、地域間交流の一端が窺える。本遺跡において確認されたタイプの甕棺は、近年散発的に出土しており、金峰町下小路遺跡⁹⁾、吹上町入来遺跡¹⁰⁾、山川町成川遺跡¹¹⁾、鹿児島市北麓遺跡¹²⁾、万之瀬川採集品¹³⁾などで確認されている。

打製石鏃や剥片石器も出土しているが、本来はこの時期に帰属するものであると考えられる。

弥生時代終末期～古墳時代前半期

この時期の遺構も判然としない。中津野式の甕・壺・台付鉢のほかに、東原式の甕・壺などが見られる。ほか

にも古式土師器とよばれる布留式並行期の土器も一個体確認されている。個体数としては、非常に少ない。

布留式並行の甕は、畿内布留式そのものではなく、やや変容しているように見える。しかし、南九州の成川式土器様式と比較すると、薄手であり、器面調整も整調である。また、暗文を施すという観点からも、南部九州産ではなく、持ち込み品である可能性が高い。

古墳時代後半期

5層上面で検出された遺構は、住居跡の配置と、互いに切りあっている直線的な溝の配置には、特に有意な関係性を読み取ることはできなかった。

本調査地点の北東部に位置する釘田第1地点¹⁴⁾や、総合教育研究棟(総合教育研究棟[文系総合研究棟]:1999-2000年度調査;未報告)¹⁵⁾、また北西部に位置する理学部周辺¹⁶⁾の、住居跡が幾重にも切り合っている状況とは異なっている。居住域の占地する密度の違いは、一般に、生産域と居住域の違いなど、環境的な状況によるものと判断されるが、本調査地点がそれに対応するか、結論は3次調査を含めた次号以降に譲りたい。いずれにせよ、本調査地点は、古墳時代後半期ごろには、居住域としてはあまり利用されていない土地には間違いない。

A地点における笹貫式段階と考えられる柄鏡型の住居跡(SK4)は、比較的珍しい例である。いわゆるベッド状遺構と呼ばれるステップが竪穴側面の掘り込みに沿って作り出されており、その上面には深い土坑が認められ、形態とその深さから判断すれば、主柱穴であると考えられ、未発掘部分にも同様に存在するとすれば、4本の主柱建物であるかもしれない。竪穴の外側には、いくつかの柱穴が存在するが、これが支柱であるのかは判断ができなかった。

床面・ベッド状遺構上にも壁溝が認められる。SK4に近接する浅い土坑SK5・6は、SK4と切り合うことはなく、独立している。また、入口と考えられる掘り込み突出部と壁溝、そして屋根の想定からは、土堤の存在とSK5・6の存在が関わっているものと判断し、土堤をつくる際の掘り込みであるか、住居廃絶の際の掘穴であると判断した。

住居床面の製作工程は、まず粗く掘り込み(凹凸のまま)、その上に貼り床をしてフラットな床面を作り出し、その上で地床炉を設けている。また、炉は、住居中央部に位置し、3度のつくりかえがみられるが、鹿児島大学構内遺跡郡元団地に顕著な埋設土器は残されておらず、現状では、設置していたのかは、明らかにできなかった。

直裁的に考えるならば、南東部に位置する掘り込みの突出部が住居入口として認識できるが、その場合、南東

部にむけて入口をつくりだしていると考えられる。大学構内遺跡の他地点の住居跡は方形が多く、入口も判然としないものがほとんどであるが、今回の調査の、A地点SK4の入口の方向を根拠とした場合、方形住居跡もまた、そのほとんどが南東部に一辺をもち、住居軸にはほとんど大きなズレはない。したがって、可能性として、方形住居の入口もまた、南東部側にあるように思われる。

中摩浩太郎氏¹⁷⁾の一連の研究では、柄鏡形住居跡(II A)は、東原式段階(古墳時代前期)から辻堂原式段階(古墳時代中期)にかけての存在が知られているが、笹貫式には認識されていない。しかし、II B γ、VI B γタイプの住居跡は、方形掘り込みのなかに柄鏡形の掘り込みを持つものであるが、VI B γタイプは笹貫式段階に認められている。本調査区の柄鏡形住居跡(A地点SK4)の帰属時期は笹貫式段階と考えられるが、II Aの最終段階のタイプと捉えるか、VI B γタイプの地域的な変異であると捉えるか、現在、結論は見出せない。郡元団地N~T-7~10区(教育学部運動場)の発掘調査¹⁸⁾でも、類似した住居跡が検出されており、東原式~笹貫式段階の土器が出土している。

SK4付近の遺物接合状況を見ると、SK4以外とはほとんど接合せず、掘り込み内部と上層の4b層とのみ接合する((98)は、住居内出土遺物ではない)。これは、住居廃棄の際に、土堤などを破壊し、一気に埋め戻した結果ではないかと判断する。4b層包含層そのものの遺物は、最大15mは移動していることから判断すると(Fig.72)、SK4埋土中の遺物出土状況と接合状況は、単なる流れ込みによるものではない可能性が高い。ちなみに比較的フラットな層である2・3層の遺物もまた、大きく移動している様子が分かる(Fig.71)。

B地点のSD5-7は、直線的な溝であるが、遺物の出土量も少なく、また、水の流れている様子も認められない。したがって、何らかの区画をする溝であると判断した。

A・B地点における遺物のほとんどが、この時期に帰属するものである。甕、壺、大壺、鉢、高坏、埴が認められる。しかしながら、これらは小さな破片が多い。

土器は、特徴の明確なものほとんどが笹貫式土器であり、甕は、直状あるいは内湾気味の甕で、一条の突帯を貼付するものである。突帯には貼り付けの際の指頭圧痕が明瞭に残っている。壺は、いわゆる幅広突帯を胴上半部に貼付するもので、突帯の沈線文などによる加飾は、パリエーションがある。しかし、今回得られた資料は、沈線文によるもののみで、竹管による刺突文などは認められなかった。高坏は、坏部が碗状になるものが認められ、埴は平底資料が得られている。どちらも古墳時代後半期の年代が与えられるものである。

註

- 1)上村俊雄・金子千穂枝 1986「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』Ⅰ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 2)1995年、埋蔵文化財調査室の中村が、図書館職員よりコンテナ5箱分の遺物を譲り受けた。これは、1971年の図書館工事の際に出土したものであったという。職員の名前は記録されていないが、埋蔵文化財の保存を意識し、大切に保管していた同職員には敬意を表したい。同遺物は、現在図書館に保管されている。
- 3)本天道輝 1997「南部九州における脚台付甕の底部成形について」『人類史研究』第9号 人類史研究会
- 4)中村直子 2003「2 郡元団地M・N-4・5(サークル棟建設予定地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』17 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 5)河口貞徳 1951「一の宮遺蹟報告」『考古学雑誌』第37巻第4号 日本考古学会
- 6)出口浩ほか編 1996「北麓遺跡」鹿児島市教育委員会
- 7)本天道輝編 1986「鹿児島大学郡元団地内遺跡(J・7地点)」鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室
- 8)村上恭通・山村芳貴 2003「農耕具」『考古資料大観』第7巻 小学館
- 9)河口貞徳ほか 1976「下小路遺跡」『鹿児島考古』第11号 鹿児島県考古学会
- 10)河口貞徳 1976「入来遺跡」『鹿児島考古』第11号 鹿児島県考古学会
- 11)出口浩ほか編 1983「成川遺跡」鹿児島県教育委員会
- 12)6)と同じ
- 13)本天道輝 1996「入来遺跡(日置郡吹上町)採集の弥生土器とその位置づけ」『大河』第6号 大河同人
- 14)1)と同じ
- 15)中村直子 2001「鹿児島大学構内遺跡郡元団地I・J・K-3～5区発掘調査概要」『平成13年度鹿児島県考古学会研究発表要旨』
- 16)松永幸男・坪根伸也 1986「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」Ⅰ 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
本天道輝編 1986「鹿児島大学郡元団地内遺跡(J・7地点)」鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室 本年報の第1章「1 調査概要」の2001-2 郡元団地J-7・8区(理学部改修地)参照
- 17)中摩浩太郎 1999「南部九州古墳時代の竪穴住居類型の変異に関する一考察」『人類史研究』第11号 人類史研究会
- 18)中村直子 2001「付編 郡元団地M～T-7～10区(運動場)発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』15 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

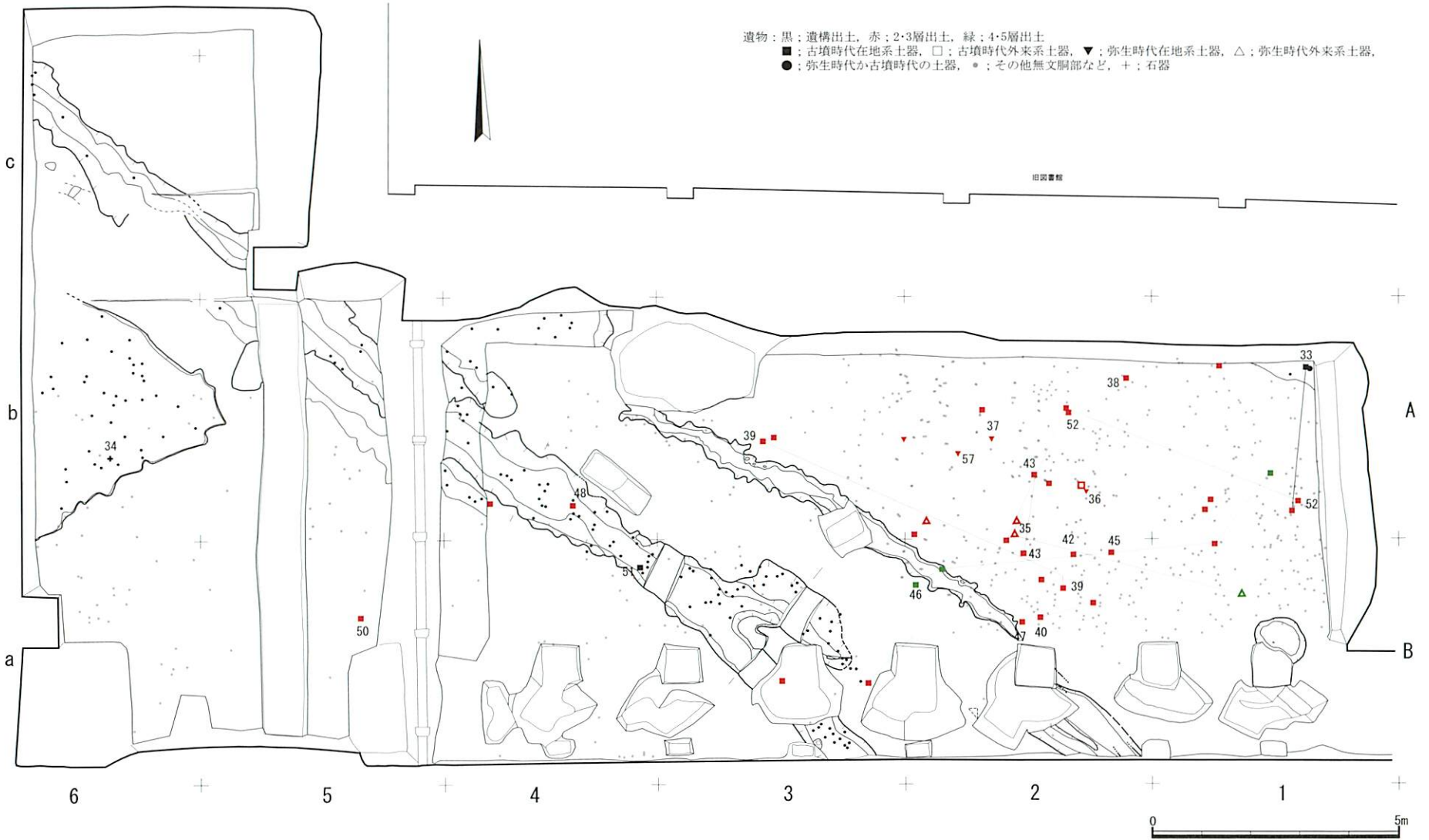
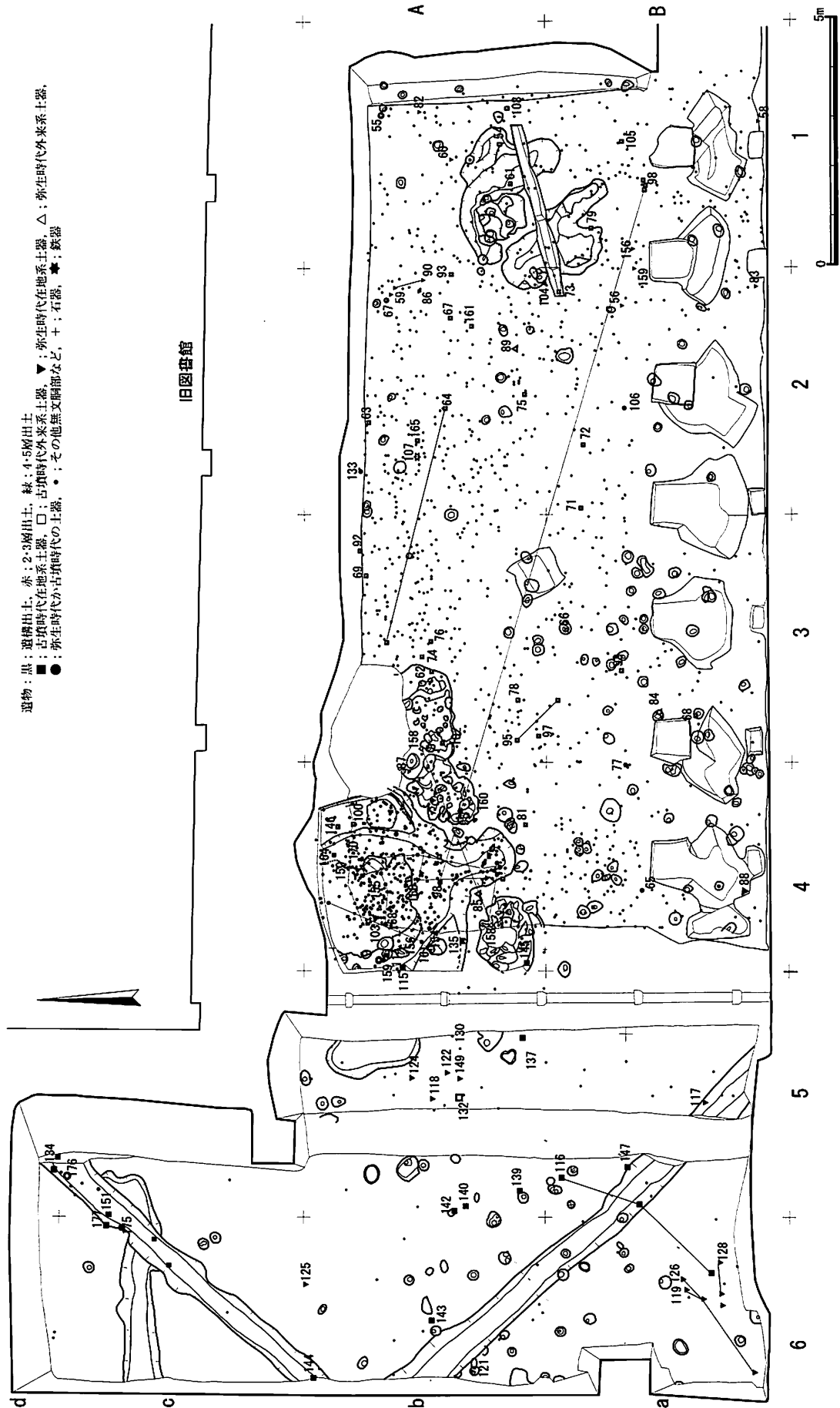


Fig.71 A・B地点2-3層遺物出土状況と接合状況(S=1/120)



Tab.38 A・B 地点遺物出土状況

時期区分	弥生時代中期					古墳時代					弥生か古墳	不 明	中世			近世		土 鐘	石 器	鉄 器	軽石製品	古 銭	計
	入来Ⅱ式土器	一の宮式土器	須玖式土器	黒髪式土器	不明	中津野式土器	東原式土器	笹貫式土器	不明	古式土師器系			須恵器	青磁・白磁	備前	薩摩	染付						
92-1	1層							10			1			4	1							16	
	2a層						1	2			1		1	4	6	1					1	18	
	2b層							6			3	1	1		4		1					16	
	3層			1		2			69		1			1								74	
	4層								6													6	
	4a層	3				5		4	104								1					117	
	4b層	4		1	1	11		3	58		8						1	1				88	
	5層																1					1	
	pit 18							1	1													2	
	pit 65								1													1	
	pit 68								1													1	
	SD 1								28													28	
	SD 2								1		1											2	
	SK 2								1													1	
	SK 4	2			1	1	1	3	1	28		3						1		1		42	
SK 5				1							1										2		
不明					1			1	2												4		
93-1	表探						1	2														3	
	不明	1																				1	
	pit 116									1												1	
	SK 4							8		1												9	
	不明							1														1	
	1層							1			1			2								4	
	2層									2			3	1	7	3						16	
	3b層							3														3	
	4層							1	33													34	
	4a層					1			24													25	
	4b層	3	1			14	1		1	105	1						1					128	
	5層								1													1	
	SD 2																1					1	
	SD 3								1													1	
	SD 5					1					1											2	
SD 6								3		1											4		
SK 2								1									1				2		
計	13	1	2	3	36	2	4	13	501	1	2	25	1	5		18	14	1	8	1	1	653	

※ 無文財物は除く。

付編2 郡元団地 L-6 区(中央図書館増築地 A 地点北壁)におけるプラント・オパール分析結果報告

宮崎大学 藤原宏志

先般 当該遺跡で採取した土壌試料のプラント・オパール定量分析結果が出ましたので、下記のとおり報告致します。

記

プラント・オパール定量分析結果

同上 図

1. 成川式土器包含層(3-4層)から、多量のイネ (*Oryza sativa*) が検出された。検出量からみて、この地でイネが生産された可能性が高いと判断される。
2. 3層ではヨシ (*Phragmites*) が検出されており、湿潤な堆積環境であったと推定されることから、水田稲作が営まれていた可能性が大きい。3bおよび4a層

はタケが多く、比較的乾燥した堆積環境であったと推定され、キビ族植物も検出されていることも合わせ考えると、この時代の稲作は畑作を想定するのが自然と思われる。

3. 3a-4a層で検出されたイネのプラント・オパール総量から、これらの時代に生産されたイネ総量 (10aあたり) を算出すると、約33.5t/10aとなる。当時の年間イネ総生産量を約100kg/10aとすると約330年間ほど稲作が行われたと推定される (ただし、当時の稲作が穂刈であったと仮定して)。

Tab.39 プラント・オパール定量分析結果

鹿兒島大学 遺跡における
プラント・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部 農作業管理学研究室

sampling block [L-6]
sampling date (2/17'93)

層名	植物体乾重 (t / 10 a . c m)						
	イネ (<i>O.sati.</i>)	イネ粉 (rice g.)	キビ族 (<i>Pani.</i>)	キビ族種実 (<i>Pani.seed</i>)	ヨシ (<i>Phrag.</i>)	タケ亜科 (<i>Bamb.</i>)	ウシクサ族 (<i>Andoro.</i>)
2	19.503	6.833	25.290	11.484	0.000	0.796	1.799
3a	6.715	2.353	2.144	0.973	2.435	0.337	1.089
3b	4.271	1.496	13.292	6.036	0.000	2.615	2.477
4a-1	1.535	0.538	12.743	5.787	0.000	3.593	1.727
4a-2	3.015	1.056	26.808	12.173	0.000	1.758	1.453
4b-1	0.314	0.110	5.207	2.364	0.000	0.819	1.985
4b-2	0.000	0.000	9.286	4.217	0.000	0.183	1.101
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.087	0.000

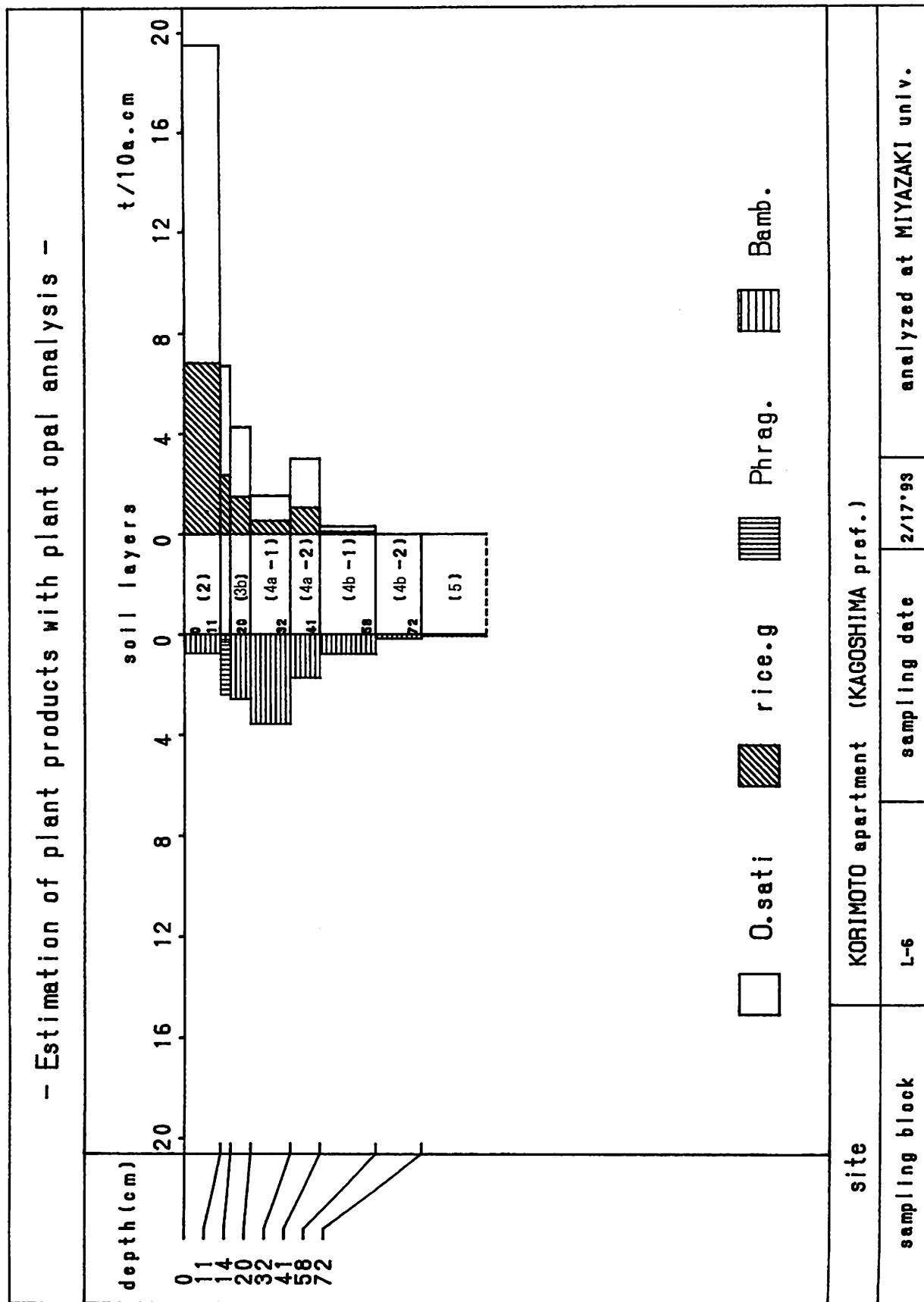


Fig.73 プラント・オパール定量分析結果

— プラント・オパール分析による生産量推定結果 —

鹿児島大学

[L-6] (2/17'93 sampling)

Tab.40 生産量推定結果

層名	深さ (cm)	層厚 (cm)	GB数 / g	植物名	PO / GB	PO数 / g	仮比重	PO数 / c c	地上部乾重 (t/10a.cm)	種実重 (t/10a.cm)	種実生産総量 (t/10a)
[2]	0	11	301228	イネ キヨシケ タケ ススキ	32 / 186	51824 16195 0 12956 11337	1.280	66335 20730 0 16584 14511	19.503 10.000 0.000 0.796 1.799	6.833 11.484	75.158 126.327
[3a]	11	3	307881	イネ キヨシケ タケ ススキ	13 / 191	20955 1612 3224 6448 8060	1.090	22841 1757 3514 7028 8785	6.715 1.000 2.435 0.337 1.089	2.353 0.973	7.058 2.920
[3b]	14	6	312318	イネ キヨシケ タケ ススキ	8 / 172	14526 10895 0 54474 19974	1.000	14526 10895 0 54474 19974	4.271 6.000 0.000 2.615 2.477	1.496 6.036	8.977 36.214
[4a-1]	20	12	318039	イネ キヨシケ タケ ススキ	3 / 190	5022 10043 0 71977 13391	1.040	5223 10445 0 74856 13927	1.535 6.000 0.000 3.593 1.727	0.538 5.787	6.455 69.439
[4a-2]	32	9	305579	イネ キヨシケ タケ ススキ	7 / 194	11026 23627 0 39379 12601	0.930	10254 21973 0 36622 11719	3.015 15.000 0.000 1.758 1.453	1.056 12.173	9.506 109.559
[4b-1]	41	17	308712	イネ キヨシケ タケ ススキ	1 / 217	1423 5691 0 22762 21340	0.750	1067 4268 0 17072 16005	0.314 4.000 0.000 0.819 1.985	0.110 2.364	1.868 40.195
[4b-2]	58	14	301831	イネ キヨシケ タケ ススキ	0 / 207	0 8749 0 4374 10207	0.870	0 7611 0 3806 8880	0.000 6.000 0.000 0.183 1.101	0.000 4.217	0.000 59.034
[5]	72	----	302698	イネ キヨシケ タケ ススキ	0 / 177	0 0 0 1710 0	1.060	0 0 0 1813 0	0.000 0.000 0.000 0.087 0.000	0.000 0.000	----- -----

付録2 都元団地L-6区(中央図書館増築地A地点北壁)におけるプラント・オパール分析

SUMMARY

This is the report of the archaeological excavations and surveys in Kagoshima University Korimoto Campus conducted by Kagoshima University Research Center for Archaeology in the fiscal year 2002 from April 2002 to March 2003. This volume also includes the report of the excavation, and plant opal analysis of samples from Area L-6 carried in 1992 to 1993 in Korimoto Campus.

Excavations in Korimoto Campus

The center made three rescue excavations in 2002. One is the excavation of the site of Faculty of Science Building(Area J-7·8) carried from March to October 2002. The excavation revealed the village that belonged to the late Kofun period (6-7C). The excavation of this village uncovered approximately 80 houses overlapped, many pits, and a ditch. Under the Kofun layer, we found a large ditch containing artifacts of the early middle Yayoi period. This means there was a village of that age.

Another excavation was made at the site in Faculty of Engineering Building(J·K-9~11) Korimoto Campus next to Area J-7·8 carried April to October 2002. This site is a paddy field in the early Yayoi to the 11th century.

The center also conducted a rescue excavation of the site in Area H-12·13 from March to August 2003 before the construction of Venture Business Laboratory(VBL). Eight ancient rivers were found. Rivers no.1 to 3 belong to the Ancient to the medieval periods. Rivers no.4 to 8 are belonging to the late Yayoi to the late Kofun periods. We found about 40 wooden piles used as the irrigation facilities in Rivers no.4-7. A sample of the pile was dated cal AD130 by C-14 dating. There found many shards, a stone reaping knife, arrow heads, and a whetstone.

Surveys in Korimoto and Sakuragaoka Campuses

24 surveys were conducted by the center in two campuses. The survey at Area I-8·9 and I-8~10 in Korimoto Campus revealed the same situation as that of Area J-7·8. Areas I-8·9 and I-8~10 are so important to require the future wide excavation for the reconstruction of human activities in the Yayoi to Kofun period in this region.

Appendix1: Excavation of Area L-6 in Korimoto Campus

The center excavated the site (Area L-6) of the central library before its extension from January to September 1993. The excavation revealed cultural remains and artifacts in the second to the fourth layers there. A house, three ditches and many pits were excavated on the surface of the fifth layer of the late Kofun period. Many sherds, stone arrowheads and stone tools were also found in the same layer. The house found here measures about 6m in diameter and 0.5-1.0m deep. A furnace is located in the central part of the floor. Red ochre is distributed on the floor. We also found three ditches west of the house, and many pits in the excavated area. Their functions are unknown. There found a lot of sherds, and various stone tools including a pumice implement, arrowheads and a reaping knife that belong to the middle Yayoi and the late Kofun periods. A socketed iron axe was also collected here.

Appendix2: Plant opal analysis of the samples from Area L-6 in Korimoto Campus

In Area L-6 in Korimoto Campus, we found a lot of the plant opals of rice (*Oryza sativa*) and those of *Phragmites* in the upper layers of the late Kofun period. In the lower layers of the same period, we found a lot of the plant opals of rice and those of bamboo and Pani. Pani seeds were also found in the same layers. According to the plant opal analysis, they cultivated land rice at first and then sifted to the wet rice cultivation.

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうじゅうはち							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18							
編著者名	新里貴之(編)							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL 099-285-7270 FAX 099-285-7271							
発行年月日	西暦2004年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面 積 (㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 こおりもとだんち 郡元団地 L-6区	かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっちょうめ 一丁目21番35号	4620		31° 34' 09"	130° 32' 42"	19930120~ 19930910	310	建物増築
所収遺跡名	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 L-6区	弥生 古墳 中近世	住居跡 溝状遺構 土塀 ピット		土器 石器 鉄斧 陶磁器		古墳時代後半期の 住居跡		

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18

2004年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL 099-285-7270

印刷 湧上印刷株式会社

鹿児島市樋之口町6-6

TEL 099-225-2727

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.18

CONTENTS

Chapter

- 1 Report of archaeological research in fiscal year 2002. 1
- 2 Report of rescue surveys 6

Appendix

- 1 Report of the excavation at Area L-6 in Korimoto Campus 25
- 2 Report of the plant opal analysis of excavated samples
from Area L-6 in Korimoto Campus 75

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2004